

【表紙】

【提出書類】 有価証券報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 2022年6月27日

【事業年度】 第77期(自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)

【会社名】 日本電計株式会社

【英訳名】 NIHON DENKEI CO.,LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 森田 幸哉

【本店の所在の場所】 東京都台東区上野5丁目14番12号

【電話番号】 03 - 5816 - 3551 (代表)

【事務連絡者氏名】 取締役管理本部長 秋山 昌彦

【最寄りの連絡場所】 東京都台東区上野5丁目14番12号

【電話番号】 03 - 5816 - 3551 (代表)

【事務連絡者氏名】 取締役管理本部長 秋山 昌彦

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部 【企業情報】

## 第1 【企業の概況】

## 1 【主要な経営指標等の推移】

## (1) 連結経営指標等

| 回次                            | 第73期       | 第74期        | 第75期       | 第76期       | 第77期       |
|-------------------------------|------------|-------------|------------|------------|------------|
| 決算年月                          | 2018年3月    | 2019年3月     | 2020年3月    | 2021年3月    | 2022年3月    |
| 売上高 (千円)                      | 94,990,658 | 100,646,494 | 93,368,166 | 82,669,514 | 91,857,312 |
| 経常利益 (千円)                     | 2,971,548  | 3,445,462   | 2,496,232  | 2,132,825  | 3,030,523  |
| 親会社株主に<br>帰属する当期純利益 (千円)      | 1,911,754  | 2,328,925   | 1,690,745  | 1,466,835  | 2,252,211  |
| 包括利益 (千円)                     | 2,307,534  | 2,014,914   | 1,496,997  | 1,676,966  | 2,849,986  |
| 純資産額 (千円)                     | 17,280,578 | 18,917,492  | 19,982,965 | 21,645,259 | 23,793,037 |
| 総資産額 (千円)                     | 53,784,464 | 55,520,787  | 51,974,593 | 50,959,802 | 56,642,733 |
| 1株当たり純資産額 (円)                 | 1,424.70   | 1,560.34    | 1,649.09   | 1,770.05   | 1,957.64   |
| 1株当たり<br>当期純利益 (円)            | 162.41     | 197.86      | 143.64     | 124.62     | 191.35     |
| 潜在株式調整後<br>1株当たり<br>当期純利益 (円) | -          | -           | -          | -          | -          |
| 自己資本比率 (%)                    | 31.2       | 33.1        | 37.3       | 40.9       | 40.7       |
| 自己資本利益率 (%)                   | 12.1       | 13.3        | 9.0        | 7.3        | 10.3       |
| 株価収益率 (倍)                     | 7.66       | 5.21        | 4.59       | 7.31       | 6.98       |
| 営業活動による<br>キャッシュ・フロー (千円)     | 2,253,113  | 2,930,367   | 3,672,401  | 4,573,836  | 539,214    |
| 投資活動による<br>キャッシュ・フロー (千円)     | 816,585    | 1,684,875   | 1,476,471  | 311,408    | 280,794    |
| 財務活動による<br>キャッシュ・フロー (千円)     | 3,084,780  | 2,066,875   | 2,330,914  | 2,237,384  | 1,467,378  |
| 現金及び現金同等物<br>の期末残高 (千円)       | 5,706,308  | 4,867,740   | 4,821,759  | 6,848,400  | 7,795,749  |
| 従業員数 (名)                      | 963        | 1,016       | 1,069      | 1,070      | 1,095      |

- (注) 1 潜在株式調整後1株当たり当期純利益は、潜在株式が存在しないため記載しておりません。  
2 従業員数は、就業人員数を表示しております。  
3 2022年1月1日付で、普通株式1株につき1.5株の株式分割を行っております。これに伴い、第73期の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、1株当たり純資産額及び1株当たり当期純利益を算定しております。  
4 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を第77期の期首から適用しており、第77期に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を適用した後の指標等となっております。

## (2) 提出会社の経営指標等

| 回次                            | 第73期             | 第74期             | 第75期           | 第76期             | 第77期             |
|-------------------------------|------------------|------------------|----------------|------------------|------------------|
| 決算年月                          | 2018年3月          | 2019年3月          | 2020年3月        | 2021年3月          | 2022年3月          |
| 売上高 (千円)                      | 83,785,146       | 88,242,495       | 80,283,227     | 69,935,071       | 78,054,848       |
| 経常利益 (千円)                     | 2,225,900        | 2,815,183        | 2,046,391      | 2,078,730        | 2,549,635        |
| 当期純利益 (千円)                    | 1,435,075        | 1,892,686        | 1,385,340      | 1,417,976        | 1,879,755        |
| 資本金 (千円)                      | 1,159,170        | 1,159,170        | 1,159,170      | 1,159,170        | 1,159,170        |
| 発行済株式総数 (千株)                  | 7,879            | 7,879            | 7,879          | 7,879            | 11,818           |
| 純資産額 (千円)                     | 14,345,559       | 15,734,701       | 16,547,857     | 17,858,592       | 19,156,033       |
| 総資産額 (千円)                     | 48,107,723       | 49,974,984       | 45,869,348     | 44,964,571       | 48,636,144       |
| 1株当たり純資産額 (円)                 | 1,218.75         | 1,336.79         | 1,405.89       | 1,517.26         | 1,627.62         |
| 1株当たり配当額 (円)                  | 42               | 50               | 50             | 65               | 70               |
| (内1株当たり<br>中間配当額)             | (13)             | (18)             | (20)           | (20)             | (30)             |
| 1株当たり<br>当期純利益 (円)            | 121.91           | 160.80           | 117.70         | 120.47           | 159.71           |
| 潜在株式調整後<br>1株当たり<br>当期純利益 (円) | -                | -                | -              | -                | -                |
| 自己資本比率 (%)                    | 29.8             | 31.5             | 36.1           | 39.7             | 39.4             |
| 自己資本利益率 (%)                   | 10.5             | 12.6             | 8.6            | 8.2              | 10.2             |
| 株価収益率 (倍)                     | 10.20            | 6.41             | 5.61           | 7.56             | 8.37             |
| 配当性向 (%)                      | 23.0             | 20.7             | 28.3           | 36.0             | 43.8             |
| 従業員数 (名)                      | 463              | 500              | 531            | 535              | 539              |
| 株主総利回り (比較指標：配当込み<br>TOPIX)   | 158.4<br>(115.9) | 136.1<br>(110.0) | 94.0<br>(99.6) | 130.7<br>(141.5) | 134.0<br>(144.3) |
| 最高株価 (円)                      | 2,797            | 2,020            | 1,556          | 1,434            | 1,997            |
| 最低株価 (円)                      | 1,062            | 1,145            | 941            | 898              | 1,208            |

- (注) 1 潜在株式調整後1株当たり当期純利益は、潜在株式が存在しないため記載しておりません。  
2 従業員数は、就業人員数を表示しております。  
3 最高・最低株価は、東京証券取引所JASDAQ(スタンダード)におけるものであります。  
4 2022年1月1日付で、普通株式1株につき1.5株の株式分割を行っております。これに伴い、第73期の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、1株当たり純資産額及び1株当たり当期純利益を算定しております。  
5 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を第77期の期首から適用しており、第77期に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を適用した後の指標等となっております。

## 2 【沿革】

| 年月       | 概要  |
|----------|---|
| 1950年9月  | 日本電計株式会社、資本金30万円にて東京都足立区千住緑町3丁目6番に設立。   |
| 1969年5月  | 本店所在地を東京都台東区上野5丁目14番12号に移転。   |
| 1970年4月  | 株式会社デンケイ(電子部品販売業)を全額出資により設立。  |
| 1988年7月  | 株式会社デンケイ合併。関東一円の電子部品の販売を強化するため合併する。   |
| 1990年9月  | シンガポール支店開設。東南アジア全域の顧客への営業活動を行なう拠点とする。   |
| 1991年10月 | 株式を社団法人日本証券業協会に店頭登録。  |
| 1992年7月  | 第一計測株式会社から営業権全部を譲受ける。   |
| 1996年7月  | NIHON DENKEI (MALAYSIA) SDN.BHD.(現 連結子会社)設立。                                  |
| 1997年5月  | NIHON DENKEI (THAILAND) CO.,LTD.(現 連結子会社)設立。                                  |
| 1999年4月  | インテック計測株式会社に資本参加。   |
| 2003年8月  | ND KOREA CO.,LTD.(現 連結子会社)設立。   |
| 2004年8月  | 株式会社アルファ科学を吸収合併する。  |
| 2004年12月 | 社団法人日本証券業協会への店頭登録を取消し、株式会社ジャスダック証券取引所に株式を上場。                                  |
| 2005年3月  | アイコーエンジニアリング株式会社を連結子会社とする。  |
| 2005年4月  | インテック計測株式会社を連結子会社とする。   |
| 2006年1月  | 日本電計(香港)有限公司(現 連結子会社)設立。  |
| 2006年6月  | 株式会社システム計測を連結子会社とする。  |
| 2006年7月  | 株式会社サープレス(現 持分法非適用関連会社)に資本参加。   |
| 2006年8月  | NIHON DENKEI VIETNAM CO.,LTD.(現 連結子会社)設立。                                     |
| 2006年10月 | 電計科技研発(上海)有限公司設立。   |
| 2007年6月  | 上海電恵測試儀器設備有限公司を子会社とし、社名を電計貿易(上海)有限公司(現 連結子会社)と変更。                             |
| 2007年7月  | 株式会社風間電機興業を吸収合併する。  |
| 2007年11月 | ユウアイ電子株式会社を連結子会社とする。  |
| 2008年3月  | NIHON DENKEI INDIA PRIVATE LTD.(現 連結子会社)設立。                                   |
| 2010年4月  | ジャスダック証券取引所と大阪証券取引所の合併に伴い、大阪証券取引所(JASDAQ市場)に株式を上場。                            |
| 2010年10月 | 大阪証券取引所ヘラクレス市場、同取引所JASDAQ市場及び同取引所NEO市場の各市場の統合に伴い、大阪証券取引所JASDAQ(スタンダード)に株式を上場。 |
| 2011年11月 | PT.NIHON DENKEI INDONESIA(現 連結子会社)設立。   |
| 2012年7月  | TAIWAN DENKEI SOLUTION CO.,LTD.(現 連結子会社)設立。                                   |
| 2013年7月  | 大阪証券取引所と東京証券取引所の現物市場の統合に伴い、東京証券取引所JASDAQ(スタンダード)に株式を上場。                       |
| 2013年9月  | NIHON DENKEI PHILIPPINES, INC.(現 連結子会社)設立。                                    |
| 2014年6月  | 未来B計画株式会社(現 連結子会社)設立。   |
| 2014年7月  | インテック計測株式会社清算。  |
| 2016年4月  | 株式会社エイリイ・エンジニアリングを連結子会社とする。   |
| 2017年2月  | 株式会社システム計測を連結子会社から除外。   |
| 2017年9月  | 電計科技研発(上海)有限公司から電計科技研発(上海)股份有限公司(現 連結子会社)に組織変更。                               |
| 2017年10月 | DENKEI CORPORATION AMERICAS(現 連結子会社)設立。                                       |
| 2018年1月  | 電計科技研発(上海)股份有限公司が、中国の店頭登録市場にあたる「新三板」に株式を上場。                                   |
| 2018年11月 | JQA CALIBRATION VIETNAM CO.,LTD.(現 持分法適用関連会社)設立。                              |
| 2020年1月  | 新栄電子計測器株式会社を連結子会社とする。   |

| 年月       | 概要                          |
|----------|-----------------------------|
| 2020年5月  | 電計科技研発（蘇州）有限公司（現 連結子会社）設立。  |
| 2020年11月 | 電計科技発展（上海）有限公司（現 連結子会社）設立。  |
| 2021年10月 | 電計測控科技（厦門）有限公司（現 非連結子会社）設立。 |

（注）2022年4月4日に東京証券取引所の市場区分の見直しによりJASDAQ（スタンダード）からスタンダード市場へ移行しております。

### 3 【事業の内容】

当社グループ(当社及び当社の関係会社)は、当社、連結子会社19社、関連会社2社及び非連結子会社1社並びにその他の関係会社1社により構成されております。

当社グループは主として、電子計測器等の販売及び修理、校正等を行っており、国内においては当社及び子会社が、中国においては電計貿易(上海)有限公司、その他アジア地域においてはその他の現地法人が、それぞれ担当しております。

現地法人はそれぞれ独立した経営単位であり、取扱う商品について各地域の包括的な戦略を立案し、事業活動を展開しております。

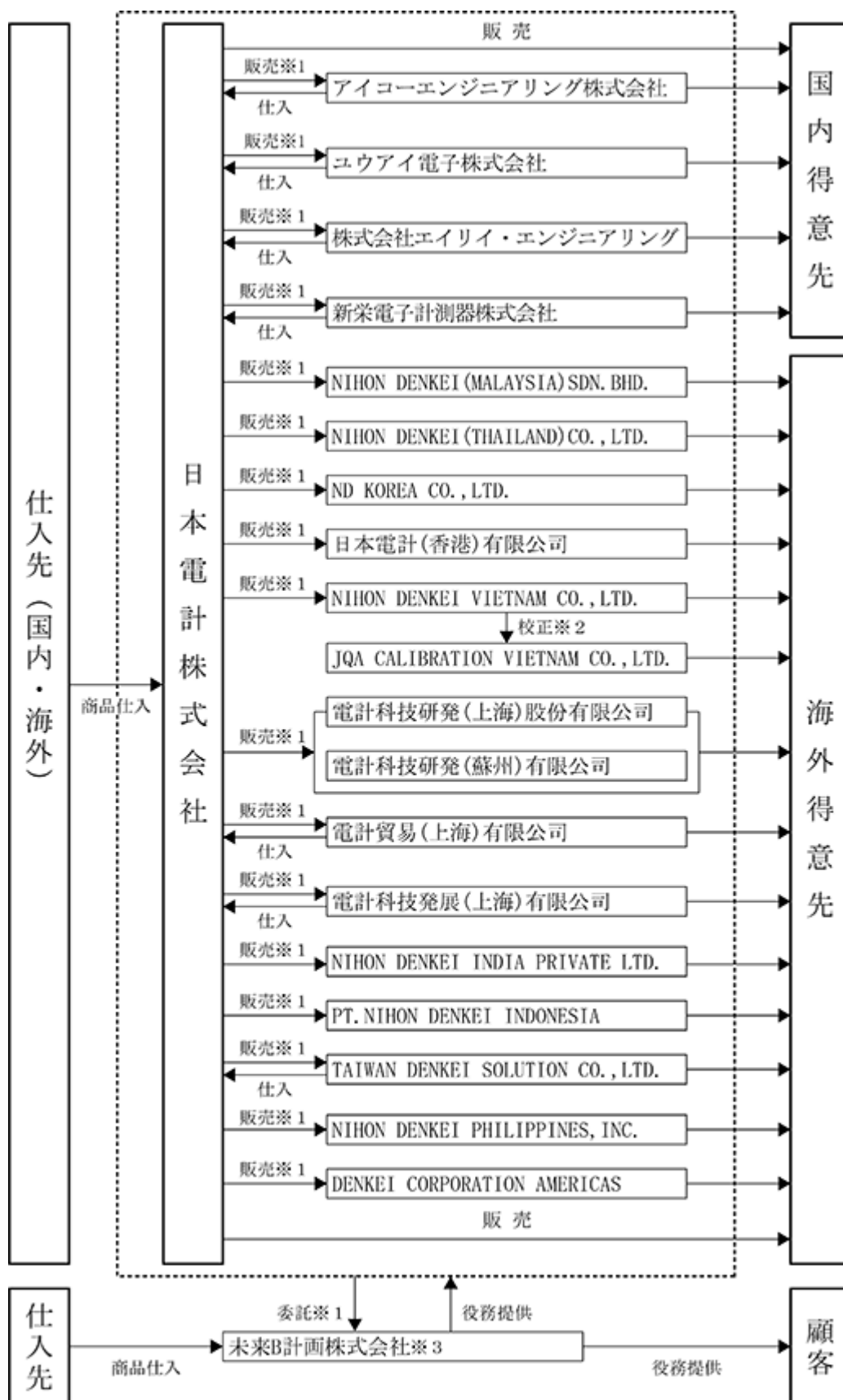
したがって、当社グループのうち、当社及び連結子会社は、販売及び修理、校正等のサービス体制を基礎とした地域別のセグメントから構成されており、「日本」「中国」東南アジア等の「その他」の3つを報告セグメントとしております。

「日本」・・・当社、アイコーエンジニアリング株式会社、ユウアイ電子株式会社、株式会社エイリイ・エンジニアリング、未来B計画株式会社、新栄電子計測器株式会社

「中国」・・・電計貿易(上海)有限公司、電計科技研発(上海)股份有限公司、日本電計(香港)有限公司  
電計科技研発(蘇州)有限公司、電計科技発展(上海)有限公司

「その他」・・・NIHON DENKEI (MALAYSIA) SDN.BHD.、NIHON DENKEI (THAILAND) CO.,LTD.、  
ND KOREA CO.,LTD.、NIHON DENKEI VIETNAM CO.,LTD.、NIHON DENKEI INDIA PRIVATE LTD.、  
PT.NIHON DENKEI INDONESIA、TAIWAN DENKEI SOLUTION CO.,LTD.、  
NIHON DENKEI PHILIPPINES, INC.、DENKEI CORPORATION AMERICAS

以上の当社グループの主たる会社について図示すると次のとおりであります。



(注) ※1 連結子会社  
 ※2 持分法適用関連会社  
 ※3 主に旅行代理店として業務を行っております。

## 4 【関係会社の状況】

2022年3月31日現在

| 名称   | 住所                     | 資本金<br>又は出資金                 | 主要な事業<br>の内容                               | 議決権の所有<br>〔又は被所有〕<br>割合 (%) | 関係内容  |
|--|------------------------|------------------------------|--|-----------------------------|---|
| (連結子会社)<br>NIHON DENKEI<br>(MALAYSIA) SDN.BHD. | マレーシア<br>クアラルン<br>プールの | 千マレーシア<br>リングギット<br>3,000    | 各種電子計測器の販売、修<br>理、校正                       | 100.00                      | 当社取扱電子計測器の販売を<br>している。<br>役員の兼任等1名  |
| NIHON DENKEI<br>(THAILAND) CO.,LTD.(注)1        | タイ<br>バンコク             | 千タイバーツ<br>10,000             | 〃  | 48.99                       | 当社取扱電子計測器の販売を<br>している。<br>役員の兼任等1名  |
| ND KOREA CO.,LTD.                              | 韓国<br>スウォン             | 千韓国ウォン<br>350,000            | 〃  | 85.71                       | 当社取扱電子計測器の販売を<br>している。<br>役員の兼任等3名  |
| 日本電計(香港)有限公司                                   | 中国<br>香港               | 千香港ドル<br>200                 | 〃  | 100.00                      | 当社取扱電子計測器の販売を<br>している。<br>役員の兼任等2名  |
| NIHON DENKEI<br>VIETNAM CO.,LTD.               | ベトナム<br>ハノイ            | 千ベトナムドン<br>18,878,140        | 〃  | 100.00                      | 当社取扱電子計測器の販売を<br>している。<br>役員の兼任等無   |
| 電計科技研発(上海)<br>股份有限公司<br>(注)2,3                 | 中国<br>上海               | 千元<br>42,488                 | 研究開発サポート・試験技<br>術の提供                       | 56.23<br>(0.23)             | 研究機関、顧客等の研究開発<br>をサポートする計測手法、試<br>験技術を提供している。<br>貸付金122,410千円がある。<br>役員の兼任等3名 |
| 電計貿易(上海)<br>有限公司<br>(注)2,5                     | 中国<br>上海               | 千元<br>42,926                 | 各種電子計測器の販売、修<br>理、校正                       | 100.00                      | 当社取扱電子計測器の販売を<br>している。<br>貸付金244,820千円がある。<br>役員の兼任等3名                        |
| NIHON DENKEI<br>INDIA PRIVATE LTD.(注)3         | インド<br>グルガオン           | 千インド<br>ルピー<br>99,000        | 〃  | 100.00<br>(0.03)            | 当社取扱電子計測器の販売を<br>している。<br>役員の兼任等1名  |
| PT.NIHON DENKEI<br>INDONESIA<br>(注)3           | インドネシア<br>ジャカルタ        | 千インドネシア<br>ルピア<br>10,243,200 | 〃  | 100.00<br>(0.42)            | 当社取扱電子計測器の販売を<br>している。<br>役員の兼任等3名  |
| TAIWAN DENKEI SOLUTION<br>CO.,LTD.             | 台湾<br>台北市              | 千台湾ドル<br>30,000              | 〃  | 100.00                      | 当社取扱電子計測器の販売を<br>している。<br>役員の兼任等3名  |
| NIHON DENKEI<br>PHILIPPINES, INC.              | フィリピン<br>ラグナ           | 千フィリピン<br>ペソ<br>30,000       | 〃  | 100.00                      | 当社取扱電子計測器の販売を<br>している。<br>役員の兼任等1名  |
| DENKEI CORPORATION<br>AMERICAS                 | アメリカ<br>シカゴ            | 千米ドル<br>2,500                | 〃  | 100.00                      | 当社取扱電子計測器の販売を<br>している。<br>役員の兼任等1名  |
| 電計科技研発(蘇州)<br>有限公司<br>(注)3                     | 中国<br>蘇州               | 千元<br>6,000                  | 研究開発サポート・試験技<br>術の提供                       | 100.00<br>(100.00)          | 研究機関、顧客等の研究開発<br>をサポートする計測手法、試<br>験技術を提供している。<br>役員の兼任等無                      |
| 電計科技発展(上海)<br>有限公司                             | 中国<br>上海               | 千元<br>19,726                 | 各種電子計測器の販売、修<br>理、校正                       | 100.00                      | 当社取扱電子計測器の販売を<br>している。<br>貸付金244,820千円がある。<br>役員の兼任等3名                        |
| アイコーエンジニアリング<br>株式会社                           | 大阪府<br>東大阪市            | 千円<br>50,000                 | 荷重測定器、各種耐久試験<br>機等の電子計測機器・精密<br>測定機器の製造・販売 | 100.00                      | 荷重測定器、耐久試験機等の<br>製造をしている。<br>役員の兼任等無  |
| ユウアイ電子株式会社                                     | 埼玉県<br>川越市             | 千円<br>20,000                 | 各種電子計測器の修理、校<br>正                          | 100.00                      | 当社取扱電子計測器の修理、<br>校正をしている。<br>役員の兼任等1名   |
| 株式会社<br>エイリイ・エンジニアリン<br>グ                      | 埼玉県<br>飯能市             | 千円<br>100,000                | 宇宙・航空機に搭載される<br>通信機器やアンテナ等の製<br>造・修理、校正    | 100.00                      | 通信機器・アンテナ等の製<br>造・修理、校正をしている。<br>役員の兼任等無                                      |



| 名称   | 住所          | 資本金<br>又は出資金          | 主要な事業<br>の内容                            | 議決権の所有<br>〔又は被所有〕<br>割合 (%) | 関係内容  |
|--|-------------|-----------------------|---|-----------------------------|---|
| 未来B計画株式会社  | 東京都<br>台東区  | 千円<br>99,000          | 服飾品等の製造・販売及び<br>旅行代理店                   | 100.00                      | 服飾品等の製造・販売及び旅<br>行代理店をしている。<br>貸付金30,000千円がある。<br>役員の兼任等無 |
| 新栄電子計測器株式会社  | 神奈川県<br>藤沢市 | 千円<br>14,000          | 監視システム・電子計測機<br>器の製造・販売                 | 100.00                      | 監視システム・電子計測機<br>器の製造・販売をしている。<br>役員の兼任等1名                 |
| (持分法適用関連会社)<br>JQA CALIBRATION<br>VIETNAM CO.,LTD. | ベトナム<br>ハノイ | 千ベトナムドン<br>24,000,000 | 計測機器の校正サービス、<br>計測機器に関する教育・セ<br>ミナー事業等  | 49.00                       | 計測機器の校正サービスをし<br>ている。<br>役員の兼任等無                          |
| (その他の関係会社)<br>あいホールディングス<br>株式会社 (注)4              | 東京都<br>中央区  | 千円<br>5,000,000       | 傘下子会社及びグループの<br>経営管理並びにそれに付帯<br>する業務の遂行 | [19.97]                     | 役員の兼任等無   |

(注) 1 持分は100分の50以下ではありますが、実質的に支配しているため子会社としたものであります。

2 特定子会社であります。

3 「議決権の所有〔又は被所有〕割合」欄の( )は間接所有割合で内数であります。

4 有価証券報告書を提出しております。

5 電計貿易(上海)有限公司については、売上高(連結会社相互間の内部売上高を除く。)の連結売上高に占める割合が10%を超えております。

主要な損益情報等 (1) 売上高 11,777,604千円  
(2) 経常利益 371,325千円  
(3) 当期純利益 276,767千円  
(4) 純資産額 2,759,476千円  
(5) 総資産額 6,403,213千円

## 5 【従業員の状況】

### (1) 連結会社の状況

2022年3月31日現在

| セグメントの名称 | 従業員数(名) |
|----------|---------|
| 日本       | 625     |
| 中国       | 281     |
| その他      | 143     |
| 全社(共通)   | 46      |
| 合計       | 1,095   |

- (注) 1 従業員数は就業人員数であります。  
2 全社(共通)は、総務及び経理等の管理部門の従業員であります。

### (2) 提出会社の状況

2022年3月31日現在

| 従業員数(名) | 平均年齢(歳) | 平均勤続年数(年) | 平均年間給与(千円) |
|---------|---------|-----------|------------|
| 539     | 41.9    | 14.4      | 6,074      |

| セグメントの名称 | 従業員数(名) |
|----------|---------|
| 日本       | 485     |
| その他      | 8       |
| 全社(共通)   | 46      |
| 合計       | 539     |

- (注) 1 従業員数は就業人員数であります。  
2 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。  
3 全社(共通)は、総務及び経理等の管理部門の従業員であります。

### (3) 労働組合の状況

労働組合は結成されておりませんが、労使関係は円満に推移しております。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【経営方針、経営環境及び対処すべき課題等】

文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において、当社グループが判断したものであります。

#### (1) 当社グループの経営の基本方針

顧客企業の喜びを通して、その一層の発展に貢献する、信頼されるエクセレントパートナーになる。

公正にして明朗な社会の実現に向けて、尊敬されるベスト・コンプライアンス（法令遵守）カンパニーになる。

地球環境の回復と維持保全を図る、生きている地球のグリーンパートナーになる。

最先端技術の発展と新製品の開発・生産に寄与できる、ボランティア（自発的貢献）・グローバルカンパニーになる。

活力と企業価値を高め、社員にとって働き甲斐のある、健全経営のヘルシーカンパニーになる。

#### (2) 目標とする経営指標

当社グループは、代表的な経営指標である自己資本利益率（ROE）10%以上を目標としております。

#### (3) 当社グループを取り巻く経営環境と中期的な経営戦略

我が国経済は、新型コロナウイルスの変異株の出現により断続的に緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が発令され行動抑制を強いられました。ワクチン接種の進展により経済活動も回復の兆しを見せました。海外でもいち早くワクチン接種が進化した欧米や中国を主体に景気の回復が進みました。一方、コロナ禍における半導体等部品不足がサプライチェーンの混乱を招き、経済活動を押し下げる要因になっております。また米中貿易摩擦やロシアのウクライナ侵攻により、半導体不足の更なる深刻化やエネルギー、資源価格の高騰など、今後の世界経済の見通しは不透明な状況となっております。

当社グループが属する電子計測器、電源機器、環境試験機器等の業界におきましては、当社の主要ユーザーである自動車業界において、半導体不足の影響により減産や工場休止といった生産調整が続いておりますが、世界的な脱炭素化の流れを受け、電気自動車や燃料電池などの新エネルギー開発や、ADAS・自動運転の技術開発は引き続き積極的な投資がなされております。また電子・電機業界ではデジタルトランスフォーメーション（以下DXといひます）に代表されるように様々な分野で電子化・デジタル化の流れが加速しており、5Gに関連する社会インフラの整備や、IoT等の投資が増加しております。

このような状況のもと、当社グループは「“INNOVATION2030” 2021～2030 成長戦略について」（2020年6月24日発表）、並びに「“INNOVATION2030 Ver1.0” 中期経営計画」（2021年6月1日発表）に基づき、テクニカル商社への転換を図り収益性を高めるため、成長市場への積極的な取り組みやシステム提案力の強化を図ってまいります。2022年4月1日には事業推進統括部を新設して傘下の組織を再編しお客様の幅広いニーズにお応えするシステム提案型営業に注力すると共に、海外営業拠点網を活用しお客様のニーズをスピーディーかつワールドワイドに把握しお応えする体制も整備してまいります。

世界経済の高まる不透明感から予断を許さない状況ではありますが、世界的に経済活動が回復すると仮定し、2023年3月期につきましては、売上高1,000億円、営業利益34億円、経常利益35億円、親会社株主に帰属する当期純利益25億円を想定しております。なお、新型コロナウイルス等の外部環境によって業績見込みは大きく変動する可能性があります。

#### (4) 当社グループの優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題

世界経済の不透明感が高まっていますが、自動車業界ではEVや燃料電池、ADAS・自動運転の開発に向けた積極的な投資が引き続き見込まれ、電子・電機業界でもDX実現に向けた5Gの環境整備やIoT分野等への積極的な投資が想定されます。

こうした環境のなか、当社グループでは、2022年4月1日より事業推進統括部を新設し、その傘下にモビリティ市場推進部、ソリューション推進部に加え、施工管理部、クロスエンジニアリング部、NI事業開発部を新たに組織化し、様々な分野のお客様の幅広いニーズにお応えするシステム提案型営業に注力してまいります。

また、中国、タイ、ベトナム、シンガポール、マレーシア、フィリピン、インドネシア、インド、台湾、韓国、アメリカなどの営業拠点を活用してお客様のニーズをスピーディーかつワールドワイドに把握し、お客様のニーズにお応えできる体制を整備してまいります。

社内のDX化を推進し、BtoBビジネスやデータ活用による新たなビジネスチャンスの創設等を図ってまいります。また、新たな人事制度の構築により社員のレベルアップとテクニカル商社への転換に向けた有能な技術系人材の確保にも注力してまいります。システム化や業務フロー見直しによる効率化を進め、利益の確保に努め

てまいります。

収益力の増強と管理体制の強化の両立を目指し、今後も業界のリーディングカンパニーとして精励する所存であります。

## 2 【事業等のリスク】

有価証券報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、経営者が連結会社の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に重要な影響を与える可能性があると認識している主要なリスクは以下のとおりであります。

なお、文中における将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものであります。

### (1) 市場経済状況

当社グループの営業収入における重要な部分を占める電子計測器の需要は、当社グループが製品を販売している国または地域経済の影響を受けます。従いまして、当社グループが製品を販売している主要市場である電機業界や自動車業界における景気後退及びそれに伴う需要の縮小は、設備投資計画に影響を与え、当社グループの業績や経営成績に悪影響を与えるリスクがあります。

これらのリスクを回避するため、自動車業界では自動運転に関する技術開発や安全性試験、環境試験関連の設備ニーズ、電機業界では次世代通信5Gに向けての設備ニーズやIoT等新たな技術開発に関するニーズを積極的に取り込む営業活動を展開しております。また、システム案件の取り組みに注力することにより業績悪化リスクの最小化に取り組んでおります。

### (2) 国際紛争等のリスク

当社グループで取り扱う電子計測器や環境試験機等が多く使われる、電機業界や自動車業界では、製品やその部品の生産が世界に分散しており、サプライチェーンは複雑に絡み合っております。中国への製造拠点の集中を避けるため、アセアン地域に製造拠点を新たに設置したり、移設したりする動きも見られます。米中間の貿易摩擦や世界の各地での紛争で、サプライチェーンが崩れ、当社グループの業績や経営成績に影響を与えるリスクがあります。

当社グループでは、主に日系企業の海外進出に対応できるよう、中国、アセアン諸国、インド、アメリカ等に現地法人を設立し、ユーザーの海外生産拠点のシフトにも弾力的に対応できる販売拠点網を構築し、リスクの最小化に努めております。

### (3) 新型コロナウイルス感染症等のリスク

新型コロナウイルス感染症拡大のようなパンデミックや大規模な自然災害等の異常事態が当社グループの想定を超える規模で発生し、事業運営が困難になった場合、当社グループの業績と財政状態に大きな影響を与える可能性があります。

当社グループでは、本部のオフィスの分散化、テレワーク、時差出勤、自家用車通勤等感染防止に向けた諸施策を実施しております。また、従業員の行動履歴の把握、異常事態発生時の対応マニュアル作成等を実施しており、こうしたリスクの回避に努めております。

### (4) 価格競争

電子計測器の卸売業界においても、厳しい価格競争は例外ではなく、競争の激化により、適正な粗利益が縮小する環境下においては、当社グループが収益性を保つことができなくなる可能性があります。

ユーザーのニーズにスピーディーかつ正確に応えることで付加価値の高いサービスを追及してまいります。また、ユーザーの幅広いニーズに応えるため、粗利益率の高い海外製品の取り扱いの増強に取り組むことで収益性を確保してまいります。

### (5) 海外での事業展開

当社グループは、東アジアでは中国を中心に積極的に拠点を設立している他、アセアン地域では、一国2拠点を目標に駐在所や現地法人を設立し、事業を展開しておりますが、現地の法的規制、慣習、国際情勢の変化等に起因する予測不能な事態が発生したような場合、当社グループの業績と財務状況に影響が及び可能性があります。

現地での税務コンサルタント、監査法人、弁護士事務所からの情報収集に努めており、現地の法的規制、慣習、国際情勢の変化等に起因する予測不能な事態が発生した場合に速やかに対応できる体制の構築に努めております。

(6) 為替のリスク

当社グループの海外での事業展開に伴い、日本から商品を輸出する取引が中心となります。売掛金や入金が必要となる場合が多く、円と米ドルの為替の急激な変動によっては売掛金の評価を含め、為替差損が発生する場合があります。当社グループの業績と財務状況に影響を及ぼす可能性があります。

海外との取引における為替リスクを回避するため、基幹システムを為替変動に対応できるように変更したほか、受注と売上時の適用レートの差をできるだけ少なくするため見積書の有効期間の短縮、外貨預金の運用で為替差益を確保するオペレーションの実施等を行っております。

(7) 与信管理

当社グループの販売先は、大企業から中小企業まで約10,000社程度に達し、また取引上そのほとんどが信用取引であります。景気の状態が悪化した場合、倒産する企業が出てくることが予想されます。倒産に伴う不良債権の発生は、当社グループの業績と財務状況に悪影響を与える可能性があります。

販売先の企業情報をベースとして、各社に販売限度となる与信限度を設定し、売掛債権の徹底した管理を行っている他、大口案件については個別に回収条件や取引条件を検討しており、不良債権の発生リスクの減少に努めております。

(8) 与信管理コンピュータシステム

売上管理、支払管理等をコンピュータ処理しており、1日の取引件数は、平均約10,000件程度に達しております。コンピュータのダウン等の異常事態が発生した場合に、営業活動を停止せざるを得ないリスクがあります。これらの事態は、当社グループの業績や経営成績に影響を与えるリスクがあります。

社内のサーバによるデータ管理をやめ、大手システムインテグレーターのデータセンターに移行し、地震や洪水等の自然災害からコンピュータシステムの保護を強化するとともに、毎日のデータのバックアップを行っております。このように、停電や突然の障害に対応できるシステムを構築して、コンピュータ関連の異常事態発生によるリスクの回避、軽減に努めております。

(9) 法的規制等の強化

外国為替令及び輸出貿易管理令等により、輸出管理規制が強化されております。当社グループも取引先の中国を中心とした海外進出が積極化するなかで、計測機器類の輸出も増大する傾向にあります。米中貿易摩擦の激しくなる中で、輸出できる製品や相手先が急遽限定されるなど、日本政府による法令も逐次変更される事態が発生しております。法令違反が発生すれば、貿易業務に支障が生じ、当社グループの業績と財務状況に悪影響を与える可能性があります。

外国為替令及び輸出貿易管理令等による輸出管理規制の強化に対応するため、貿易管理室の人員の増加とレベルアップを図っております。また、貿易実務に直接従事する社員の教育にも力を入れており、輸出管理規制に速やかに且つ正確に対応できる体制を構築しております。

(10) 優秀人材の確保及び人材育成

当社グループの将来の成長と成功は、ユーザー企業のエンジニアやキーマンのニーズに的確に対応できる幅広い商品知識と情報収集力を持った優秀な営業マンの確保、育成へ依存する部分が大きく、その確保・育成ができなかった場合、当社グループの業績と財務状況及び将来の成長に影響が及ぶ可能性があります。また、優れた営業ノウハウを持った有能な人材を確保することは、採用コストと人件費を増大させる可能性があり、既存従業員の育成では、継続的な研修コストを増大させる可能性があります。そして、これらのコストの増加は、当社グループの業績と財務状況に影響を及ぼす可能性があります。

新卒の定期採用に加え、営業所の人材ニーズに適応した多種多彩な人材の中途採用も積極的に進めております。また、女性の営業部門への登用も進めております。ユーザー企業のエンジニアのニーズに対応できるレベルの高い人材を確保することは長期的な成長にとって不可欠であり、社内教育の充実を図っております。

また、優秀な人材確保のためには処遇も重要であることから、賃金制度、勤務体制等働き方の改革を積極的に進め魅力ある職場づくりに努めております。

### 3 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

#### (1) 経営成績等の状況の概要

当連結会計年度における当社グループ（当社及び連結子会社）の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フロー（以下「経営成績等」という。）の状況の概要は以下のとおりであります。

##### 財政状態及び経営成績の状況

当連結会計年度における我が国経済は、新型コロナウイルスの変異株の出現により断続的に緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が発令され行動抑制を強いられましたが、ワクチン接種の進展により経済活動も回復の兆しを見せました。海外でもいち早くワクチン接種が進展した欧米や中国を主体に景気の回復が進みました。一方、コロナ禍における半導体等部品不足がサプライチェーンの混乱を招き、経済活動を押し下げる要因になっております。また米中貿易摩擦やロシアのウクライナ侵攻により、半導体不足の更なる深刻化やエネルギー、資源価格の高騰など、今後の世界経済の見通しは不透明な状況となっております。

当社グループが属する電子計測器、電源機器、環境試験機器等の業界におきましては、当社の主要ユーザーである自動車業界において、半導体不足の影響により減産や工場休止といった生産調整が続いておりますが、世界的な脱炭素化の流れを受け、電気自動車や燃料電池などの新エネルギー開発や、ADAS・自動運転の技術開発は引き続き積極的な投資がなされております。

また電子・電機業界ではデジタルトランスフォーメーション（以下DXといいます）に代表されるように様々な分野で電子化・デジタル化の流れが加速しており、5Gに関連する社会インフラの整備や、IoT等の投資が増加しております。

このような状況のもと、当社グループは「“INNOVATION2030” 2021～2030 成長戦略について」（2020年6月24日発表）、並びに「“INNOVATION2030 Ver1.0” 中期経営計画」（2021年6月1日発表）に基づき、テクニカル商社への転換を図り収益性を高めるため、成長市場への積極的な取り組みやシステム提案力の強化を図ってまいりました。

その結果、個別では売上高78,054百万円（前年同期比11.6%増）となり、粗利益率も前年同期比0.11%増加しました。増収効果により売上総利益は前年同期比1,102百万円増加しました。経費面では賃金引上げにより人件費が増加し、またDX化に伴うシステム投資や経営基盤を強化するためのコンサル費用を計上しましたが、営業利益は2,212百万円（前年同期比505百万円増）となりました。また子会社からの配当金が減少したものの、円安進行による為替差益が増加し、経常利益は2,549百万円（前年同期比470百万円増）となりました。

国内子会社では、旅行業の未来B計画株式会社がコロナ禍で業績が低調であったものの、校正サービスを請負うユウアイ電子株式会社や各種試験機器の製造を担うアイコーエンジニアリング株式会社が堅調な業績を確保しました。海外子会社では、新型コロナウイルスの影響を受けた米国、インドの販売子会社と、中国で受託試験場を運営する子会社の業績は苦戦を強いられましたが、それ以外の販売子会社は総じて堅調に推移し、増収増益となりました。

以上の結果、当連結会計年度の売上高は91,857百万円（前年同期比11.1%増）となりました。営業利益は2,664百万円（前年同期比772百万円増）、経常利益は3,030百万円（前年同期比897百万円増）、親会社株主に帰属する当期純利益は2,252百万円（前年同期比785百万円増）となりました。

当連結会計年度末の資産合計は、前連結会計年度末に比べ5,682百万円増加し、56,642百万円となりました。

当連結会計年度末の負債合計は、前連結会計年度末に比べ3,535百万円増加し、32,849百万円となりました。

当連結会計年度末の純資産合計は、前連結会計年度末に比べ2,147百万円増加し、23,793百万円となりました。

セグメントの業績は、セグメント間の内部取引も含めて次のとおりであります。

なお、セグメント利益は営業利益ベースによる金額であります。

(a) 日本

日本におきましては、新型コロナウイルスの影響は続きましたが、ワクチン接種の進展により、経済活動に回復の兆しがみられました。

当社グループが属する電子計測器、電源機器、環境試験機器等の業界においては、当社の主要ユーザーである自動車業界では、半導体不足の影響により減産や工場休止といった生産調整が続いておりますが、世界的な脱炭素化の流れを受け、電気自動車や燃料電池などの新エネルギー開発や、ADAS・自動運転の技術開発には引き続き積極的な投資がなされております。電子・電機業界でも、DXに代表される電子化・デジタル化の流れが加速し、5G関連の社会インフラ整備やIoT等の投資が増加しております。

こうした状況のなか、当社グループは、中期経営計画に基づきテクニカル商社への転換を図り収益性を高めるため、成長市場への積極的な取り組みやシステム提案力の強化を図ってまいりました。

その結果、売上高は79,070百万円（前年同期比11.4%増）となり、セグメント利益は3,657百万円（前年同期は2,836百万円）となりました。

(b) 中国

中国では、受託試験場を運営する電計科技研発（上海）股份有限公司の業績は苦戦しましたが、販売子会社である電計貿易（上海）有限公司の業績が堅調に推移しました。

その結果、売上高は13,155百万円（前年同期比16.3%増）となり、セグメント利益は223百万円（前年同期は100百万円）となりました。

(c) その他

その他地域では、コロナ禍で影響を受けた米国・インドの販売子会社の業績は苦戦しましたが、ベトナム・韓国・台湾等の販売子会社の業績は堅調に推移しました。

その結果、売上高は3,778百万円（前年同期比17.6%増）となり、セグメント利益は114百万円（前年同期はセグメント損失30百万円）となりました。



(参考)

海外売上高

前連結会計年度(自 2020年4月1日 至 2021年3月31日)

|                      | 中国         | その他       | 計          |
|----------------------|------------|-----------|------------|
| 海外売上高(千円)            | 12,807,639 | 3,385,878 | 16,193,518 |
| 連結売上高(千円)            | -          | -         | 82,669,514 |
| 連結売上高に占める海外売上高の割合(%) | 15.5       | 4.1       | 19.6       |

(注) 1 海外売上高における国又は地域は、販売先(市場)を基準としているため、当社及び連結子会社の日本以外の国又は地域における売上高であります。

- 2 「その他」の区分に属する主な国又は地域  
その他・・・タイ、シンガポール、ベトナム、マレーシア、韓国、台湾、インドネシア、フィリピン、インド、アメリカ

当連結会計年度(自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)

|                      | 中国         | その他       | 計          |
|----------------------|------------|-----------|------------|
| 海外売上高(千円)            | 14,528,219 | 4,179,565 | 18,707,784 |
| 連結売上高(千円)            | -          | -         | 91,857,312 |
| 連結売上高に占める海外売上高の割合(%) | 15.8       | 4.6       | 20.4       |

(注) 1 海外売上高における国又は地域は、販売先(市場)を基準としているため、当社及び連結子会社の日本以外の国又は地域における売上高であります。

- 2 「その他」の区分に属する主な国又は地域  
その他・・・タイ、シンガポール、ベトナム、マレーシア、韓国、台湾、インドネシア、フィリピン、インド、アメリカ

キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末に比べて947百万円増加し、7,795百万円となりました。

当連結会計年度における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は、次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは539百万円の支出(前年同期は4,573百万円の収入)となりました。これは主として、税金等調整前当期純利益3,235百万円を、棚卸資産の増加額2,510百万円、法人税等の支払額847百万円が上回ったことによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは280百万円の支出(前年同期は311百万円の支出)となりました。これは主として、投資有価証券の売却による収入240百万円を、定期預金の預入による支出247百万円、有形固定資産の取得による支出374百万円が上回ったことによるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは1,467百万円の収入(前年同期は2,237百万円の支出)となりました。これは主として、短期借入金の増加額1,974百万円によるものであります。

生産、受注及び販売の実績

(a) 仕入実績

当連結会計年度における仕入実績をセグメントごとに示すと次のとおりであります。

| セグメントの名称 | 仕入高(千円)    | 前年同期比(%) |
|----------|------------|----------|
| 日本       | 72,082,644 | 14.5     |
| 中国       | 12,034,431 | 24.1     |
| その他      | 2,999,935  | 15.7     |
| 合計       | 87,117,010 | 15.8     |

(注) 金額は、仕入価格によっており、セグメント間の取引については消去前の数値によっております。

(b) 受注実績

当連結会計年度における受注実績は、次のとおりであります。

|    | 受注高(千円)     | 前年同期比(%) | 受注残高(千円)   | 前年同期比(%) |
|----|-------------|----------|------------|----------|
| 合計 | 101,225,103 | 22.7     | 24,307,766 | 62.7     |

(注) 金額は、販売価格によっております。

(c) 販売実績

当連結会計年度における販売実績をセグメントごとに示すと次のとおりであります。

| セグメントの名称 | 販売高(千円)    | 前年同期比(%) |
|----------|------------|----------|
| 日本       | 75,328,699 | 9.9      |
| 中国       | 12,845,113 | 15.5     |
| その他      | 3,683,498  | 21.7     |
| 合計       | 91,857,312 | 11.1     |

(注) 金額は、販売価格によっており、セグメント間の取引については相殺消去してあります。

(2) 経営者の視点による経営成績等の状況に関する分析・検討内容

経営者の視点による当社グループの経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容は以下のとおりであります。

なお、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において、当社グループが判断したものであります。

重要な会計方針及び見積り

当社グループの連結財務諸表は、我が国において一般に公正妥当と認められている会計基準に基づき作成されております。

この連結財務諸表の作成に当たって用いた会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定のうち、重要なものについては、第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 (1) 連結財務諸表 注記事項 (重要な会計上の見積り)に記載のとおりであります。

なお、新型コロナウイルス感染症の影響を含む会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定は、第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 (1) 連結財務諸表 注記事項 (追加情報)に記載のとおりであります。

当連結会計年度の経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容

(a) 財政状態の分析

(資産)

当連結会計年度末の総資産は、前連結会計年度末に比べて5,682百万円増加し、56,642百万円となりました。

流動資産は、前連結会計年度末に比べて5,107百万円増加し、48,669百万円となりました。現金及び預金が894百万円、商品及び製品が2,524百万円増加したこと等によるものであります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べて575百万円増加し、7,973百万円となりました。有形固定資産が合計で337百万円、無形固定資産が合計で173百万円増加したこと等によるものであります。

(負債)

流動負債は、前連結会計年度末に比べて2,228百万円増加し、28,873百万円となりました。支払手形及び買掛金が449百万円、短期借入金が1,050百万円増加したこと等によるものであります。

固定負債は、前連結会計年度末に比べて1,306百万円増加し、3,975百万円となりました。長期借入金が1,165百万円、リース債務が166百万円増加したこと等によるものであります。

(純資産)

純資産は、前連結会計年度末に比べて2,147百万円増加し、23,793百万円となりました。利益剰余金が配当金の支払により588百万円減少いたしましたが、親会社株主に帰属する当期純利益を2,252百万円計上したことにより1,663百万円、為替換算調整勘定が合計で534百万円増加したこと等によるものであります。

(b) 経営成績の分析

(売上高)

当連結会計年度における売上高は91,857百万円となり、前連結会計年度に比べ9,187百万円増加(前連結会計年度比11.1%増)となりました。

(売上総利益)

当連結会計年度における売上総利益では、売上高の増加や利益率の増加効果もあり、11,452百万円となりました。前連結会計年度に比べ1,765百万円増加(前連結会計年度比18.2%増)となりました。

(販売費及び一般管理費、営業利益)

当連結会計年度における販売費及び一般管理費は8,788百万円となり、前連結会計年度に比べて992百万円増加(前連結会計年度比12.7%増)となりました。

この結果、営業利益は2,664百万円(前連結会計年度比40.8%増)となりました。

(営業外収益、営業外費用、経常利益)

当連結会計年度における営業外収益は、525百万円(前連結会計年度は、340百万円)となりました。主な要因は、為替差益等によるものであります。営業外費用は、159百万円(前連結会計年度は、99百万円)となりました。主な要因は、貸倒引当金繰入額等によるものであります。

この結果、経常利益は3,030百万円(前連結会計年度比42.1%増)となりました。

(特別利益、特別損失、税金等調整前当期純利益)

当連結会計年度における特別利益は、205百万円(前連結会計年度は、71百万円)となりました。主な要因は、投資有価証券売却益等によるものであります。特別損失は、1百万円(前連結会計年度は、54百万円)となりました。

この結果、税金等調整前当期純利益は、3,235百万円(前連結会計年度比50.5%増)となりました。

(親会社株主に帰属する当期純利益)

以上の結果、当連結会計年度における税金等調整前当期純利益から法人税、住民税及び事業税、法人税等調整額を差引いた当期純利益は、2,227百万円(前連結会計年度比56.4%増)となり、親会社株主に帰属する当期純利益は、2,252百万円(前連結会計年度比53.5%増)となりました。

(c) キャッシュ・フローの分析

キャッシュ・フローの分析については、「(1)経営成績等の状況の概要　キャッシュ・フローの状況」に記載のとおりであります。

(d) 資本の財源及び資金の流動性に係る情報

当社グループの資金需要は、営業費用である債権及び債務に対するものが主なものとなっており、これらの資金需要については、自己資金、金融機関からの借入金により資金を調達しております。

資金の流動性については、現金及び現金同等物に加え、取引銀行との間で当座貸越契約を締結しており、事業活動のために必要な資金の確保と流動性を維持しております。

(e) 経営上の目標の達成状況を判断するための客観的な指標の達成状況

当社は株主重視の観点からROE（自己資本利益率）10%以上の達成を目標として掲げ、収益性の向上、資本の効率化並びに増配等により、その向上に取り組んでおります。

自己資本当期純利益率を向上させる手段として、売上総利益率の向上、総資産回転率の向上、財務レバレッジの向上が考えられます。

売上総利益率の向上

当事業年度の個別の粗利益率は10.21%となり、前期実績10.10%から0.11%改善いたしました。粗利率の高い製品の売上に引き続き注力したほか、システム提案型営業の強化も寄与いたしました。

総資産回転率の向上

当連結会計年度では、中期経営計画に基づき成長市場への積極的な取り組み等を図ってきた結果、売上高は91,857百万円、前年同期比11.1%の増加となりました。総資産も増加しましたが、総資産回転率は小幅ながら向上しROEの改善に寄与いたしました。

財務レバレッジ（自己資本比率の逆数）の向上

財務レバレッジを向上させるための手段としては、負債を増加させることや株主への配当を増加させることが考えられます。

当連結会計年度では、売上高の増加に伴う所要運転資金の増加等から、長短借入金が増加しました。また配当は、中間で30円、期末で40円と、引き続き積極的に実施いたしました。

以上のような具体的な施策を実施したことにより、当連結会計年度のROE（自己資本利益率）は10.3%と、前期実績7.3%から改善し、目標を上回る結果となりました。

4 【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

5 【研究開発活動】

該当事項はありません。

### 第3 【設備の状況】

#### 1 【設備投資等の概要】

当社グループ(当社及び連結子会社)では、当連結会計年度に実施いたしました設備投資額の総額は534百万円であり、その主なものは、厚木営業所ビルの新築によるものであります。

#### 2 【主要な設備の状況】

当社グループ(当社及び連結子会社)における主要な設備は、以下のとおりであります。

##### (1) 提出会社

2022年3月31日現在

| 事業所名<br>(所在地)                  | セグメント<br>の名称 | 設備の内容 | 帳簿価額(千円)    |       |                    |       |         |           | 従業員数<br>(名) |
|--------------------------------|--------------|-------|-------------|-------|--------------------|-------|---------|-----------|-------------|
|                                |              |       | 建物<br>及び構築物 | 車両運搬具 | 土地<br>(面積㎡)        | リース資産 | その他     | 合計        |             |
| 本社<br>(東京都<br>台東区)             | 全社(共通)       | 管理設備  | 1,710,380   | -     | 443,238<br>(415)   | 6,646 | 61,806  | 2,222,071 | 46          |
| 東京営業所<br>(東京都<br>台東区)<br>他全営業所 | 日本・<br>その他   | 販売設備  | 527,364     | 2,816 | 872,551<br>(3,628) | -     | 240,213 | 1,642,945 | 493         |

##### (2) 国内子会社

2022年3月31日現在

| 会社名                       | 事業所名<br>(所在地)                | セグメント<br>の名称 | 設備の<br>内容 | 帳簿価額(千円)        |           |                    |           |        |         | 従業員数<br>(名) |
|---------------------------|------------------------------|--------------|-----------|-----------------|-----------|--------------------|-----------|--------|---------|-------------|
|                           |                              |              |           | 建物<br>及び<br>構築物 | 車両<br>運搬具 | 土地<br>(面積㎡)        | リース<br>資産 | その他    | 合計      |             |
| アイコー<br>エンジニアリング<br>株式会社  | 本社<br>(大阪府<br>東大阪市)<br>他4営業所 | 日本           | 生産<br>設備  | 1,668           | 0         | -<br>(-)           | -         | 10,763 | 12,431  | 35          |
| ユウアイ電子<br>株式会社            | 本社<br>(埼玉県<br>川越市)<br>他3校正室  | 日本           | 校正<br>設備  | 106,002         | -         | 72,057<br>(835)    | 1,310     | 43,153 | 222,523 | 33          |
| 株式会社<br>エイリイ・<br>エンジニアリング | 本社<br>(埼玉県<br>飯能市)           | 日本           | 生産<br>設備  | 60,003          | 0         | 167,800<br>(2,515) | -         | 12,754 | 240,558 | 59          |
| 未来B計画株式会社                 | 本社<br>(東京都<br>台東区)<br>他1支店   | 日本           | 販売<br>設備  | -               | -         | -<br>(-)           | -         | 0      | 0       | -           |
| 新栄電子計測器<br>株式会社           | 本社<br>(神奈川県<br>藤沢市)          | 日本           | 生産<br>設備  | 20,245          | 2,486     | 46,956<br>(761)    | -         | 3,150  | 72,838  | 13          |

(3) 在外子会社

2022年3月31日現在

| 会社名                                       | 事業所名<br>(所在地)                      | セグメント<br>の名称 | 設備の<br>内容      | 帳簿価額(千円)        |           |             |           |         |         | 従業員数<br>(名) |
|---|------------------------------------|--------------|----------------|-----------------|-----------|-------------|-----------|---------|---------|-------------|
|   |                                    |              |                | 建物<br>及び<br>構築物 | 車両<br>運搬具 | 土地<br>(面積㎡) | リース<br>資産 | その他     | 合計      |             |
| NIHON<br>DENKEI<br>(MALAYSIA)<br>SDN.BHD. | 本社<br>(マレーシア<br>クアラルンプール)<br>他1営業所 | その他          | 販売<br>設備       | 1               | 510       | -<br>(-)    | -         | 2,186   | 2,697   | 15          |
| NIHON<br>DENKEI<br>(THAILAND)<br>CO.,LTD. | 本社<br>(タイ<br>バンコク)<br>他1営業所        | その他          | 販売<br>設備       | 2,247           | -         | -<br>(-)    | -         | 3,497   | 5,744   | 26          |
| ND KOREA<br>CO.,LTD.                      | 本社<br>(韓国<br>スウォン)                 | その他          | 販売<br>設備       | -               | -         | -<br>(-)    | -         | 2,219   | 2,219   | 10          |
| NIHON<br>DENKEI<br>VIETNAM<br>CO.,LTD.    | 本社<br>(ベトナム<br>ハノイ)<br>他1営業所       | その他          | 販売<br>設備       | -               | 1,394     | -<br>(-)    | -         | 2,306   | 3,700   | 25          |
| 電計科技<br>研発(上海)<br>股份有限公司                  | 本社<br>(中国<br>上海)<br>他1子会社          | 中国           | 受託<br>試験<br>設備 | 85,752          | 9,997     | -<br>(-)    | 122,069   | 529,045 | 746,864 | 63          |
| 電計貿易<br>(上海)<br>有限公司                      | 本社<br>(中国<br>上海)<br>他23営業所         | 中国           | 販売<br>設備       | -               | 32,522    | -<br>(-)    | 84,476    | 10,434  | 127,433 | 165         |
| NIHON<br>DENKEI<br>INDIA<br>PRIVATE LTD.  | 本社<br>(インド<br>グルガオン)<br>他2営業所      | その他          | 販売<br>設備       | -               | -         | -<br>(-)    | -         | 1,083   | 1,083   | 17          |
| PT.NIHON<br>DENKEI<br>INDONESIA           | 本社<br>(インドネシア<br>ジャカルタ)<br>他1営業所   | その他          | 販売<br>設備       | -               | 513       | -<br>(-)    | 11,050    | 638     | 12,202  | 13          |
| TAIWAN<br>DENKEI<br>SOLUTION<br>CO.,LTD.  | 本社<br>(台湾<br>台北市)                  | その他          | 販売<br>設備       | -               | -         | -<br>(-)    | -         | 1,493   | 1,493   | 7           |
| NIHON<br>DENKEI<br>PHILIPPINES<br>, INC.  | 本社<br>(フィリピン<br>ラグナ)               | その他          | 販売<br>設備       | -               | 2,116     | -<br>(-)    | -         | 16,024  | 18,141  | 15          |
| DENKEI<br>CORPORATION<br>AMERICAS         | 本社<br>(アメリカ<br>シカゴ)                | その他          | 販売<br>設備       | -               | 5,065     | -<br>(-)    | -         | 2,256   | 7,322   | 7           |
| 電計科技<br>発展(上海)<br>有限公司                    | 本社<br>(中国<br>上海)<br>他2営業所          | 中国           | 販売<br>設備       | -               | 5,335     | -<br>(-)    | 64,714    | 8,309   | 78,358  | 53          |

(注) 1 現在休止中の設備はありません。

2 帳簿価額のうち「その他」は、工具、器具及び備品並びに建設仮勘定であります。

3 【設備の新設、除却等の計画】

(1) 重要な設備の新設等

当連結会計年度末において、新たに確定した重要な設備の新設等はありません。

(2) 重要な設備の除却等

経常的な設備の更新のための除却等を除き、重要な設備の除却等の計画はありません。

## 第4 【提出会社の状況】

## 1 【株式等の状況】

## (1) 【株式の総数等】

## 【株式の総数】

| 種類   | 発行可能株式総数(株) |
|------|-------------|
| 普通株式 | 22,500,000  |
| 計    | 22,500,000  |

(注)当社は、2021年10月28日開催の取締役会決議により、2022年1月1日付で株式分割に伴う定款変更が行われ、発行可能株式総数は7,500,000株増加し、22,500,000株となっております。

## 【発行済株式】

| 種類   | 事業年度末現在<br>発行数(株)<br>(2022年3月31日) | 提出日現在<br>発行数(株)<br>(2022年6月27日) | 上場金融商品取引所<br>名又は登録認可金融<br>商品取引業協会名                                | 内容               |
|------|-----------------------------------|---------------------------------|---|------------------|
| 普通株式 | 11,818,507                        | 11,818,507                      | 東京証券取引所<br>JASDAQ<br>(スタンダード)<br>(事業年度末現在)<br>スタンダード市場<br>(提出日現在) | 単元株式数は100株であります。 |
| 計    | 11,818,507                        | 11,818,507                      | -   | -                |

(注)当社は、2022年1月1日付で普通株式1株につき1.5株の割合で株式分割を行ったことにより発行済株式の総数は3,939,502株増加しております。

## (2) 【新株予約権等の状況】

## 【ストックオプション制度の内容】

|  |   |
|--|---|
| 決議年月日                                  | 2022年6月24日(定時株主総会)  |
| 付与対象者の区分及び人数(名)                        | 取締役(監査等委員である取締役を除く。)7<br>監査等委員である取締役2<br>執行役員7  |
| 新株予約権の数(個)                             | 3,400   |
| 新株予約権の目的となる株式の種類、内容及び数(株)              | 普通株式 340,000(注)1  |
| 新株予約権の行使時の払込金額(円)                      | 未定(注)2  |
| 新株予約権の行使期間                             | 割当決議日後2年を経過した日から当該決議日後10年を経過する日まで   |
| 新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額(円) | 発行価格 未定<br>資本組入額 未定   |
| 新株予約権の行使の条件                            | 新株予約権者は、権利行使時においても、当社又は当社子会社の取締役、監査役、執行役員及び従業員のいずれかの地位にあることを要するものとする。ただし、任期満了による退任、定年退職、会社都合による退任・退職、その他正当な理由が存すると取締役会が認めた場合にはこの限りではない。<br>新株予約権者が死亡した場合は、新株予約権の相続を認めないものとする。 |
| 新株予約権の譲渡に関する事項                         | 新株予約権の譲渡については、取締役会の承認を要するものとする。   |
| 組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項               | (注)3  |

(注)1. 合計340,000株を一年間の上限とする。

なお、新株予約権1個当たりの目的である普通株式の数(以下、「付与株式数」という。)は、100株とする。また、新株予約権を割り当てる日(以下、「割当日」という。)後、当社普通株式につき、株式分割、株式無償割当て又は株式併合を行う場合には、次の算式により付与株式数の調整を行い、調整の結果生じる1株未満の端数は、これを切り捨てる。

調整後付与株式数 = 調整前付与株式数 × 株式分割、株式無償割当て又は株式併合の比率



調整後付与株式数は、株式分割又は株式無償割当ての場合は、当該株式分割又は株式無償割当ての基準日の翌日以降、株式併合の場合は、その効力発生日以降、これを適用する。ただし、剰余金の額を減少して資本金又は準備金を増加する議案が当社株主総会において承認されることを条件として株式分割又は株式無償割当てが行われる場合で、当該株主総会の終結の日以前の日を株式分割又は株式無償割当てのための基準日とする場合は、調整後付与株式数は、当該株主総会の終結の日の翌日以降これを適用する。

また、当社が吸収合併もしくは新設合併を行い新株予約権が承継される場合又は当社が完全子会社となる株式交換もしくは株式移転を行い新株予約権が承継される場合には、当社は、合併比率等に応じ、必要と認められる付与株式数の調整を行うことができる。

付与株式数の調整を行うときは、当社は調整後付与株式数を適用する日の前日までに、必要な事項を新株予約権原簿に記載された各新株予約権を保有する者（以下、「新株予約権者」という）に通知又は公告する。ただし、当該適用の日の前日までに通知又は公告を行うことができない場合には、以後速やかに通知又は公告する。

2. 1個当たりの新株予約権の行使に際して出資される財産の価額は、新株予約権の行使により交付を受けることができる株式1株当たりの払込金額（以下、「行使価額」という。）に付与株式数を乗じた金額とする。行使価額は、新株予約権の割当日の属する月の前月の各日（取引が成立しない日を除く。）における東京証券取引所の当社普通株式の普通取引の終値の平均値に1.05を乗じた金額（1円未満の端数は切り上げる。）とする。ただし、当該金額が新株予約権の割当日における東京証券取引所の当社普通株式の普通取引の終値（取引が成立しない場合には、それに先立つ直近日の終値）を下回る場合は、当該終値を行使価額とする。ただし、以下、又はの各事由が生じたときは、各算式により調整された行使価額に新株予約権1個当たりの目的である株式の数を乗じた額とする。なお、調整後の行使価額は、1円未満の端数を切り上げる。

当社が株式分割又は株式併合を行う場合

$$\text{調整後行使価額} = \text{調整前行使価額} \times \frac{1}{\text{分割・併合の比率}}$$

当社が時価を下回る価額で募集株式の発行又は自己株式の処分（株式の無償割当てによる株式の発行及び自己株式を交付する場合を含み、新株予約権（新株予約権付社債も含む。）の行使による場合及び当社の普通株式に転換できる証券の転換による場合を除く。）を行う場合

$$\text{調整後行使価額} = \text{調整前行使価額} \times \frac{\text{既発行株式数} + \frac{\text{新規発行株式数} \times 1 \text{株当たり払込金額}}{\text{募集株式発行前の株価}}}{\text{既発行株式数} + \text{新規発行株式数}}$$

ただし、算式中の既発行株式数は、上記の株式の発行の効力発生日前における当社の発行済株式総数から、当該時点における当社の保有する自己株式の数を控除した数とし、自己株式の処分を行う場合、新規発行株式数を処分する自己株式の数、募集株式発行前の株価を自己株式処分前の株価にそれぞれ読み替えるものとする。

また、算式中の募集株式発行前の株価は、当社株式に市場価格がない場合、調整前行使価額とし、当社株式に市場価格がある場合、直前の当社優先市場における最終取引価格とする。

当社が吸収合併存続会社となる吸収合併を行う場合、当社が吸収分割承継会社となる吸収分割を行う場合、又は当社が完全親会社となる株式交換を行う場合、その他これらの場合に準じて行使価額の調整を必要とする場合、当社は必要と認める行使価額の調整を行う。

3. 組織再編を実施する際の新株予約権の取り扱い

当社が、合併（当社が合併により消滅する場合に限る。）、吸収分割もしくは新設分割（それぞれ当社が分割会社となる場合に限る。）、又は株式交換もしくは株式移転（それぞれ当社が完全子会社となる場合に限る。）（以上を総称して以下、「組織再編行為」という。）をする場合において、組織再編行為の効力発生日（吸収合併につき吸収合併の効力発生日、新設合併につき新設合併設立会社成立の日、吸収分割につき吸収分割の効力発生日、新設分割につき新設分割設立会社成立の日、株式交換につき株式交換の効力発生日、及び株式移転につき株式移転設立完全親会社の成立の日をいう。）の直前において残存する新株予約権（以下、「残存新株予約権」という。）を保有する新株予約権者に対し、それぞれの場合につき、会社法第236条第1項第8号のイからホまでに掲げる株式会社（以下、「再編対象会社」という。）の新株予約権を交付することとする。この場合においては、残存新株予約権は消滅するものとする。ただし、以下の条件に沿って再編対象会社の新株予約権を交付する旨を、吸収合併契約、新設合併契約、吸収分割契約、新設分割計画、株式交換契約又は株式移転計画において定めることを条件とする。

交付する再編対象会社の新株予約権の数

新株予約権者が保有する残存新株予約権の数と同一の数をそれぞれ交付する。

新株予約権の目的とである再編対象会社の株式の種類

再編対象会社の普通株式とする。

新株予約権の目的である再編対象会社の株式の数

組織再編行為の条件等を勘案の上、決定する。

新株予約権の行使に際して出資される財産の価額

交付される1個当たりの新株予約権の行使に際して出資される財産の価額は、再編後払込金額に上記に従って決定される当該新株予約権の目的である再編対象会社の株式を乗じて得られる金額とす

る。

再編後払込金額は、組織再編行為の条件等を勘案の上、上記2. で定められる行使価額を調整して得られる額とする。

新株予約権を行使することができる期間

残存新株予約権の行使することができる期間の開始日と組織再編行為の効力発生日のいずれか遅い日から、残存新株予約権の行使することができる期間の満了日までとする。

新株予約権の行使により株式を発行する場合における増加する資本金及び資本準備金に関する事項

組織再編行為の条件等を勘案の上、決定する。

譲渡による新株予約権の取得の制限

譲渡による新株予約権の取得については、再編対象会社の取締役会の決議による承認を要する。

その他の新株予約権の行使の条件

表中「新株予約権の行使の条件」に準じて決定する。

4. 提出日現在、新株予約権割当契約を取り交わしておりません。

【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

| 年月日       | 発行済株式<br>総数増減数<br>(株) | 発行済株式<br>総数残高<br>(株) | 資本金<br>増減額<br>(千円) | 資本金<br>残高<br>(千円) | 資本準備金<br>増減額<br>(千円) | 資本準備金<br>残高<br>(千円) |
|-----------|-----------------------|----------------------|--------------------|-------------------|----------------------|---------------------|
| 2022年1月1日 | 3,939,502             | 11,818,507           | -                  | 1,159,170         | -                    | 1,333,000           |

(注) 2022年1月1日付をもって、2021年12月31日最終の株主名簿及び実質株主名簿に記載又は記録された株主に対し、所有株式数を1株につき、1.5株の割合をもって分割いたしました。その結果、発行済株式総数が3,939,502株増加しております。

## (5) 【所有者別状況】

2022年3月31日現在

| 区分          | 株式の状況(1単元の株式数100株) |       |          |        |        |      |        |         | 単元未満株式の状況(株) |
|-------------|--------------------|-------|----------|--------|--------|------|--------|---------|--------------|
|             | 政府及び地方公共団体         | 金融機関  | 金融商品取引業者 | その他の法人 | 外国法人等  |      | 個人その他  | 計       |              |
|             |                    |       |          |        | 個人以外   | 個人   |        |         |              |
| 株主数(人)      | -                  | 6     | 19       | 68     | 64     | 6    | 3,252  | 3,415   | -            |
| 所有株式数(単元)   | -                  | 3,529 | 1,361    | 45,953 | 17,773 | 34   | 48,454 | 117,104 | 108,107      |
| 所有株式数の割合(%) | -                  | 3.01  | 1.16     | 39.24  | 15.18  | 0.03 | 41.38  | 100.00  | -            |

- (注) 1 自己株式49,158株は、「個人その他」に491単元、「単元未満株式の状況」に58株含まれております。なお、自己株式49,158株は株主名簿記載上の株式と期末現在の実質的所有株式数と同一であります。
- 2 証券保管振替機構名義の失念株式が、「その他の法人」に3単元、「単元未満株式の状況」に39株含まれております。

## (6) 【大株主の状況】

2022年3月31日現在

| 氏名又は名称   | 住所  | 所有株式数(千株) | 発行済株式(自己株式を除く。)の総数に対する所有株式数の割合(%) |
|--|---|-----------|-----------------------------------|
| あいホールディングス株式会社   | 東京都中央区日本橋久松町12-8  | 2,342     | 19.90                             |
| 有限会社高田興産   | 東京都足立区千住緑町2丁目8-2  | 1,115     | 9.47                              |
| NIPPON ACTIVE VALUE FUND PLC(常任代理人 香港上海銀行東京支店)                                       | 1ST FLOOR, SENATOR HOUSE, 85 QUEEN VICTORIA STREET, LONDON, EC4V 4AB(東京都中央区日本橋3丁目11-1)                  | 768       | 6.53                              |
| 日本電計取引先持株会   | 東京都台東区上野5丁目14-12  | 566       | 4.81                              |
| 日本電計従業員持株会   | 東京都台東区上野5丁目14-12  | 333       | 2.83                              |
| 株式会社エヌエフホールディングス   | 神奈川県横浜市港北区綱島東6丁目3-20  | 257       | 2.18                              |
| 菊水電子工業株式会社   | 神奈川県横浜市都筑区東山田1丁目1-3   | 236       | 2.01                              |
| STATE STREET BANK AND TRUST CLIENT OMNIBUS ACCOUNT OMO2 505002(常任代理人 株式会社みずほ銀行決済営業部) | 100 KING STREET WEST, SUITE 3500, PO BOX 23 TORONTO, ONTARIO M5X 1A9 CANADA(東京都港区港南2丁目15-1 品川インターシティA棟) | 225       | 1.91                              |
| BNY GCM CLIENT ACCOUNT JPRD AC ISG (FE-AC)(常任代理人 株式会社三菱UFJ銀行)                        | PETERBOROUGH COURT 133 FLEET STREET LONDON EC4A 2BB UNITED KINGDOM(東京都千代田区丸の内2丁目7-1)                    | 179       | 1.52                              |
| 野村信託銀行株式会社(投信口)  | 東京都千代田区大手町2丁目2-2  | 150       | 1.27                              |
| 計  | -   | 6,175     | 52.47                             |

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

2022年3月31日現在

| 区分             | 株式数(株)                  | 議決権の数(個) | 内容 |
|----------------|-------------------------|----------|----|
| 無議決権株式         | -                       | -        | -  |
| 議決権制限株式(自己株式等) | -                       | -        | -  |
| 議決権制限株式(その他)   | -                       | -        | -  |
| 完全議決権株式(自己株式等) | (自己保有株式)<br>普通株式 49,100 | -        | -  |
| 完全議決権株式(その他)   | 普通株式 11,661,300         | 116,613  | -  |
| 単元未満株式         | 普通株式 108,107            | -        | -  |
| 発行済株式総数        | 11,818,507              | -        | -  |
| 総株主の議決権        | -                       | 116,613  | -  |

(注) 1 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式が300株(議決権3個)含まれております。

2 「単元未満株式」の欄の普通株式には、当社所有の自己株式58株が含まれております。

【自己株式等】

2022年3月31日現在

| 所有者の氏名<br>又は名称       | 所有者の住所               | 自己名義<br>所有株式数<br>(株) | 他人名義<br>所有株式数<br>(株) | 所有株式数<br>の合計<br>(株) | 発行済株式<br>総数に対する<br>所有株式数<br>の割合(%) |
|----------------------|----------------------|----------------------|----------------------|---------------------|------------------------------------|
| (自己保有株式)<br>日本電計株式会社 | 東京都台東区上野<br>5丁目14-12 | 49,100               | -                    | 49,100              | 0.41                               |
| 計                    | -                    | 49,100               | -                    | 49,100              | 0.41                               |

(注) 2022年1月1日付で普通株式1株につき1.5株の割合で株式分割を行ったことにより、当事業年度における株式数は、当該株式分割による調整後の株式数を記載しております。

## 2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 会社法第155条第7号による普通株式の取得

(1) 【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2) 【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

| 区分              | 株式数(株) | 価額の総額(千円) |
|-----------------|--------|-----------|
| 当事業年度における取得自己株式 | 17,033 | 1,279     |
| 当期間における取得自己株式   | 150    | 201       |

- (注) 1 当期間における取得自己株式には、2022年6月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式数は含めておりません。  
2 2022年1月1日付で普通株式1株につき1.5株の割合で株式分割を行ったことにより、当事業年度における取得自己株式数は、当該株式分割による調整後の株式数を記載しております。

(4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

| 区分                               | 当事業年度  |             | 当期間    |             |
|----------------------------------|--------|-------------|--------|-------------|
|                                  | 株式数(株) | 処分価額の総額(千円) | 株式数(株) | 処分価額の総額(千円) |
| 引き受ける者の募集を行った取得自己株式              | -      | -           | -      | -           |
| 消却の処分を行った取得自己株式                  | -      | -           | -      | -           |
| 合併、株式交換、株式交付、会社分割に係る移転を行った取得自己株式 | -      | -           | -      | -           |
| その他                              | -      | -           | -      | -           |
| 保有自己株式数                          | 49,158 | -           | 49,308 | -           |

- (注) 1 当期間における保有自己株式数には、2022年6月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式数は含めておりません。  
2 2022年1月1日付で普通株式1株につき1.5株の割合で株式分割を行ったことにより、当事業年度における株式数は、当該株式分割による調整後の株式数を記載しております。

### 3 【配当政策】

当社は、業績・財務状況等を総合的に勘案し、継続かつ安定的な配当を行うことを基本方針とし、株主への利益還元にも積極的に取り組んでおります。

当社の剰余金の配当は、中間配当及び期末配当の年2回を基本方針としております。配当の決定機関は、中間配当は取締役会、期末配当は株主総会であります。

なお、当社は中間配当を行うことができる旨を定款に定めております。

当期の配当につきましては、中間配当を30円といたしました。

当期も半導体、電子部品不足など新型コロナウイルスの影響を受けましたが、世界的な景気回復もあり、業績は増収増益とほぼ想定どおりとなりました。また内部留保にも一定の目途が立ち、自己資本比率も改善したことを勘案して、株主の皆様への積極的な利益還元を図りたく、2021年10月28日発表の「業績予想及び配当予想の修正に関するお知らせ」で公表いたしましたとおり期末配当を40円（分割前換算60円）とさせていただきます。

従いまして、当期の年間配当は、中間配当30円（分割前換算30円）、期末配当40円（分割前換算60円）の年間70円（分割前換算90円）の配当を行いました。

2023年3月期の利益配当につきましては、中間配当、期末配当の年2回の剰余金の配当を行うことを基本方針とし、計画した業績を確保できることを前提として、株主の皆様への積極的な利益還元を図るべく、配当性向35%を目標として中間配当30円、期末配当40円を予定しております。

今後とも業績の向上による利益確保に努めるとともに、株主様への積極的な利益還元を検討してまいります。

|                       | 年間配当金  |                         |        |                         |                         |
|-----------------------|--------|-------------------------|--------|-------------------------|-------------------------|
|                       | 第1四半期末 | 第2四半期末                  | 第3四半期末 | 期末                      | 合計                      |
| 2022年3月期<br>(株式分割後換算) | 円 銭    | 円 銭<br>30.00<br>(20.00) | 円 銭    | 円 銭<br>40.00<br>(40.00) | 円 銭<br>70.00<br>(60.00) |
| 2023年3月期              |        | 30.00                   |        | 40.00                   | 70.00                   |
| 増減額                   |        | +10.00                  |        | ±0.00                   | +10.00                  |

(注) 基準日が当事業年度に属する剰余金の配当は、以下のとおりであります。

| 決議年月日                  | 配当金の総額(千円) | 1株当たり配当額(円) |
|------------------------|------------|-------------|
| 2021年11月11日<br>取締役会決議  | 235,405    | 30          |
| 2022年6月24日<br>定時株主総会決議 | 470,773    | 40          |

## 4 【コーポレート・ガバナンスの状況等】

### (1) 【コーポレート・ガバナンスの概要】

コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

当社は、透明性の高い経営の実現と企業価値の継続的な向上により、株主、投資家の皆様をはじめ、顧客・取引先・社会から信頼され、継続して成長できる企業であり続けるために、コーポレート・ガバナンスの充実を経営上の重要課題の一つと位置づけております。

企業統治の体制の概要及び当該体制を採用する理由

当社は、2017年6月23日付をもって監査等委員会設置会社へ移行し、取締役は12名、うち監査等委員である取締役は3名(有価証券報告書提出日現在)で構成されております。

当社は、企業統治機関として次の機関を設置しております。

#### (a) 取締役会

取締役会は、代表取締役社長 森田幸哉を議長とし、迅速かつ的確な意思決定機関として、取締役会規程に則り、経営の基本方針や法令で定められた事項やその他経営に関する重要事項を決定し、定時取締役会は、毎月1回厳正に開催しているほか、緊急な意思決定を要する事項については、適宜臨時でも開催しております。

取締役会の機能をより強化し、透明性を確保し、さらに高いレベルの経営を目指す観点から、社外取締役だけではなく、上場会社等の経営者を経営顧問として取締役に参加していただき、客観的な意見を経営に反映する体制をとっております。

また、社員及び子会社の社長の中から、執行役員を選任し、担当業務の責任者として業務を執行するとともに取締役にまたは代表取締役社長の求めに応じて、担当業務の執行状況を報告する他、意見具申を行っております。

構成員については、次のとおりであります。

- ・取締役(社外取締役及び監査等委員である取締役を除く) 柳丹峰、森田幸哉、和田史宣、梶原琢也、菊田嘉、秋山昌彦、木村裕二
- ・社外取締役(監査等委員である取締役を除く) 佐久間涼、佐藤哲
- ・監査等委員 藤原敏夫、小倉義夫、松本善夫
- ・執行役員 高橋浩次、曹暁峰、小泉伸二、土屋公彦、荻場泰彦、須田克彦、荒川克之、加納正巳、井上和磨、安食信司、久保田修一

#### (b) 監査等委員会

当社は、監査等委員会を設置しており、委員長である藤原敏夫が議長を務めております。

3名の監査等委員のうち2名を常勤として監査体制の強化を図っております。監査等委員は、監査等委員会で定めた監査方針、監査計画等に従い、取締役会及び全体営業会議への出席や内部監査の実施状況の監督等を通じて、経営のコンプライアンス状況と監督機能の強化に努めております。

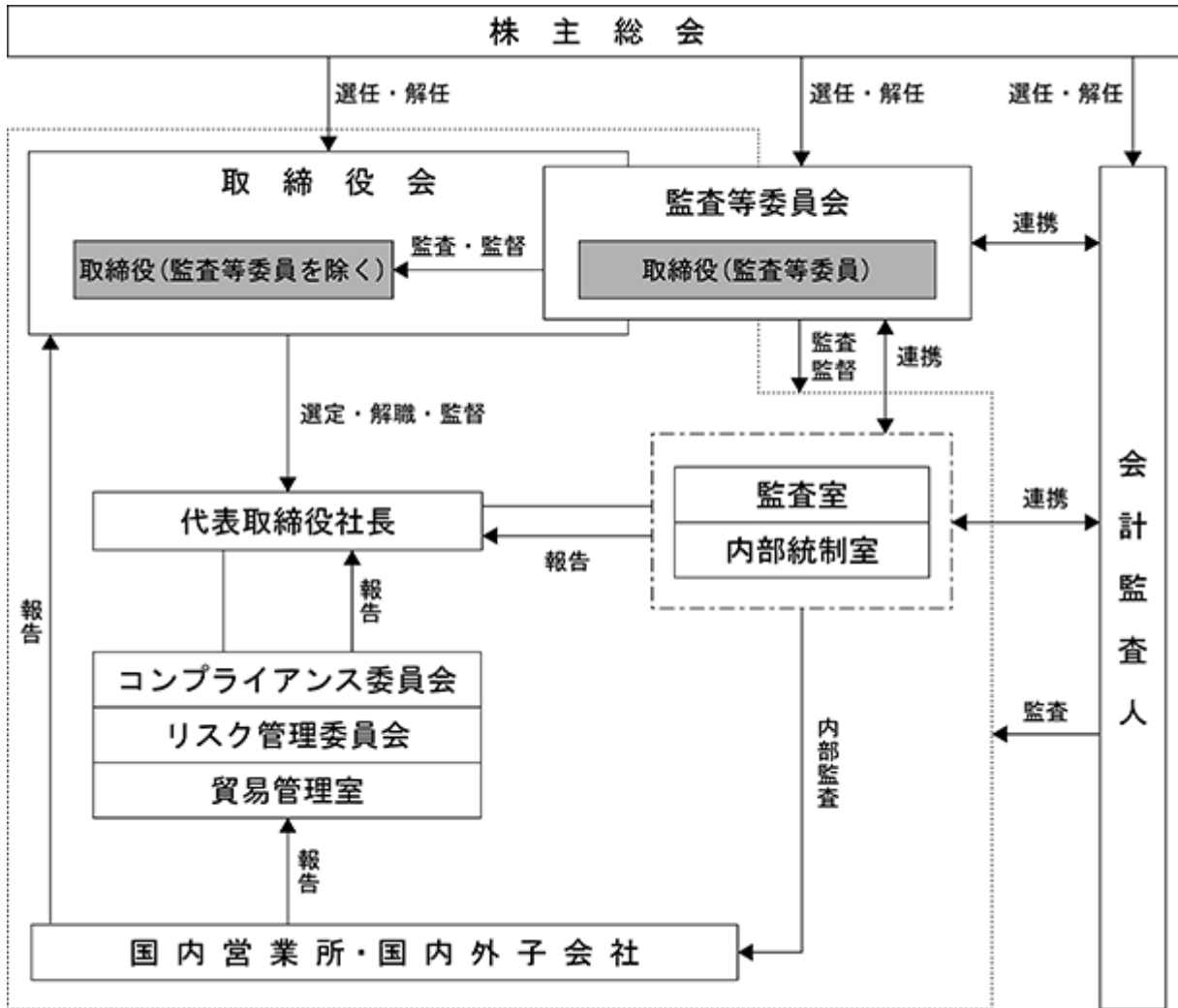
監査等委員は、取締役会の他、重要な意思決定の過程及び業務の執行状況を把握するため、全体営業会議や取締役会などの重要な会議に出席するとともに、主要な稟議書その他業務執行に関する重要な文書を閲覧し、必要に応じて取締役または使用人にその説明を求める体制となっております。

構成員については、次のとおりであります。

- ・常勤監査等委員 藤原敏夫、小倉義夫
- ・監査等委員 松本善夫

当社は上記のとおり、取締役の職務執行に対し有効かつ適切に監視を行う客観性と中立性を確保し、実効性ある経営監視ができる現体制を採用しております。

会社の機関・内部統制の関係図





## 企業統治に関するその他の事項

### (内部統制システムの整備の状況)

当社の内部統制システムとしては、社長直属の機関として、コンプライアンス委員会、監査室、内部統制室、貿易管理室の4つの機関を設置し、コンプライアンス体制の維持・強化に取り組んでおります。

#### (a) コンプライアンス委員会

当社は、企業が存立を継続するためにはコンプライアンスの徹底が必要不可欠であるとの認識の下、全ての役員及び従業員が公正で高い倫理観に基づいて行動し、広く社会から信頼される経営体制の確立に努めております。

具体的には、社長直属のコンプライアンス委員会を設置し、コンプライアンス体制の構築、コンプライアンス問題に対する受付、相談窓口、コンプライアンス・マニュアルの改訂や教育計画の立案等を推進する体制としております。また、コンプライアンスの推進については、日本電計グループの「コンプライアンス・マニュアル」を制定しており、役員及び従業員等がそれぞれの立場でコンプライアンスを自らの問題としてとらえ業務運営にあたるよう研修等を通じて意識の高揚を図っております。

その中で、相談・通報できる体制を設けており、役員及び従業員等が、社内においてコンプライアンス違反行為が行われ、または行われようとしていることに気がついたときは、事務局に通報(匿名可)しなければならないと定めており、会社は、通報内容を秘守し、通報者に対して不利益な扱いを行わないこととすることを明記しております。

#### (b) 監査室

当社は、社長直轄の監査室を設置して、法令や社内ルールの遵守状況を確認するため、内部監査規程に基づき、国内営業所、本社管理部門はもとより、海外支店・連結子会社を対象として、原則として各拠点年1回の内部監査を実施しております。

会計帳簿の点検の他、業務状況の実態把握により、各拠点の抱える問題点を指摘し対応策を指導しております。また、監査結果については、現場に還元するとともに、代表取締役及び監査等委員会に報告し、コンプライアンス体制の強化に努めております。

#### (c) 内部統制室

当社は、金融商品取引法の規定に基づく、財務の報告に係る内部統制システムの構築に向け、社長直轄の内部統制室を設け、内部統制の評価基準や運用テストの実施基準等のマニュアルや制度を作り、運用しております。また、連結子会社の指導等を積極的に進めております。内部統制の評価基準や運用テストの結果については、定期的に社長及び取締役会並びに監査等委員会に報告しております。

#### (d) 貿易管理室

当社は、電子計測器類の輸出も手掛けていることから、安全保障貿易管理を強化するため、社長直属の機関として貿易管理室を設置し、主に輸出する製品や役務が輸出貿易管理令や外国為替令等の諸法令・諸規則に違反していないかどうかをチェックしております。

また、安全保障貿易関連の法令の改正についても、適宜当社の関連規程の見直しを行い、研修会の実施による社員教育の徹底を図っております。

### (役員等賠償責任保険契約の内容の概要)

当社は、取締役全員を被保険者とする役員等賠償責任保険契約を保険会社との間で締結しており、被保険者である取締役がその職務の執行に関し責任を負うことまたは当該責任の追及に係る請求を受けることによって生ずることのある損害が填補されます。

当社及び子会社からなる企業集団における業務の適正を確保するための体制

当社及び子会社は、企業集団全体の業績の向上等を目指すとともに、積極的な意見交換による企業集団の情報の共有化を図っております。また、監査を通じた企業集団の問題点の早期発見と是正を行う仕組みを構築しております。

#### (a) 当社の子会社の取締役の業務の執行に係る事項の当社への報告に関する体制

当社は、主要な子会社に当社の取締役を取締役又は監査役として派遣し、当社の各子会社の重要事項が、当社から派遣された取締役を通じて当社に報告される体制を構築しております。

当社は、子会社から、定期的・継続的に、取締役会議事録、月次決算書類その他子会社の経営内容を的確に把握するための資料の提出を受け、必要に応じて取締役会に報告しております。

また、子会社において適時開示事項が発生した場合、取締役会・経営会議等に報告される体制を構築しております。

(b) 当社の子会社の損失の危険の管理に関する規程その他の体制

当社の代表取締役社長及びリスク管理の担当役員である管理本部長は、当社及びその子会社から成る企業集団の経営戦略や経営計画を策定もしくは意思決定する上で必要とされるリスク情報の洗い出しを行い、当社の取締役会等で各施策の判断をする際に、その材料として提供しております。

当社の子会社を担当する部門は、子会社における損失の危険の発生を把握した場合には、速やかにその内容及び当社に対する影響等を、取締役会・経営会議等に報告する体制を構築しております。

(c) 当社の子会社の取締役の業務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

当社及びその子会社は、子会社における経営計画、重要な投資等の経営に重要な事項について、子会社と事前に協議するなど、緊密な連携を保ち、企業集団全体の業績の向上、事業の繁栄を目指します。

国内の子会社の代表者は、半期に一度開催される全取締役、全国の営業所長、部長が出席する会議に参加し、自社の方針を説明し営業情報を共有している他、意見交換する重要な機会となっております。

また、四半期に一度開催される全国の営業所長の合同営業会議にも参加しております。

海外の子会社の代表者は、年2回本社の代表取締役以下の役員に営業状況や管理状況を協議する会議に参加し、取り組むべき課題や問題点について意見交換し、企業集団間で情報が円滑に流通する体制を整備しております。

(d) 当社の子会社の取締役及び使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制

当社は、コンプライアンス規程を、当社の子会社の役職員にも適用しております。

当社は、当社の子会社の役職員が、業務上、コンプライアンスに関する問題を認識した場合に、本社のコンプライアンス委員会に直接報告・相談できるコンプライアンス相談ラインを整備しております。

当社は子会社における不適切な取引・会計処理を防止するため、定期的に監査室や監査等委員による監査を実施しており、監査報告書を社長あてに提出し、改善すべき事項は、改善是正措置報告書に記載して、問題点の早期把握と具体的な解決策の策定をフォローする体制をとっております。

(リスク管理体制の整備状況)

リスク管理体制につきましては、リスク管理全体を統括する組織として、執行役員以上をメンバーとする経営会議の中にリスク管理委員会を設置し、リスク管理に関する体制や諸施策を総合的に検討し、社長に答申することとしております。緊急事態発生の場合は、社長を本部長とする「対策本部」を設置し、組織的に対応するものとし、平時においては各部署においてその有するリスクを洗い出し、これに対する軽減策に取り組んでおります。

取締役会で決議できる株主総会決議事項

(a) 自己株式の取得

当社は、会社法第165条第2項の規定に基づき、取締役会の決議をもって自己の株式を取得することができる旨定款に定めております。これは機動的な資本政策を遂行することを目的とするものであります。

(b) 中間配当

当社は、取締役会の決議によって、毎年9月30日を基準日として中間配当をすることができる旨を定款に定めております。これは株主に対し機動的な利益還元を行うことを目的とするものであります。

(c) 取締役の責任免除

当社は、取締役について、会社法第426条第1項の規定により、任務を怠ったことによる損害賠償責任を、法令の限度において、取締役会の決議によって免除することができる旨を定款に定めております。これは取締役がその期待される役割を十分に発揮できることを目的とするものであります。

取締役の定数

当社の取締役(監査等委員である取締役を除く。)の定数は15名以内、監査等委員である取締役は4名以内とする旨を定款に定めております。

取締役の選任の決議要件

当社は、取締役の選任決議については、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって株主総会にて行う旨、また、取締役の選任決議は累積投票によらない旨を定款に定めております。

株主総会の特別決議要件

当社は、会社法第309条第2項に定める株主総会の特別決議要件について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨定款に定めております。これは、株主総会における特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を行うことを目的とするものであります。

(2) 【役員の状況】

役員一覧

男性12名 女性0名 ( 役員のうち女性の比率 - % )

| 役職名            | 氏名    | 生年月日        | 略歴   | 任期 | 所有株式数<br>(千株) |
|----------------|-------|-------------|--|----|---------------|
| 代表取締役会長        | 柳 丹峰  | 1962年2月28日生 | 1991年8月 当社入社<br>1997年6月 上海電恵測試儀器設備有限公司董事長<br>2005年6月 取締役中国・台湾担当<br>2006年4月 取締役海外エリア担当<br>2006年10月 取締役常務執行役員海外エリア担当<br>2007年4月 取締役専務執行役員営業本部副本部長<br>海外エリア担当<br>2008年4月 専務取締役海外営業本部長<br>2016年4月 代表取締役社長就任<br>2022年4月 代表取締役会長就任(現)  | 注2 | 28            |
| 代表取締役社長        | 森田 幸哉 | 1963年9月11日生 | 1987年3月 当社入社<br>2007年3月 三重営業所所長<br>2008年4月 名古屋営業所所長<br>2011年4月 執行役員国内営業本部付<br>2012年10月 執行役員海外営業本部副本部長<br>2013年6月 取締役海外営業本部副本部長<br>アセアン・その他エリア担当<br>2016年4月 常務取締役国内営業本部長<br>甲信越エリア担当<br>2017年3月 常務取締役国内営業本部長<br>甲信越エリア、事業推進部、営業支援<br>部門担当<br>2018年4月 専務取締役国内営業本部長<br>事業推進部、営業支援部門担当<br>2020年4月 専務取締役国内営業本部長<br>営業支援部門担当<br>2021年4月 代表取締役副社長就任<br>2022年4月 代表取締役社長就任(現)                         | 注2 | 22            |
| 常務取締役<br>営業本部長 | 梶原 琢也 | 1968年5月11日生 | 1989年3月 当社入社<br>2008年4月 千葉営業所所長<br>2012年3月 執行役員新事業推進室室長<br>E M C 事業推進室室長<br>2014年10月 執行役員国内営業本部担当<br>2016年3月 執行役員東京営業所所長<br>2017年3月 執行役員国内営業本部<br>東北・北関東エリア担当<br>2017年6月 取締役国内営業本部<br>九州エリア担当<br>2018年4月 取締役国内営業本部副本部長<br>九州エリア担当<br>2019年4月 取締役国内営業本部副本部長<br>中四国・九州エリア担当<br>2020年4月 取締役国内営業本部副本部長<br>関西京滋エリア・事業推進部担当<br>2021年4月 常務取締役国内営業本部長<br>事業推進部・営業支援部門担当就任<br>2022年4月 常務取締役営業本部長就任(現) | 注2 | 12            |

| 役職名                              | 氏名    | 生年月日        | 略歴  | 任期 | 所有株式数<br>(千株) |
|----------------------------------|-------|-------------|---|----|---------------|
| 取締役<br>監査・コンプライアンス推進役            | 和田 史宣 | 1967年8月3日生  | 1988年7月 当社入社<br>2007年3月 茨城営業所所長<br>2013年3月 国際センター長<br>2014年3月 執行役員国際センター長<br>2015年3月 執行役員海外営業本部担当<br>2016年4月 執行役員海外営業本部長<br>2016年6月 取締役海外営業本部長<br>2017年3月 取締役海外営業本部長<br>中国・台湾・韓国エリア担当<br>2019年4月 常務取締役海外営業本部長<br>海外事業推進部担当<br>2020年4月 常務取締役海外営業本部長<br>海外事業推進部・アセアン・その他エ<br>リア担当<br>2021年4月 常務取締役海外営業本部長<br>海外事業推進部担当就任<br>2022年1月 常務取締役社長特命担当<br>監査・コンプライアンス推進役就任<br>2022年6月 取締役監査・コンプライアンス推進役<br>就任(現) | 注2 | 18            |
| 取締役<br>営業本部副本部長<br>アセアン・その他エリア担当 | 菊田 嘉  | 1968年9月20日生 | 1989年3月 当社入社<br>2007年3月 ひたちなか営業所所長<br>2016年4月 執行役員ひたちなか営業所所長<br>東北・北関東エリア担当<br>2017年4月 執行役員横浜営業所所長<br>神奈川エリア担当<br>2017年6月 執行役員国内営業本部<br>東北・北関東エリア担当<br>2019年4月 執行役員国内営業本部<br>東北・甲信越エリア担当<br>2019年6月 取締役国内営業本部<br>東北・甲信越エリア担当<br>2020年4月 取締役海外営業本部副本部長<br>中国・台湾・韓国エリア担当就任<br>2022年1月 取締役海外営業本部長<br>中国・台湾・韓国エリア担当<br>2022年4月 取締役営業本部副本部長<br>海外営業統括部長<br>アセアン・その他エリア担当就任(現)                                | 注2 | 11            |
| 取締役<br>管理本部長                     | 秋山 昌彦 | 1967年5月13日生 | 1990年4月 ㈱三菱銀行(現㈱三菱UFJ銀行)入行<br>2010年10月 同行秋田支社長<br>2013年4月 同行越谷支社長<br>2017年5月 同行大森支店長兼大森支社長<br>2020年11月 当社入社執行役員管理本部長付<br>2021年6月 取締役管理本部長就任(現)  | 注2 | 5             |
| 取締役<br>営業本部副本部長<br>神奈川・東海中部エリア担当 | 木村 裕二 | 1962年10月6日生 | 1986年3月 当社入社<br>2010年3月 仙台営業所 兼 山形営業所所長<br>2014年3月 横浜営業所所長<br>2017年3月 執行役員韓国現地法人責任者<br>2017年6月 執行役員横浜営業所所長<br>2018年3月 執行役員国内営業本部<br>神奈川エリア担当<br>2020年3月 上席執行役員国内営業本部<br>神奈川エリア担当<br>2022年3月 上席執行役員営業本部副本部長<br>国内営業統括部長<br>神奈川・東海中部エリア担当就任<br>2022年6月 取締役営業本部副本部長<br>国内営業統括部長<br>神奈川・東海中部エリア担当(現)  | 注2 | 1             |

| 役職名            | 氏名    | 生年月日         | 略歴   |   | 任期 | 所有株式数<br>(千株) |
|----------------|-------|--------------|--|---|----|---------------|
| 取締役            | 佐久間 涼 | 1967年4月23日生  | 1990年4月<br>1993年1月<br>2003年10月<br>2007年10月<br>2009年4月<br>2013年11月<br>2016年4月<br>2019年6月            | 山一証券(株)入社<br>(株)日本情報システム入社<br>(株)SFCG取締役東京支店長<br>同社取締役不動産部部長<br>(株)ドッドウエルビー・エム・エス入社<br>同社セキュリティシステム事業本部副<br>本部長(現)<br>プールス(株)取締役(現)<br>当社取締役就任(現) | 注2 | -             |
| 取締役            | 佐藤 哲  | 1987年2月6日生   | 2011年4月<br>2012年7月<br>2016年12月<br>2018年5月<br>2020年2月<br>2020年7月<br>2021年6月                         | (株)ドッドウエルビー・エム・エス入社<br>あいホールディングス(株)出向<br>(株)メディック 監査役(現)<br>イシモリテクニクス(株)取締役(現)<br>日本チェリー(株)取締役(現)<br>あいホールディングス(株)管理本部広報<br>室室長(現)<br>当社取締役就任(現) | 注2 | -             |
| 取締役<br>(監査等委員) | 藤原 敏夫 | 1960年1月19日生  | 1982年4月<br>2002年10月<br>2004年7月<br>2007年11月<br>2010年6月<br>2013年10月<br>2016年7月<br>2017年3月<br>2017年6月 | 岩崎通信機(株)入社<br>岩通計測(株)入社<br>同社西日本営業所長<br>同社営業部長<br>同社取締役営業部長<br>同社取締役営業本部長<br>岩崎通信機(株)第二営業部担当部長<br>同社退社<br>当社取締役(監査等委員)就任(現)                       | 注3 | 2             |
| 取締役<br>(監査等委員) | 小倉 義夫 | 1963年10月16日生 | 1988年10月<br>1997年7月<br>2005年5月<br>2015年7月<br>2018年4月<br>2018年6月                                    | 日立工機(株)入社<br>レクロイ・ジャパン(株)入社<br>ローデ・シュワルツ・ジャパン(株)入社<br>同社代理店営業部部長<br>同社退社<br>当社取締役(監査等委員)就任(現)   | 注3 | -             |
| 取締役<br>(監査等委員) | 松本 善夫 | 1954年5月11日生  | 1978年4月<br>2003年7月<br>2009年7月<br>2015年8月<br>2020年6月  | 東京国税局入局<br>関東信越国税局大宮税務署副署長<br>東京国税局中野税務署長<br>松本善夫税理士事務所開設(現)<br>当社取締役(監査等委員)就任(現)   | 注3 | -             |
| 計              |       |              |  |   |    | 102           |

- (注) 1 取締役佐久間涼、佐藤哲、藤原敏夫、小倉義夫、松本善夫の5氏は、社外取締役であります。  
2 2022年3月期に係る定時株主総会終結の時から2023年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。  
3 2021年3月期に係る定時株主総会終結の時から2023年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。  
4 監査等委員会の体制は、次のとおりであります。  
委員長 藤原敏夫、委員 小倉義夫、委員 松本善夫

#### 社外取締役

##### (a) 社外取締役と提出会社との人的関係、資本的关系又は取引関係その他の利害関係

当社の社外取締役は5名であります。うち、監査等委員は3名であります。

佐久間涼氏は、プールス株式会社の取締役であり、経営的な知見が豊富であり、その意見具申により、社外取締役が企業統治において果たすべき役割である経営の透明性に貢献していただけると判断しております。

当社と同社との間には商取引関係はありません。

また、当社と同氏の間には人的関係、資本的关系及び重要な取引関係その他の利害関係はありません。

佐藤哲氏は、イシモリテクニクス株式会社及び日本チェリー株式会社の取締役であり、経営的な知見と業界知識が豊富であり、その意見具申により、社外取締役が企業統治において果たすべき役割である経営の透明性に貢献していただけると判断しております。

当社と同社との間には商取引関係はありません。

また、当社と同氏の間には人的関係、資本的关系及び重要な取引関係その他の利害関係はありません。

藤原敏夫氏は、当社の属する電子計測器業界の大手メーカーに長年勤務され、業界での豊富な経験と深い知識・見識を当社の監査体制に生かしていただけるものと判断しております。

同氏は2022年3月末時点において、当社の株式2千株を保有しておりますが、重要性はないものと判断しております。当社と同氏との間には、それ以外の資本的関係及び重要な取引関係その他の利害関係はありません。

また、同氏は過去において岩崎通信機株式会社の使用人でありましたが、当社と同社との間には、通常の商取引関係はあるものの僅少であり、人的関係、資本的関係その他の利害関係はありません。

なお、同氏を株式会社東京証券取引所に対し、独立役員として届けております。

小倉義夫氏は、電子計測器業界の大手メーカーに長年勤務され、業界での豊富な経験と深い知識・見識を当社の監査体制に生かしていただけるものと判断しております。

また、同氏は過去においてローデ・シュワルツ・ジャパン株式会社の使用人でありましたが、当社と同社との間には、通常の商取引関係はあるものの僅少であり、人的関係、資本的関係その他の利害関係はありません。

なお、同氏を株式会社東京証券取引所に対し、独立役員として届けております。

松本善夫氏は、税理士として豊富な会計・税務の専門知識と経験を有し、その専門知識・見識を有していることから、監査等委員としての監査機能を果たしていただけるものと判断しております。

また、同氏を株式会社東京証券取引所に対し、独立役員として届けております。

なお、当社と同氏との間には、資本的関係及び重要な取引関係その他の利害関係はありません。

(b) 社外取締役が企業統治において果たす機能及び役割

社外取締役には、経営者としての豊富な経験と高い見識を当社の経営に生かしていただくことを期待し、当社の経営陣から独立した中立な立場から経営判断が会社内部者の論理に偏ることがないようにチェック機能を担っていただいております。

業界での豊富な知識や経験を監査に生かしていただくこと、税理士としての高い専門性と豊富な経験・知識に基づく視点を監査に生かしていただくことを期待しております。

(c) 社外取締役を選任するための当社からの独立性に関する基準又は方針の内容

当社は社外取締役を選任するにあたり、証券取引所の独立役員の独立性に関する判断基準等を参考にすると共に、選任する人物の業界経験、知見、当社との取引関係の有無、取引関係がある場合は取引金額の程度等も総合的に勘案して、いずれの社外取締役とも当社との間には特別な利害関係がないことを確認した上で、選任しております。

当社は、株式会社東京証券取引所が、上場会社に対し1名以上の独立役員を確保すること及び独立役員に関する事項を記載した届出書の提出を求めることとしたことに対応し、当社においては、社外取締役である藤原敏夫氏、小倉義夫氏及び松本善夫氏を一般株主と利益相反が生じる恐れがないと判断し、株式会社東京証券取引所が定める独立役員として同取引所に届け出ております。

(d) 社外取締役の選任状況に関する当社の考え方

当社の社外取締役は5名、うち監査等委員は3名であります。取締役会での質問や意見具申の他、監査等委員監査を通して、当社の経営の透明性強化に貢献していただいております。当社と社外取締役の間には特別な利害関係はなく、選任状況は上記の方針に基づいており、企業統治強化に適した状況となっております。

(e) 社外取締役による監督又は監査と内部監査、監査等委員会監査及び会計監査との相互連携並びに内部統制部門との関係

当社は、社長直轄の監査室を設置して、法令や社内ルールの遵守状況を確認するため、内部監査規程に基づき、国内営業所、本社管理部門はもとより、海外支店・連結子会社を対象として、原則として各拠点年1回の内部監査を実施しております。

会計帳簿の点検の他、業務状況の実態把握により、各拠点の抱える問題点を指摘し対応策を指導しております。また、監査結果については、現場に還元するとともに、代表取締役及び監査等委員会に報告し、コンプライアンス体制の強化に努めております。

監査等委員は、監査等委員会監査等規程に基づいて、独自の監査を実施する他、監査室の実施する業務監査に適宜同行し、監査室との連携・情報交換を行っております。また、当社の会計監査人であるアーク有限責任監査法人との定期的なミーティングの実施、会計監査人による監査に帯同して監査を実施する等、情報を共有して監査法人と連携を強化しております。

(3) 【監査の状況】

監査等委員監査の状況

当社における監査等委員監査は、監査等委員会を設置し、監査等委員会を構成する監査等委員である取締役3名は常勤2名、非常勤1名の体制としております。

監査等委員である取締役の藤原敏夫氏につきましては、当社の属する電子計測器業界の大手メーカーに長年勤務され、業界での豊富な経験と深い知識・見識を有しております。

監査等委員である取締役の小倉義夫氏につきましては、当社の属する電子計測器業界の大手メーカーに長年勤務され、業界での豊富な経験と深い知識・見識を有しております。

監査等委員である取締役の松本善夫氏につきましては、税理士として豊富な会計・税務の専門知識と経験を有し、その専門的知識・見識を有しております。

当事業年度において当社は監査等委員会を2ヶ月に1回及び臨時で開催しており、個々の監査等委員の出席状況については次のとおりであります。

| 氏名    | 開催回数 | 出席回数 |
|-------|------|------|
| 藤原 敏夫 | 11回  | 11回  |
| 小倉 義夫 | 11回  | 11回  |
| 松本 善夫 | 11回  | 11回  |

当社の監査等委員である取締役は、定期的開催される監査等委員会(2ヶ月に1回および臨時)並びに取締役会(毎月1回および臨時)に出席するとともに、常勤監査等委員である取締役においては、経営会議、営業会議、拡大方針説明会、管理職会議、合同営業会議等の重要な会議に出席し、業務執行の状況を把握することで監査の実効性の確保を図っております。

監査等委員である取締役は、監査の実効性を上げ、自らの目で確認するため、営業所や海外子会社、国内子会社を訪問して、監査等委員としての監査を積極的に行っております。また、会計監査人監査や監査室の監査に立ち会うなど、会計監査人や監査室の監査状況をチェックするほか、情報の共有により問題点の把握に努めております。監査等委員監査の結果については、適宜代表取締役社長に報告されるとともに、取締役会にも定期的に報告しております。

内部監査の状況

当社は、社長直轄の監査室(1名)を設置して、内部監査規程に基づき内部監査計画を作成し、当社及び当社子会社の内部監査を実施しております。監査結果は被監査部門に通知され、必要に応じて是正処置がとられております。内部監査実施結果は、代表取締役社長に直接報告するほか、取締役会に報告されております。

また、監査等委員会、会計監査人並びに内部統制室とも適宜連携して、内部監査の実効性確保を図ることとしております。

会計監査の状況

(a) 監査法人の名称

アーク有限責任監査法人

(b) 継続監査期間

13年間

(c) 業務を執行した公認会計士

指定有限責任社員 業務執行社員 公認会計士 吉村 淳一  
 指定有限責任社員 業務執行社員 公認会計士 村瀬 征雄  
 指定有限責任社員 業務執行社員 公認会計士 八巻 優太

(d) 監査業務に係る補助者の構成

当社の会計監査業務に係る補助者は、公認会計士4名、会計士試験合格者等6名、その他8名であります。

(e) 監査法人の選定方針と理由

当社の監査等委員会は、会計監査人の選定に際しては、当社の業務内容に対応して効率的な監査業務を実施することができる一定の規模であり、審査体制が整備されていること、監査日数、監査期間、監査実施要領、監査費用が合理的かつ妥当であること等、総合的に判断して選定いたします。

また、会計監査人が、会社法第340条第1項各号に定める項目に該当すると認められる場合、必要に応じて、監査等委員会は、監査等委員全員の同意により会計監査人を解任いたします。また、監査等委員会は、会計監査人の適格性、専門性、当社からの独立性、その他の評価基準に従い総合的に評価し、会計監査人の職務の執行に支障があると判断されるなど、会計監査人の変更が必要と認められる場合には、株主総会に提出する会計監査人の解任又は不再任に関する議案の内容を決定いたします。

(f) 監査等委員及び監査等委員会による監査法人の評価

当社の監査等委員及び監査等委員会は、会計監査人に対して評価を行っております。この評価については、会計監査人が独立の立場を保持し、かつ、適正な監査を実施しているかを監視及び検証するとともに、会計監査人からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めました。また、会計監査人から「職務の遂行が適正に行われることを確保するための体制」（会社計算規則第131条各号に掲げる事項）を「監査に関する品質管理基準」（2005年10月28日企業会計審議会）等に従って整備している旨の通知を受け、必要に応じて説明を求め、それに基づき総合的に評価しております。

監査報酬の内容等

(a) 監査公認会計士等に対する報酬

(単位：千円)

| 区分    | 前連結会計年度      |             | 当連結会計年度      |             |
|-------|--------------|-------------|--------------|-------------|
|       | 監査証明業務に基づく報酬 | 非監査業務に基づく報酬 | 監査証明業務に基づく報酬 | 非監査業務に基づく報酬 |
| 提出会社  | 36,000       | -           | 36,000       | -           |
| 連結子会社 | -            | -           | -            | -           |
| 合計    | 36,000       | -           | 36,000       | -           |

(b) 監査公認会計士等と同一のネットワーク（KRESTON International）に対する報酬（(a)を除く）

(単位：千円)

| 区分    | 前連結会計年度      |             | 当連結会計年度      |             |
|-------|--------------|-------------|--------------|-------------|
|       | 監査証明業務に基づく報酬 | 非監査業務に基づく報酬 | 監査証明業務に基づく報酬 | 非監査業務に基づく報酬 |
| 提出会社  | -            | -           | -            | -           |
| 連結子会社 | 529          | 109         | 587          | 129         |
| 合計    | 529          | 109         | 587          | 129         |

連結子会社の非監査業務の内容は、合意された手続業務(Agreed-upon Procedures)等であります。

(c) その他の重要な監査証明業務に基づく報酬の内容

該当事項はありません。

(d) 監査報酬の決定方針

当社の監査公認会計士等に対する監査報酬の決定方針としては、監査公認会計士等からの見積提案をもとに、監査日数等を勘案したうえで監査等委員会の同意を得て決定しております。

(e) 監査等委員会が会計監査人の報酬等に同意した理由

当社監査等委員会は、日本監査役協会が公表する「会計監査人との連携に関する実務指針」を踏まえ、監査計画における監査時間及び監査報酬の推移並びに過年度の監査計画と実績の状況を確認し、報酬額の見積りの妥当性を検討した結果、会計監査人の報酬等につき、会社法第399条第1項の同意を行っております。



(4) 【役員の報酬等】

提出会社の役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

| 役員区分                          | 報酬等の総額<br>(千円) | 報酬等の種類別の総額(千円) |        |        | 対象となる<br>役員の員数<br>(名) |
|-------------------------------|----------------|----------------|--------|--------|-----------------------|
|                               |                | 固定報酬           | 業績連動報酬 | 非金銭報酬等 |                       |
| 取締役<br>(監査等委員及び社外<br>取締役を除く。) | 168,428        | 168,428        | -      | -      | 8                     |
| 社外役員                          | 27,374         | 27,374         | -      | -      | 6                     |

提出会社の役員ごとの連結報酬等の総額等

連結報酬等の総額が1億円以上である者が存在しないため、記載しておりません。

使用人兼務役員の使用人分給与のうち重要なもの

該当事項はありません。

役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針に係る事項

当社は、役員の報酬については、取締役会で決議したルールに基づいて、前期の業績を勘案して、個人別の支給額を取締役会で決定しております。

(a) 基本報酬(月額)の構成

- ・取締役の基本報酬月額を決定しております。
- ・代表権の有無、専務、常務については、それぞれ一定額を加算いたします。
- ・本部長、副本部長は、それぞれ一定額を加算いたします。
- ・役員報酬の世間相場等を勘案し、定期的に見直しを行います。

(b) 業績による加算

- ・前期の業績を勘案して、基本報酬に加算を行います。
- ・加算する額は、基本報酬月額×社員へ支給する賞与月数です。
- ・社員へ支給する賞与は、固定賞与の夏2.0カ月、冬2.2カ月と業績に応じた期末賞与、社長から四半期毎に支給される社長感謝金の合計です。

(c) 役員報酬の総額の上限

- ・役員報酬の総額の上限については、2017年6月23日開催の定時株主総会で決議された取締役(監査等委員を除く)の報酬額年額400百万円、監査等委員である取締役の報酬額年額50百万円で承認をいただいております。
  - ・その上限内で、株主への配当金の額、社員への賞与月数と著しくかい離しないこと、内部留保の充実等を総合的に勘案して、支給額の上限を定め、公平かつ適正に支給しております。
    - イ．配当金総額の一定割合(80%)以内とすること
    - ロ．当期内部留保分(当期純利益-配当総額)の25%以下とすること
    - ハ．社員の支給月数を超えないこと
- 等の条件を全て満たす必要があります。

(d) 当期に係る役員の個人別の報酬等の内容が決定方針に沿うものであると取締役会が判断した理由

当期においては、取締役会で取締役の個人別の報酬関係について上記記載の方針をもとに決定しているため、決定方針に沿うものであると判断しております。

(5) 【株式の保有状況】

投資株式の区分の基準及び考え方

当社は、投資株式について、株式の価値の変動または配当の受領によって利益を得ることを目的として保有する株式を純投資目的である投資株式、それ以外の株式を純投資目的以外の目的である投資株式（政策保有株式）に区分しております。

保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式

(a) 保有方針及び保有の合理性を検証する方法並びに個別銘柄の保有の適否に関する取締役会等における検証の内容

当社が保有する上場株式は、株式保有を通じて安定的な取引関係の維持・向上をはかることが、当社の企業価値の向上に資すると認められるものを対象としております。保有する株式は、取締役会において、当該保有先との取引の状況を踏まえた事業上のメリット及び当該株式の市場価格、配当収益その他の経済合理性等を基に、当該株式の保有継続が当社の企業価値向上に資するかどうかを検証し、保有合理性が確認されないものは適切な時期に削減することとしております。

なお、当社は、保有株式に係る議決権行使に当たっては、当該保有先の効率的かつ健全な経営に役立ち、当社及び当該保有先双方の持続的成長・企業価値の向上を寄与するかどうかを総合的に判断した上で、適切に対応しております。

(b) 銘柄数及び貸借対照表計上額

|            | 銘柄数<br>(銘柄) | 貸借対照表計上額の<br>合計額(千円) |
|------------|-------------|----------------------|
| 非上場株式      | 4           | 20,836               |
| 非上場株式以外の株式 | 30          | 1,299,219            |

(当事業年度において株式数が増加した銘柄)

|            | 銘柄数<br>(銘柄) | 株式数の増加に係る取得<br>価額の合計額(千円) | 株式数の増加の理由                        |
|------------|-------------|---------------------------|----------------------------------|
| 非上場株式      | -           | -                         | -                                |
| 非上場株式以外の株式 | 17          | 28,450                    | 企業間の取引紐帯強化の一環。<br>取引先持株会加入による買付。 |

(当事業年度において株式数が減少した銘柄)

|            | 銘柄数<br>(銘柄) | 株式数の減少に係る売却<br>価額の合計額(千円) |
|------------|-------------|---------------------------|
| 非上場株式      | -           | -                         |
| 非上場株式以外の株式 | 2           | 39,888                    |

(c) 特定投資株式及びみなし保有株式の銘柄ごとの株式数、貸借対照表計上額等に関する情報

特定投資株式

| 銘柄              | 当事業年度            | 前事業年度            | 保有目的、定量的な保有効果<br>及び株式数が増加した理由   | 当社の株式の保有の有無 |
|-----------------|------------------|------------------|---|-------------|
|                 | 株式数(株)           | 株式数(株)           |   |             |
|                 | 貸借対照表計上額<br>(千円) | 貸借対照表計上額<br>(千円) |   |             |
| 菊水電子工業(株)       | 279,383          | 275,707          | 主要な仕入先の1社。同社の取引先持株会にも加入。当社は、商社として、仕入先のメーカーの営業部門との協業が不可欠であり、企業間の取引紐帯強化の一環として保有しているものであります。また株式数が増加した理由は、取引先持株会加入による買付によるものであります。 | 有           |
|                 | 307,880          | 241,795          |   |             |
| 日置電機(株)         | 38,500           | 51,030           | 主要な仕入先の1社。当社は、商社として、仕入先のメーカーの営業部門との協業が不可欠であり、企業間の取引紐帯強化の一環として保有しているものであります。   | 有           |
|                 | 271,425          | 219,173          |   |             |
| ソニーグループ(株)      | 10,256           | 10,165           | 主要な販売先の1社。同社の取引先持株会にも加入。当社は、商社として、販売先の購買部門との協業が不可欠であり、企業間の取引紐帯強化の一環として保有しているものであります。また株式数が増加した理由は、取引先持株会加入による買付によるものであります。      | 無           |
|                 | 130,558          | 117,863          |   |             |
| ミネベアミツミ(株)      | 47,885           | 47,277           | 主要な販売先の1社。同社の取引先持株会にも加入。当社は、商社として、販売先の購買部門との協業が不可欠であり、企業間の取引紐帯強化の一環として保有しているものであります。また株式数が増加した理由は、取引先持株会加入による買付によるものであります。      | 無           |
|                 | 129,002          | 133,746          |   |             |
| (株)エヌエフホールディングス | 58,040           | 56,329           | 主要な仕入先の1社。同社の取引先持株会にも加入。当社は、商社として、仕入先のメーカーの営業部門との協業が不可欠であり、企業間の取引紐帯強化の一環として保有しているものであります。また株式数が増加した理由は、取引先持株会加入による買付によるものであります。 | 有           |
|                 | 72,491           | 114,573          |   |             |
| コニカミノルタ(株)      | 121,759          | 113,083          | 主要な仕入先の1社。同社の取引先持株会にも加入。当社は、商社として、仕入先のメーカーの営業部門との協業が不可欠であり、企業間の取引紐帯強化の一環として保有しているものであります。また株式数が増加した理由は、取引先持株会加入による買付によるものであります。 | 無           |
|                 | 62,827           | 67,849           |   |             |
| (株)トプコン         | 29,866           | 29,001           | 主要な仕入先の1社。同社の取引先持株会にも加入。当社は、商社として、仕入先のメーカーの営業部門との協業が不可欠であり、企業間の取引紐帯強化の一環として保有しているものであります。また株式数が増加した理由は、取引先持株会加入による買付によるものであります。 | 無           |
|                 | 46,740           | 38,919           |   |             |
| エスベック(株)        | 23,000           | 23,000           | 主要な仕入先の1社。当社は、商社として、仕入先のメーカーの営業部門との協業が不可欠であり、企業間の取引紐帯強化の一環として保有しているものであります。   | 有           |
|                 | 45,264           | 42,527           |   |             |
| (株)小野測器         | 56,741           | 54,230           | 主要な仕入先の1社。同社の取引先持株会にも加入。当社は、商社として、仕入先のメーカーの営業部門との協業が不可欠であり、企業間の取引紐帯強化の一環として保有しているものであります。また株式数が増加した理由は、取引先持株会加入による買付によるものであります。 | 有           |
|                 | 26,781           | 30,151           |   |             |

| 銘柄             | 当事業年度            | 前事業年度            | 保有目的、定量的な保有効果<br>及び株式数が増加した理由  | 当社の株式の保有の有無 |
|----------------|------------------|------------------|--|-------------|
|                | 株式数(株)           | 株式数(株)           |  |             |
|                | 貸借対照表計上額<br>(千円) | 貸借対照表計上額<br>(千円) |  |             |
| (株)東京精密        | 5,050            | 4,704            | 主要な仕入先の1社。同社の取引先持株会にも加入。当社は、商社として、仕入先のメーカーの営業部門との協業が不可欠であり、企業間の取引紐帯強化の一環として保有しているものであります。また株式数が増加した理由は、取引先持株会加入による買付によるものであります。  | 無           |
|                | 24,644           | 23,708           |  |             |
| I M V(株)       | 48,452           | 45,842           | 主要な仕入先の1社。同社の取引先持株会にも加入。当社は、商社として、仕入先のメーカーの営業部門との協業が不可欠であり、企業間の取引紐帯強化の一環として保有しているものであります。また株式数が増加した理由は、取引先持株会加入による買付によるものであります。  | 無           |
|                | 24,565           | 23,012           |  |             |
| 岩崎通信機(株)       | 27,243           | 24,748           | 主要な仕入先の1社。同社の取引先持株会にも加入。当社は、商社として、仕入先のメーカーの営業部門との協業が不可欠であり、企業間の取引紐帯強化の一環として保有しているものであります。また株式数が増加した理由は、取引先持株会加入による買付によるものであります。  | 有           |
|                | 23,837           | 22,297           |  |             |
| 山洋電気(株)        | 3,999            | 3,910            | 主要な販売先の1社。同社の取引先持株会にも加入。当社は、商社として、販売先の購買部門との協業が不可欠であり、企業間の取引紐帯強化の一環として保有しているものであります。また株式数が増加した理由は、取引先持株会加入による買付によるものであります。       | 無           |
|                | 19,695           | 23,029           |  |             |
| ミナトホールディングス(株) | 42,000           | 42,000           | 主要な仕入先の1社。当社は、商社として、仕入先のメーカーの営業部門との協業が不可欠であり、企業間の取引紐帯強化の一環として保有しているものであります。  | 有           |
|                | 19,068           | 18,018           |  |             |
| A G C(株)       | 3,793            | 3,692            | 主要な販売先の1社。同社の取引先持株会にも加入。当社は、商社として、販売先の購買部門との協業が不可欠であり、企業間の取引紐帯強化の一環として保有しているものであります。また株式数が増加した理由は、取引先持株会加入による買付によるものであります。       | 無           |
|                | 18,604           | 17,093           |  |             |
| 東亜ディーケーケー(株)   | 16,250           | 16,250           | 主要な販売先の1社。当社は、商社として、販売先の購買部門との協業が不可欠であり、企業間の取引紐帯強化の一環として保有しているものであります。   | 有           |
|                | 14,917           | 13,325           |  |             |
| リーダー電子(株)      | 29,410           | 28,277           | 主要な仕入先の1社。同社の取引先持株会にも加入。当社は、商社として、仕入先のメーカーの営業部門との協業が不可欠であり、企業間の取引紐帯強化の一環として保有しているものであります。また株式数が増加した理由は、取引先持株会加入による買付等によるものであります。 | 有           |
|                | 14,705           | 19,369           |  |             |
| 日清紡ホールディングス(株) | 10,122           | 10,122           | 主要な販売先の1社。当社は、商社として、販売先の購買部門との協業が不可欠であり、企業間の取引紐帯強化の一環として保有しているものであります。   | 無           |
|                | 10,759           | 8,340            |  |             |
| 東ブレ(株)         | 8,777            | 8,227            | 主要な販売先の1社。同社の取引先持株会にも加入。当社は、商社として、販売先の購買部門との協業が不可欠であり、企業間の取引紐帯強化の一環として保有しているものであります。また株式数が増加した理由は、取引先持株会加入による買付によるものであります。       | 無           |
|                | 10,312           | 12,842           |  |             |

| 銘柄                 | 当事業年度            | 前事業年度            | 保有目的、定量的な保有効果<br>及び株式数が増加した理由   | 当社の株式の保有の有無 |
|--------------------|------------------|------------------|---|-------------|
|                    | 株式数(株)           | 株式数(株)           |   |             |
|                    | 貸借対照表計上額<br>(千円) | 貸借対照表計上額<br>(千円) |   |             |
| パナソニック(株)          | 5,984            | 5,984            | 主要な販売先の1社。当社は、商社として、販売先の購買部門との協業が不可欠であり、企業間の取引紐帯強化の一環として保有しているものであります。  | 無           |
|                    | 7,111            | 8,518            |   |             |
| (株)村田製作所           | 708              | 688              | 主要な販売先の1社。同社の取引先持株会にも加入。当社は、商社として、販売先の購買部門との協業が不可欠であり、企業間の取引紐帯強化の一環として保有しているものであります。また株式数が増加した理由は、取引先持株会加入による買付によるものであります。      | 無           |
|                    | 5,746            | 6,083            |   |             |
| 大興電子通信(株)          | 8,109            | 5,829            | 主要な仕入先の1社。同社の取引先持株会にも加入。当社は、商社として、仕入先のメーカーの営業部門との協業が不可欠であり、企業間の取引紐帯強化の一環として保有しているものであります。また株式数が増加した理由は、取引先持株会加入による買付によるものであります。 | 無           |
|                    | 3,267            | 3,270            |   |             |
| キヤノンマーケティングジャパン(株) | 1,100            | 1,100            | 主要な販売先の1社。当社は、商社として、販売先の購買部門との協業が不可欠であり、企業間の取引紐帯強化の一環として保有しているものであります。  | 無           |
|                    | 2,775            | 2,701            |   |             |
| (株)東芝              | 312              | 278              | 主要な販売先の1社。同社の取引先持株会にも加入。当社は、商社として、販売先の購買部門との協業が不可欠であり、企業間の取引紐帯強化の一環として保有しているものであります。また株式数が増加した理由は、取引先持株会加入による買付によるものであります。      | 無           |
|                    | 1,450            | 1,039            |   |             |
| 芝浦機械(株)            | 400              | 400              | 主要な販売先の1社。当社は、商社として、販売先の購買部門との協業が不可欠であり、企業間の取引紐帯強化の一環として保有しているものであります。  | 無           |
|                    | 1,368            | 1,118            |   |             |
| (株)日立製作所           | 200              | 200              | 主要な販売先の1社。当社は、商社として、販売先の購買部門との協業が不可欠であり、企業間の取引紐帯強化の一環として保有しているものであります。  | 無           |
|                    | 1,233            | 1,000            |   |             |
| ANAホールディングス(株)     | 400              | 400              | 株主優待制度利用による出張時の経費削減を目的として保有しております。  | 無           |
|                    | 1,026            | 1,028            |   |             |
| (株)ニコン             | 500              | 500              | 主要な仕入先の1社。当社は、商社として、仕入先のメーカーの営業部門との協業が不可欠であり、企業間の取引紐帯強化の一環として保有しているものであります。   | 無           |
|                    | 657              | 517              |   |             |
| (株)中央製作所           | 300              | 300              | 主要な仕入先の1社。当社は、商社として、仕入先のメーカーの営業部門との協業が不可欠であり、企業間の取引紐帯強化の一環として保有しているものであります。   | 有           |
|                    | 404              | 321              |   |             |
| (株)東天紅             | 100              | 100              | 株主優待制度利用による経費削減を目的として保有しております。  | 無           |
|                    | 95               | 107              |   |             |
| (株)コンテック           | -                | 44,000           | -   | 有           |
|                    | -                | 75,240           |   |             |

(注) 1 「-」は当該銘柄を保有していないことを示しています。

2 定量的な保有効果については記載が困難であります。保有の合理性は事業上のメリット及び当該株式の市場価格、配当収益等を基に、当該株式の保有継続が当社の企業価値向上に資するかどうかにより検証しております。

保有目的が純投資目的である投資株式

該当事項はありません。

## 第5 【経理の状況】

### 1 連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

- (1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(1976年大蔵省令第28号)に基づいて作成しております。
- (2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(1963年大蔵省令第59号)に基づいて作成しております。

### 2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度(2021年4月1日から2022年3月31日まで)の連結財務諸表及び事業年度(2021年4月1日から2022年3月31日まで)の財務諸表について、アーク有限責任監査法人により監査を受けております。

### 3 連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みを行っております。具体的には、会計基準等の内容を適切に把握し、会計基準等の変更等についての確に対応することができる体制を整備するため、公益財団法人財務会計基準機構へ加入しております。

## 1 【連結財務諸表等】

## (1) 【連結財務諸表】

## 【連結貸借対照表】

(単位：千円)

|               | 前連結会計年度<br>(2021年3月31日) | 当連結会計年度<br>(2022年3月31日) |
|---------------|-------------------------|-------------------------|
| <b>資産の部</b>   |                         |                         |
| 流動資産          |                         |                         |
| 現金及び預金        | 7,279,792               | 8,174,474               |
| 受取手形及び売掛金     | 30,502,375              | <sup>2</sup> 31,170,767 |
| 電子記録債権        | 3,014,773               | 3,562,364               |
| 商品及び製品        | 1,587,833               | 4,112,046               |
| 仕掛品           | 76,289                  | 86,535                  |
| 原材料及び貯蔵品      | 78,290                  | 83,522                  |
| その他           | 1,129,999               | 1,639,421               |
| 貸倒引当金         | 107,064                 | 159,562                 |
| 流動資産合計        | 43,562,290              | 48,669,570              |
| 固定資産          |                         |                         |
| 有形固定資産        |                         |                         |
| 建物及び構築物       | 3,219,896               | 3,257,826               |
| 減価償却累計額       | 650,812                 | 744,159                 |
| 建物及び構築物(純額)   | 2,569,083               | 2,513,666               |
| 車両運搬具         | 227,725                 | 243,341                 |
| 減価償却累計額       | 163,495                 | 180,582                 |
| 車両運搬具(純額)     | 64,229                  | 62,758                  |
| 工具、器具及び備品     | 2,053,430               | 2,308,021               |
| 減価償却累計額       | 1,247,320               | 1,524,964               |
| 工具、器具及び備品(純額) | 806,110                 | 783,057                 |
| 土地            | 1,602,602               | 1,602,602               |
| リース資産         | 23,653                  | 514,784                 |
| 減価償却累計額       | 13,394                  | 224,517                 |
| リース資産(純額)     | 10,258                  | 290,266                 |
| 建設仮勘定         | 31,135                  | 168,281                 |
| 有形固定資産合計      | 5,083,420               | 5,420,632               |
| 無形固定資産        |                         |                         |
| ソフトウェア        | 44,987                  | 161,390                 |
| ソフトウェア仮勘定     | -                       | 48,168                  |
| リース資産         | 7,712                   | 13,427                  |
| その他           | 52,782                  | 56,078                  |
| 無形固定資産合計      | 105,482                 | 279,064                 |
| 投資その他の資産      |                         |                         |
| 投資有価証券        | 1,388,446               | 1,404,201               |
| 関係会社株式        | <sup>3</sup> 22,377     | <sup>3</sup> 12,777     |
| 関係会社出資金       | -                       | <sup>3</sup> 18,431     |
| 長期貸付金         | 33,925                  | 1,650                   |
| 繰延税金資産        | 117,061                 | 182,250                 |
| その他           | 660,011                 | 712,593                 |
| 貸倒引当金         | 13,212                  | 58,438                  |
| 投資その他の資産合計    | 2,208,609               | 2,273,466               |
| 固定資産合計        | 7,397,512               | 7,973,163               |
| 資産合計          | 50,959,802              | 56,642,733              |

(単位：千円)

|               | 前連結会計年度<br>(2021年3月31日) | 当連結会計年度<br>(2022年3月31日) |
|---------------|-------------------------|-------------------------|
| <b>負債の部</b>   |                         |                         |
| 流動負債          |                         |                         |
| 支払手形及び買掛金     | 17,541,541              | 17,990,839              |
| 短期借入金         | 6,919,308               | 7,970,096               |
| リース債務         | 4,455                   | 149,901                 |
| 未払法人税等        | 610,557                 | 844,327                 |
| その他           | 1,569,591               | <sup>3</sup> 1,918,588  |
| 流動負債合計        | 26,645,454              | 28,873,753              |
| 固定負債          |                         |                         |
| 長期借入金         | 2,485,665               | 3,651,203               |
| リース債務         | 15,908                  | 182,734                 |
| 繰延税金負債        | 20,102                  | 12,175                  |
| 退職給付に係る負債     | 146,913                 | 129,330                 |
| その他           | 500                     | 500                     |
| 固定負債合計        | 2,669,088               | 3,975,943               |
| 負債合計          | 29,314,543              | 32,849,696              |
| <b>純資産の部</b>  |                         |                         |
| 株主資本          |                         |                         |
| 資本金           | 1,159,170               | 1,159,170               |
| 資本剰余金         | 1,419,425               | 1,417,158               |
| 利益剰余金         | 17,850,083              | 19,513,779              |
| 自己株式          | 30,073                  | 31,353                  |
| 株主資本合計        | 20,398,605              | 22,058,754              |
| その他の包括利益累計額   |                         |                         |
| その他有価証券評価差額金  | 432,602                 | 443,928                 |
| 為替換算調整勘定      | 2,822                   | 537,505                 |
| その他の包括利益累計額合計 | 435,425                 | 981,434                 |
| 非支配株主持分       | 811,229                 | 752,848                 |
| 純資産合計         | 21,645,259              | 23,793,037              |
| 負債純資産合計       | 50,959,802              | 56,642,733              |



## 【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】

## 【連結損益計算書】

(単位：千円)

|                    | 前連結会計年度<br>(自 2020年4月1日<br>至 2021年3月31日) | 当連結会計年度<br>(自 2021年4月1日<br>至 2022年3月31日) |
|--------------------|--|--|
| 売上高                | 82,669,514                               | 1 91,857,312                             |
| 売上原価               | 2 72,981,886                             | 2 80,404,577                             |
| 売上総利益              | 9,687,627                                | 11,452,734                               |
| 販売費及び一般管理費         | 3 7,795,396                              | 3 8,788,066                              |
| 営業利益               | 1,892,231                                | 2,664,668                                |
| 営業外収益              |  |  |
| 受取利息               | 34,544                                   | 31,962                                   |
| 受取配当金              | 25,206                                   | 31,510                                   |
| 仕入割引               | 39,298                                   | 39,987                                   |
| 為替差益               | 114,192                                  | 290,227                                  |
| 補助金収入              | 35,469                                   | 38,788                                   |
| その他                | 91,462                                   | 92,756                                   |
| 営業外収益合計            | 340,173                                  | 525,233                                  |
| 営業外費用              |  |  |
| 支払利息               | 76,284                                   | 102,547                                  |
| 持分法による投資損失         | 13,178                                   | 12,383                                   |
| 貸倒引当金繰入額           | -  | 40,000                                   |
| その他                | 10,116                                   | 4,447                                    |
| 営業外費用合計            | 99,579                                   | 159,378                                  |
| 経常利益               | 2,132,825                                | 3,030,523                                |
| 特別利益               |  |  |
| 固定資産売却益            | 4 1,061                                  | 4 5,352                                  |
| 投資有価証券売却益          | 70,034                                   | 200,204                                  |
| 特別利益合計             | 71,096                                   | 205,557                                  |
| 特別損失               |  |  |
| 固定資産売却損            | -  | 5 499                                    |
| 固定資産除却損            | 6 3,604                                  | 6 572                                    |
| 投資有価証券評価損          | 50,638                                   | -  |
| 特別損失合計             | 54,242                                   | 1,072                                    |
| 税金等調整前当期純利益        | 2,149,679                                | 3,235,008                                |
| 法人税、住民税及び事業税       | 763,458                                  | 1,067,281                                |
| 法人税等調整額            | 37,991                                   | 60,010                                   |
| 法人税等合計             | 725,466                                  | 1,007,271                                |
| 当期純利益              | 1,424,213                                | 2,227,737                                |
| 非支配株主に帰属する当期純損失( ) | 42,621                                   | 24,473                                   |
| 親会社株主に帰属する当期純利益    | 1,466,835                                | 2,252,211                                |

【連結包括利益計算書】

(単位：千円)

|                  | 前連結会計年度<br>(自 2020年 4月 1日<br>至 2021年 3月 31日) | 当連結会計年度<br>(自 2021年 4月 1日<br>至 2022年 3月 31日) |
|------------------|--|--|
| 当期純利益            | 1,424,213                                    | 2,227,737                                    |
| その他の包括利益         |  |  |
| その他有価証券評価差額金     | 287,682                                      | 11,325                                       |
| 為替換算調整勘定         | 32,950                                       | 608,140                                      |
| 持分法適用会社に対する持分相当額 | 1,977  | 2,783  |
| その他の包括利益合計       | 252,753                                      | 622,249                                      |
| 包括利益             | 1,676,966                                    | 2,849,986                                    |
| (内訳)             |  |  |
| 親会社株主に係る包括利益     | 1,718,972                                    | 2,798,220                                    |
| 非支配株主に係る包括利益     | 42,005                                       | 51,766                                       |

【連結株主資本等変動計算書】

前連結会計年度(自 2020年4月1日 至 2021年3月31日)

(単位：千円)

|                          | 株主資本      |           |            |        |            |
|--------------------------|-----------|-----------|------------|--------|------------|
|                          | 資本金       | 資本剰余金     | 利益剰余金      | 自己株式   | 株主資本合計     |
| 当期首残高                    | 1,159,170 | 1,328,773 | 16,775,595 | 29,995 | 19,233,542 |
| 当期変動額                    |           |           |            |        |            |
| 剰余金の配当                   |           |           | 392,347    |        | 392,347    |
| 親会社株主に帰属する<br>当期純利益      |           |           | 1,466,835  |        | 1,466,835  |
| 自己株式の取得                  |           |           |            | 78     | 78         |
| 連結子会社の増資による<br>持分の増減     |           | 90,652    |            |        | 90,652     |
| 非支配株主との取引に<br>係る親会社の持分変動 |           |           |            |        | -          |
| 株主資本以外の項目の<br>当期変動額(純額)  |           |           |            |        |            |
| 当期変動額合計                  | -         | 90,652    | 1,074,488  | 78     | 1,165,062  |
| 当期末残高                    | 1,159,170 | 1,419,425 | 17,850,083 | 30,073 | 20,398,605 |

|                          | その他の包括利益累計額      |          |                   | 非支配株主持分 | 純資産合計      |
|--------------------------|------------------|----------|-------------------|---------|------------|
|                          | その他有価証券<br>評価差額金 | 為替換算調整勘定 | その他の包括利益<br>累計額合計 |         |            |
| 当期首残高                    | 144,920          | 31,972   | 176,892           | 572,529 | 19,982,965 |
| 当期変動額                    |                  |          |                   |         |            |
| 剰余金の配当                   |                  |          |                   |         | 392,347    |
| 親会社株主に帰属する<br>当期純利益      |                  |          |                   |         | 1,466,835  |
| 自己株式の取得                  |                  |          |                   |         | 78         |
| 連結子会社の増資による<br>持分の増減     |                  |          |                   |         | 90,652     |
| 非支配株主との取引に<br>係る親会社の持分変動 |                  |          |                   |         | -          |
| 株主資本以外の項目の<br>当期変動額(純額)  | 287,682          | 29,149   | 258,532           | 238,699 | 497,232    |
| 当期変動額合計                  | 287,682          | 29,149   | 258,532           | 238,699 | 1,662,294  |
| 当期末残高                    | 432,602          | 2,822    | 435,425           | 811,229 | 21,645,259 |

当連結会計年度(自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)

(単位：千円)

|                          | 株主資本      |           |            |        |            |
|--------------------------|-----------|-----------|------------|--------|------------|
|                          | 資本金       | 資本剰余金     | 利益剰余金      | 自己株式   | 株主資本合計     |
| 当期首残高                    | 1,159,170 | 1,419,425 | 17,850,083 | 30,073 | 20,398,605 |
| 当期変動額                    |           |           |            |        |            |
| 剰余金の配当                   |           |           | 588,515    |        | 588,515    |
| 親会社株主に帰属する<br>当期純利益      |           |           | 2,252,211  |        | 2,252,211  |
| 自己株式の取得                  |           |           |            | 1,279  | 1,279      |
| 連結子会社の増資による<br>持分の増減     |           |           |            |        | -          |
| 非支配株主との取引に係る<br>親会社の持分変動 |           | 2,266     |            |        | 2,266      |
| 株主資本以外の項目の<br>当期変動額(純額)  |           |           |            |        |            |
| 当期変動額合計                  | -         | 2,266     | 1,663,695  | 1,279  | 1,660,149  |
| 当期末残高                    | 1,159,170 | 1,417,158 | 19,513,779 | 31,353 | 22,058,754 |

|                          | その他の包括利益累計額      |          |                   | 非支配株主持分 | 純資産合計      |
|--------------------------|------------------|----------|-------------------|---------|------------|
|                          | その他有価証券<br>評価差額金 | 為替換算調整勘定 | その他の包括利益<br>累計額合計 |         |            |
| 当期首残高                    | 432,602          | 2,822    | 435,425           | 811,229 | 21,645,259 |
| 当期変動額                    |                  |          |                   |         |            |
| 剰余金の配当                   |                  |          |                   |         | 588,515    |
| 親会社株主に帰属する<br>当期純利益      |                  |          |                   |         | 2,252,211  |
| 自己株式の取得                  |                  |          |                   |         | 1,279      |
| 連結子会社の増資による<br>持分の増減     |                  |          |                   |         | -          |
| 非支配株主との取引に係る<br>親会社の持分変動 |                  |          |                   |         | 2,266      |
| 株主資本以外の項目の<br>当期変動額(純額)  | 11,325           | 534,683  | 546,009           | 58,380  | 487,628    |
| 当期変動額合計                  | 11,325           | 534,683  | 546,009           | 58,380  | 2,147,777  |
| 当期末残高                    | 443,928          | 537,505  | 981,434           | 752,848 | 23,793,037 |

## 【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

|                         | 前連結会計年度<br>(自 2020年4月1日<br>至 2021年3月31日) | 当連結会計年度<br>(自 2021年4月1日<br>至 2022年3月31日) |
|-------------------------|--|--|
| <b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b> |  |  |
| 税金等調整前当期純利益             | 2,149,679                                | 3,235,008                                |
| 減価償却費                   | 365,730                                  | 613,635                                  |
| 貸倒引当金の増減額(は減少)          | 16,163                                   | 97,723                                   |
| 退職給付に係る負債の増減額(は減少)      | 428                                      | 18,211                                   |
| 受取利息及び受取配当金             | 59,750                                   | 63,473                                   |
| 支払利息                    | 76,284                                   | 102,547                                  |
| 為替差損益(は益)               | 19,790                                   | 46,540                                   |
| 固定資産除却損                 | 3,604                                    | 572                                      |
| 持分法による投資損益(は益)          | 13,178                                   | 12,383                                   |
| 有形固定資産売却損益(は益)          | 1,061                                    | 4,853                                    |
| 投資有価証券売却損益(は益)          | 70,034                                   | 200,204                                  |
| 投資有価証券評価損益(は益)          | 50,638                                   | -  |
| 売上債権の増減額(は増加)           | 3,029,016                                | 777,185                                  |
| 棚卸資産の増減額(は増加)           | 600,291                                  | 2,510,141                                |
| 仕入債務の増減額(は減少)           | 772,600                                  | 248,481                                  |
| 未払又は未収消費税等の増減額          | 316,996                                  | 318,206                                  |
| その他の資産の増減額(は増加)         | 446,973                                  | 552,085                                  |
| その他の負債の増減額(は減少)         | 29,608                                   | 528,561                                  |
| 小計                      | 5,189,007                                | 348,012                                  |
| 利息及び配当金の受取額             | 59,762                                   | 63,453                                   |
| 利息の支払額                  | 77,448                                   | 103,458                                  |
| 法人税等の支払額                | 597,485                                  | 847,222                                  |
| 営業活動によるキャッシュ・フロー        | 4,573,836                                | 539,214                                  |
| <b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b> |  |  |
| 定期預金の預入による支出            | 25,706                                   | 247,299                                  |
| 定期預金の払戻による収入            | 145,136                                  | 307,690                                  |
| 有形固定資産の取得による支出          | 505,036                                  | 374,604                                  |
| 有形固定資産の売却による収入          | 1,216                                    | 16,945                                   |
| 無形固定資産の取得による支出          | 13,651                                   | 159,605                                  |
| 投資有価証券の取得による支出          | 29,523                                   | 28,574                                   |
| 投資有価証券の売却による収入          | 85,142                                   | 240,093                                  |
| 関係会社出資金の払込による支出         | -  | 18,431                                   |
| 貸付けによる支出                | 3,800                                    | -  |
| 貸付金の回収による収入             | 9,036                                    | 7,975                                    |
| その他                     | 25,777                                   | 24,983                                   |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー        | 311,408                                  | 280,794                                  |

(単位：千円)

|                            | 前連結会計年度<br>(自 2020年4月1日<br>至 2021年3月31日) | 当連結会計年度<br>(自 2021年4月1日<br>至 2022年3月31日) |
|----------------------------|--|--|
| <b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>    |  |  |
| 短期借入金の純増減額（ は減少）           | 2,619,095                                | 1,974,455                                |
| 長期借入れによる収入                 | 2,015,294                                | 2,530,000                                |
| 長期借入金の返済による支出              | 1,615,304                                | 2,288,130                                |
| リース債務の返済による支出              | 3,031                                    | 47,224                                   |
| 自己株式の取得による支出               | 78                                       | 1,279                                    |
| 配当金の支払額                    | 392,922                                  | 588,029                                  |
| 非支配株主からの払込みによる収入           | 390,665                                  | -  |
| 非支配株主への配当金の支払額             | 12,912                                   | 107,131                                  |
| その他                        | -  | 5,282                                    |
| <b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>    | <b>2,237,384</b>                         | <b>1,467,378</b>                         |
| 現金及び現金同等物に係る換算差額           | 1,596                                    | 299,980                                  |
| <b>現金及び現金同等物の増減額（ は減少）</b> | <b>2,026,640</b>                         | <b>947,349</b>                           |
| 現金及び現金同等物の期首残高             | 4,821,759                                | 6,848,400                                |
| 現金及び現金同等物の期末残高             | 6,848,400                                | 7,795,749                                |

【注記事項】

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1 連結の範囲に関する事項

(1) 連結子会社の数 19社

主要な会社の名称

「第1 企業の概況 4 関係会社の状況」に記載しているため省略しております。

(2) 主要な非連結子会社の名称等

非連結子会社の名称

電計測控科技(廈門)有限公司

連結の範囲から除いた理由

非連結子会社は、小規模であり、合計の総資産、売上高、当期純損益（持分に見合う額）及び利益剰余金（持分に見合う額）等は、いずれも連結財務諸表に重要な影響を及ぼしていないため、連結の範囲から除いております。

2 持分法の適用に関する事項

(1) 持分法適用の非連結子会社数 0社

(2) 持分法適用の関連会社数 1社

主要な会社の名称

「第1 企業の概況 4 関係会社の状況」に記載しているため省略しております。

(3) 持分法を適用しない非連結子会社及び関連会社の名称等

会社等の名称

非連結子会社

電計測控科技(廈門)有限公司

関連会社

株式会社サープレス

持分法を適用しない理由

持分法を適用しない非連結子会社及び関連会社は当期純損益（持分に見合う額）及び利益剰余金（持分に見合う額）等からみて、持分法の対象から除いても連結財務諸表に及ぼす影響が軽微であり、かつ、全体としても重要性がないため、持分法の適用から除外しております。

(4) 持分法適用会社の事業年度等に関する事項

持分法適用会社であるJQA CALIBRATION VIETNAM CO.,LTD.の決算日は12月31日であります。連結財務諸表の作成にあたっては同日現在の財務諸表を使用しております。

3 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社19社のうち、

NIHON DENKEI (MALAYSIA)SDN.BHD.、

NIHON DENKEI (THAILAND)CO.,LTD.、

ND KOREA CO.,LTD.、

日本電計（香港）有限公司、

NIHON DENKEI VIETNAM CO.,LTD.、

電計科技研発（上海）股份有限公司、

電計貿易（上海）有限公司、

NIHON DENKEI INDIA PRIVATE LTD.、

PT.NIHON DENKEI INDONESIA、

TAIWAN DENKEI SOLUTION CO.,LTD.、

NIHON DENKEI PHILIPPINES , INC.

DENKEI CORPORATION AMERICAS

電計科技研発（蘇州）有限公司  
電計科技発展（上海）有限公司

は連結財務諸表の作成にあたって12月31日現在の財務諸表を使用し、連結決算日との間に生じた重要な取引については、連結上必要な調整を行っております。

#### 4 会計方針に関する事項

##### (1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

有価証券

その他有価証券

市場価格のない株式等以外のもの

時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定しております。）

市場価格のない株式等

移動平均法による原価法

なお、投資事業有限責任組合（金融商品取引法第2条第2項により有価証券とみなされるもの）については、組合契約に規定される決算日に応じて入手可能な最近の決算書を基礎とし、持分相当額を純額で取り込む方法によっております。

棚卸資産

商品及び製品

主として移動平均法による原価法（貸借対照表価額については収益性の低下による簿価切下げの方法）

デリバティブ

時価法

##### (2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

有形固定資産（リース資産を除く）

主に定額法によっております。

主な耐用年数

建物 3年～50年

車両運搬具 4年～5年

工具、器具及び備品 3年～20年

無形固定資産（リース資産を除く）

自社利用のソフトウェアについては、社内における見込利用可能期間（5年）に基づく定額法を採用しております。

リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産については、リース期間を耐用年数とし、残存価額を零として算定する定額法によっております。

##### (3) 重要な引当金の計上基準

貸倒引当金

売上債権、貸付金等の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。



(4) 退職給付に係る会計処理の方法

一部の連結子会社は、退職給付に係る負債及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額から、中小企業退職金共済制度により支給される額を控除した額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。

(5) 重要な収益及び費用の計上基準

当社グループは主として、電子計測器等の販売及び修理、校正、保守等を行っております。約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することとしております。

当社グループの顧客との契約から生じる収益に関する主要な事業における主な履行義務の内容及び当該履行義務を充足する通常の時点（収益を認識する通常の時点）は以下のとおりであります。

商品及び製品の販売

国内における商品及び製品の販売については、「収益認識に関する会計基準の適用指針」第98項に定める代替的な取扱いを適用し、出荷時から当該商品及び製品の支配が顧客に移転される時までの期間が通常の期間である場合については、顧客への引き渡しにより顧客に当該商品及び製品の支配が移転し、履行義務が充足されるため、出荷時に収益を認識しております。それ以外の場合については、商品及び製品が顧客に検収されることにより顧客に当該商品及び製品の支配が移転し、履行義務が充足されるため、検収時に収益を認識しております。

商品及び製品の輸出版売については、顧客との契約に基づいた貿易条件により、商品及び製品に対するリスク負担が顧客に移転した時点で顧客に支配が移転し支配を獲得するため、当該時点で履行義務が充足されると判断し、収益を認識しております。

修理・校正・保守等のサービスの提供

修理・校正・保守等のサービスの提供については、履行義務が一時点で充足される場合には、関連した商品及び製品の出荷時点で当該履行義務が充足されると判断し、収益を認識しております。また、履行義務が一定期間にわたり充足される場合には、時の経過に伴い当該履行義務が充足されると判断し、契約期間にわたって均等按分することにより収益を認識しております。

(6) 重要な外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。

なお、在外子会社の資産及び負債、収益及び費用は各在外子会社の決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は純資産の部における為替換算調整勘定及び非支配株主持分に含めております。

(7) 重要なヘッジ会計の方法

ヘッジ会計の方法

原則として繰延ヘッジ処理によっております。なお、振当処理の要件を満たしている為替予約については振当処理に、特例処理の要件を満たしている金利スワップについては特例処理によっております。

ヘッジ手段とヘッジ対象

ヘッジ手段とヘッジ対象は以下のとおりであります。

(a) ヘッジ手段...為替予約

ヘッジ対象...商品輸出による外貨建売上債権、商品輸入による外貨建買入債務及び外貨建予定取引

(b) ヘッジ手段...金利スワップ

ヘッジ対象...借入金の利息

ヘッジ方針

デリバティブ取引に関する権限規定及び取引限度額等を定めた内部規定に基づき、ヘッジ対象に係る為替変動リスク及び金利変動リスクを一定の範囲内でヘッジしております。

ヘッジ有効性評価の方法

為替予約については、締結時に、リスク管理方針に従って、外貨建による同一金額で同一期日の為替予約をそ

れぞれ振当てているため、その後の為替相場の変動による相関関係は完全に確保されているので決算日における有効性の評価を省略しております。

また、金利スワップは特例処理の要件を充たしており、その判定をもって有効性の評価に代えております。

(8) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、要求払預金及び取得日から3ヶ月以内に満期日の到来する流動性の高い、容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりスクしか負わない短期的な投資であります。

## (重要な会計上の見積り)

## (政策的に保有する棚卸資産)

## 1 当連結会計年度の連結財務諸表に計上した金額

(単位：千円)

|        | 前連結会計年度 | 当連結会計年度   |
|--------|---------|-----------|
| 商品及び製品 | 960,495 | 1,097,738 |

## 2 識別した項目に係る重要な会計上の見積りの内容に関する情報

商品及び製品のうち、政策的に保有している商品は取得原価で評価しておりますが、過去の販売実績等より収益性の低下が認められる商品及び営業循環過程から外れた商品について、当該商品を抽出し、過年度の販売実績、受注状況、新商品との取替等を踏まえて一定の仮定のもと将来の販売見込みを評価し、帳簿価額を切り下げる方法により評価しております。

これらの見積りは将来の不確実な経済状況及び会社の経営状況の影響を受け、一定の仮定のもとで販売見込みがあると判断した棚卸資産が、翌連結会計年度において販売見込みがない状況となった場合、翌連結会計年度の連結財務諸表において認識する金額に重要な影響を与える可能性があります。

## (会計方針の変更)

## (収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を当連結会計年度の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取る見込まれる金額で収益を認識することとしております。

これにより、従来は原則として商品又は製品の出荷時点で収益を認識しておりましたが、顧客が商品又は製品の支配を獲得した時点で収益を認識する方法に変更しております。なお、「収益認識に関する会計基準の適用指針」第98項に定める代替的な取扱いを適用し、商品又は製品の国内の販売において、出荷時から当該商品又は製品の支配が顧客に移転されるまでの期間が通常の間である場合には、出荷時に収益を認識しております。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、当連結会計年度の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、当連結会計年度の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しております。ただし、収益認識会計基準第86項に定める方法を適用し、当連結会計年度の期首より前までに従前の取扱いに従ってほとんどすべての収益の額を認識した契約に、新たな会計方針を遡及適用していません。

この結果、当連結会計年度の売上高は1,254,997千円減少し、売上原価は1,067,387千円減少し、営業利益、経常利益及び税金等調整前当期純利益はそれぞれ187,609千円減少しております。また、利益剰余金の当期首残高に与える影響はありません。

1株当たり情報に与える影響は、当該箇所に記載しております。

なお、収益認識会計基準第89-3項に定める経過的な取扱いに従って、前連結会計年度に係る「収益認識関係」注記については記載していません。

## (時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を当連結会計年度の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することとしております。これによる連結財務諸表に与える影響はありません。

また、「金融商品関係」注記において、金融商品の時価のレベルごとの内訳等に関する事項等の注記を行うこととしました。ただし、「金融商品の時価等の開示に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第19号2019年7月4日)第7-4項に定める経過的な取扱いに従って、当該注記のうち前連結会計年度に係るものについては記載していません。

(表示方法の変更)

(連結貸借対照表)

前連結会計年度において、「無形固定資産」の「その他」に含めていた「ソフトウェア」は、金額的重要性が増したため、当連結会計年度より独立掲記することとしました。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前連結会計年度の連結貸借対照表において、「無形固定資産」の「その他」に表示していた97,770千円は、「ソフトウェア」44,987千円、「その他」52,782千円として組み替えております。

前連結会計年度において、「投資有価証券」に含めていた「関係会社株式」は、明瞭性の観点から、当連結会計年度より独立掲記することとしました。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組替えを行っております

この結果、前連結会計年度の連結貸借対照表において、「投資その他の資産」の「投資有価証券」に表示していた1,410,823千円は、「投資有価証券」1,388,446千円、「関係会社株式」22,377千円として組み替えております。

(追加情報)

(新型コロナウイルス感染症について)

新型コロナウイルス感染症拡大の影響が一定期間続くものとして、会計上の見積り及び仮定の設定を検討しております。しかしながら、新型コロナウイルス感染症拡大による影響は不確定要素が多く、今後の状況の変化によっては、将来における連結財務諸表において重要な影響を及ぼす可能性があります。

(連結貸借対照表関係)

1 受取手形割引高及び電子記録債権割引高

|           | 前連結会計年度<br>(2021年3月31日) | 当連結会計年度<br>(2022年3月31日) |
|-----------|-------------------------|-------------------------|
| 受取手形割引高   | 502,135千円               | 458,138千円               |
| 電子記録債権割引高 | 948,852千円               | 1,202,902千円             |

2 受取手形及び売掛金のうち、顧客との契約から生じた債権の金額は、それぞれ以下のとおりであります。

|      | 当連結会計年度<br>(2022年3月31日) |
|------|-------------------------|
| 受取手形 | 675,823千円               |
| 売掛金  | 30,494,943千円            |

3 非連結子会社及び関連会社に対するものは、次のとおりであります。

|         | 前連結会計年度<br>(2021年3月31日) | 当連結会計年度<br>(2022年3月31日) |
|---------|-------------------------|-------------------------|
| 関係会社株式  | 22,377千円                | 12,777千円                |
| 関係会社出資金 | -千円                     | 18,431千円                |

4 流動負債のその他のうち、契約負債の金額は、以下のとおりであります。

|      | 当連結会計年度<br>(2022年3月31日) |
|------|-------------------------|
| 契約負債 | 925,307千円               |

(連結損益計算書関係)

1 顧客との契約から生じる収益

売上高については、顧客との契約から生じる収益及びそれ以外の収益を区分して記載しておりません。顧客との契約から生じる収益の金額は、連結財務諸表「注記事項 セグメント情報 3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報並びに収益の分解情報」に記載しております。

2 通常の販売目的で保有する棚卸資産の収益性の低下による簿価切下額

|      | 前連結会計年度<br>(自 2020年4月1日<br>至 2021年3月31日) | 当連結会計年度<br>(自 2021年4月1日<br>至 2022年3月31日) |
|------|--|--|
| 売上原価 | 13,633千円                                 | 31,413千円                                 |

3 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

|       | 前連結会計年度<br>(自 2020年4月1日<br>至 2021年3月31日) | 当連結会計年度<br>(自 2021年4月1日<br>至 2022年3月31日) |
|-------|--|--|
| 給与手当  | 3,289,588千円                              | 3,542,364千円                              |
| 賞与    | 1,149,143千円                              | 1,255,499千円                              |
| 法定福利費 | 811,846千円                                | 937,635千円                                |

4 固定資産売却益の内訳は、次のとおりであります。

|           | 前連結会計年度<br>(自 2020年4月1日<br>至 2021年3月31日) | 当連結会計年度<br>(自 2021年4月1日<br>至 2022年3月31日) |
|-----------|--|--|
| 車両運搬具     | 1,053千円                                  | 711千円                                    |
| 工具、器具及び備品 | 8千円                                      | 4,641千円                                  |
| 計         | 1,061千円                                  | 5,352千円                                  |

5 固定資産売却損の内訳は、次のとおりであります。

|           | 前連結会計年度<br>(自 2020年4月1日<br>至 2021年3月31日) | 当連結会計年度<br>(自 2021年4月1日<br>至 2022年3月31日) |
|-----------|--|--|
| 車両運搬具     | - 千円                                     | 481千円                                    |
| 工具、器具及び備品 | - 千円                                     | 18千円                                     |
| 計         | - 千円                                     | 499千円                                    |

6 固定資産除却損の内訳は、次のとおりであります。

|           | 前連結会計年度<br>(自 2020年4月1日<br>至 2021年3月31日) | 当連結会計年度<br>(自 2021年4月1日<br>至 2022年3月31日) |
|-----------|--|--|
| 建物及び構築物   | - 千円                                     | 0千円                                      |
| 工具、器具及び備品 | 3,604千円                                  | 572千円                                    |
| 計         | 3,604千円                                  | 572千円                                    |

(連結包括利益計算書関係)

その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

|                  | 前連結会計年度<br>(自 2020年4月1日<br>至 2021年3月31日) | 当連結会計年度<br>(自 2021年4月1日<br>至 2022年3月31日) |
|------------------|--|--|
| その他有価証券評価差額金     |  |  |
| 当期発生額            | 386,036千円                                | 226,122千円                                |
| 組替調整額            | 19,396千円                                 | 200,204千円                                |
| 税効果調整前           | 366,639千円                                | 25,917千円                                 |
| 税効果額             | 78,957千円                                 | 14,591千円                                 |
| その他有価証券評価差額金     | 287,682千円                                | 11,325千円                                 |
| 為替換算調整勘定         |  |  |
| 当期発生額            | 32,950千円                                 | 608,140千円                                |
| 持分法適用会社に対する持分相当額 |  |  |
| 当期発生額            | 1,977千円                                  | 2,783千円                                  |
| その他の包括利益合計       | 252,753千円                                | 622,249千円                                |

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自 2020年4月1日 至 2021年3月31日)

1 発行済株式に関する事項

| 株式の種類 | 当連結会計年度期首(株) | 増加(株) | 減少(株) | 当連結会計年度末(株) |
|-------|--------------|-------|-------|-------------|
| 普通株式  | 7,879,005    | -     | -     | 7,879,005   |

2 自己株式に関する事項

| 株式の種類 | 当連結会計年度期首(株) | 増加(株) | 減少(株) | 当連結会計年度末(株) |
|-------|--------------|-------|-------|-------------|
| 普通株式  | 32,064       | 61    | -     | 32,125      |

(変動事由の概要)

増加数の主な内訳は、次のとおりであります。

単元未満株式の買取りによる増加 61株

3 新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

4 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

| 決議                   | 株式の種類 | 配当金の総額<br>(千円) | 1株当たり配当額<br>(円) | 基準日        | 効力発生日      |
|----------------------|-------|----------------|-----------------|------------|------------|
| 2020年6月26日<br>定時株主総会 | 普通株式  | 235,408        | 30              | 2020年3月31日 | 2020年6月29日 |
| 2020年11月10日<br>取締役会  | 普通株式  | 156,938        | 20              | 2020年9月30日 | 2020年12月7日 |

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

| 決議                   | 株式の種類 | 配当の原資 | 配当金の総額<br>(千円) | 1株当たり<br>配当額(円) | 基準日        | 効力発生日      |
|----------------------|-------|-------|----------------|-----------------|------------|------------|
| 2021年6月25日<br>定時株主総会 | 普通株式  | 利益剰余金 | 353,109        | 45              | 2021年3月31日 | 2021年6月28日 |

当連結会計年度（自 2021年4月1日 至 2022年3月31日）

1 発行済株式に関する事項

| 株式の種類 | 当連結会計年度期首(株) | 増加(株)     | 減少(株) | 当連結会計年度末(株) |
|-------|--------------|-----------|-------|-------------|
| 普通株式  | 7,879,005    | 3,939,502 | -     | 11,818,507  |

(変動事由の概要)

増加数の主な内訳は、次のとおりであります。

株式分割による増加 3,939,502株

2 自己株式に関する事項

| 株式の種類 | 当連結会計年度期首(株) | 増加(株)  | 減少(株) | 当連結会計年度末(株) |
|-------|--------------|--------|-------|-------------|
| 普通株式  | 32,125       | 17,033 | -     | 49,158      |

(変動事由の概要)

増加数の主な内訳は、次のとおりであります。

株式分割による増加 16,110株

単元未満株式の買取りによる増加 923株

3 新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

4 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

| 決議                   | 株式の種類 | 配当金の総額<br>(千円) | 1株当たり配当額<br>(円) | 基準日        | 効力発生日      |
|----------------------|-------|----------------|-----------------|------------|------------|
| 2021年6月25日<br>定時株主総会 | 普通株式  | 353,109        | 45              | 2021年3月31日 | 2021年6月28日 |
| 2021年11月11日<br>取締役会  | 普通株式  | 235,405        | 30              | 2021年9月30日 | 2021年12月6日 |

(注)2022年1月1日付で普通株式1株につき1.5株の割合で株式分割を行っております。2021年3月31日及び2021年9月30日を基準日とする配当については、当該株式分割前の株式数を基準としております。

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

| 決議                   | 株式の種類 | 配当の原資 | 配当金の総額<br>(千円) | 1株当たり<br>配当額(円) | 基準日        | 効力発生日      |
|----------------------|-------|-------|----------------|-----------------|------------|------------|
| 2022年6月24日<br>定時株主総会 | 普通株式  | 利益剰余金 | 470,773        | 40              | 2022年3月31日 | 2022年6月27日 |

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

|                  | 前連結会計年度<br>(自 2020年4月1日<br>至 2021年3月31日) | 当連結会計年度<br>(自 2021年4月1日<br>至 2022年3月31日) |
|------------------|--|--|
| 現金及び預金勘定         | 7,279,792千円                              | 8,174,474千円                              |
| 預入期間が3ヶ月を超える定期預金 | 431,392千円                                | 378,724千円                                |
| 現金及び現金同等物        | 6,848,400千円                              | 7,795,749千円                              |



(リース取引関係)

ファイナンス・リース取引

(借主側)

所有権移転外ファイナンス・リース取引

1 リース資産の内容

有形固定資産 管理設備等

2 リース資産の減価償却の方法

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

(金融商品関係)

1 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、主に電子計測機器の販売事業を行うための運転資金計画に照らして、必要な資金（主に銀行借入や社債発行）を調達しております。

一時的な余資につきましては安全性の高い金融資産で運用し、また、短期的な運転資金を銀行借入により調達しております。投機的な取引は行わない方針であります。

デリバティブ取引は、借入金の金利変動リスクを回避するために利用し、投機的な取引は行わない方針であります。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である受取手形及び売掛金は、顧客の信用リスクに晒されております。また、グローバルに事業を展開していることから生じている外貨建ての営業債権は、為替の変動リスクに晒されておりますが、原則として、外貨建ての営業債権の回収促進と日本への送金促進による為替変動リスクの平準化を図りヘッジしております。

投資有価証券は、取引先企業との業務又は資本提携等に関連する株式等であり、市場価格の変動リスク等に晒されております。

営業債務である支払手形及び買掛金は、ほとんど4ヶ月以内の支払期日であります。

また、その一部には、商品等の輸入に伴う外貨建てのものがあり、為替の変動リスクに晒されておりますが、恒常的に同じ外貨建ての売掛金残高の範囲内にあります。

借入金は、営業取引に係る資金の調達を目的としており、変動金利の借入金は金利変動リスクに晒されております。借入金の返済日は決算日後、最長でも5年程度であります。

デリバティブ取引は、借入金に係る支払金利の変動リスクに対するヘッジ取引を目的とした金利スワップ取引であります。

なお、ヘッジ会計に関するヘッジ手段とヘッジ対象、ヘッジ方針、ヘッジの有効性の評価方法等については、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項 4 会計方針に関する事項 (7)重要なヘッジ会計の方法」をご参照ください。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

信用リスク（取引先の契約不履行等に係るリスク）の管理

当社は、取引先が大企業から中小企業まで数千社存在することから、与信管理規程に従い、売掛金について、取引開始時や案件採択時に営業本部及び管理本部で与信限度の設定や回収条件について協議・決定するほか、日常的には、各営業所が主要な取引先の状況を定期的にモニタリングし、取引相手ごとに期日及び残高を管理するとともに、財務状況等の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。

連結子会社についても、当社の与信管理規程に準じて、同様の管理を行っております。

デリバティブ取引は、信用リスクを軽減するために、格付の高い金融機関とのみ取引を行っております。

市場リスク（為替や金利等の変動リスク）の管理

当社は、為替リスクヘッジのための外貨運用については、外貨運用基準を設け、取締役会での承認を受けた上で限度を設定して実施しており、月次の取引実績は、社長及び経営会議に報告しております。

投資有価証券については、定期的に時価や発行体（取引先企業）の財務状況等を把握し、取引先企業との関係を勘案して保有状況を継続的に見直しております。

借入金に係る支払金利は、金利スワップ取引を利用し、変動リスクを抑制しております。

資金調達に係る流動性リスク（支払期日に支払いを実行できなくなるリスク）の管理

当社は、各部署からの報告に基づき経理部が適時に資金繰計画を作成・更新するとともに、手許流動性は、連結売上高の3ヶ月分相当を目途に確保しております。

また、資金調達に支障が出ないように、財務状況を定期的に金融機関に報告を行い、調達額や資金使途の妥当性を説明し、信用維持に努め、流動性リスクを管理しております。

(4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することもあります。

(5) 信用リスクの集中

当期の連結決算日現在における売掛金は約7,000社先に分散されており、信用リスクの集中は回避されております。

2 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。

前連結会計年度（2021年3月31日）

（単位：千円）

|                                | 連結貸借対照表計上額 | 時価         | 差額    |
|--------------------------------|------------|------------|-------|
| (1) 現金及び預金                     | 7,279,792  | 7,279,792  | -     |
| (2) 受取手形及び売掛金                  | 30,502,375 | 30,502,375 | -     |
| (3) 電子記録債権                     | 3,014,773  | 3,014,773  | -     |
| (4) 投資有価証券<br>その他有価証券          | 1,330,488  | 1,330,488  | -     |
| 資産計                            | 42,127,429 | 42,127,429 | -     |
| (1) 支払手形及び買掛金                  | 17,541,541 | 17,541,541 | -     |
| (2) 短期借入金                      | 4,798,344  | 4,798,344  | -     |
| (3) 長期借入金<br>（1年内返済予定の長期借入金含む） | 4,606,629  | 4,614,032  | 7,403 |
| 負債計                            | 26,946,514 | 26,953,917 | 7,403 |
| デリバティブ取引                       | -          | -          | -     |

(注) 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品の連結貸借対照表計上額  
（単位：千円）

| 区分        | 2021年3月31日 |
|-----------|------------|
| 非上場株式     | 20,836     |
| 投資事業組合出資金 | 37,121     |
| 関係会社株式    | 22,377     |

上記については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められるため、「(4)投資有価証券 その他有価証券」には含めておりません。

当連結会計年度（2022年3月31日）

（単位：千円）

|                                | 連結貸借対照表計上額 | 時価        | 差額     |
|--------------------------------|------------|-----------|--------|
| (1) 投資有価証券                     |            |           |        |
| その他有価証券                        | 1,348,863  | 1,348,863 | -      |
| 資産計                            | 1,348,863  | 1,348,863 | -      |
| (2) 長期借入金<br>（1年内返済予定の長期借入金含む） | 4,848,499  | 4,859,667 | 11,168 |
| 負債計                            | 4,848,499  | 4,859,667 | 11,168 |

（注1）現金は注記を省略しており、預金、受取手形及び売掛金、電子記録債権、支払手形及び買掛金、短期借入金は短期間で決済されるため時価が帳簿価額に近似することから、記載を省略しております。また、デリバティブ取引は、連結決算日において該当はありません。

（注2）市場価格のない株式等は、上表には含まれておりません。当該金融商品の連結貸借対照表計上額は以下のとおりであります。

（単位：千円）

| 区分        | 2022年3月31日 |
|-----------|------------|
| 非上場株式     | 20,836     |
| 投資事業組合出資金 | 34,501     |
| 関係会社株式    | 12,777     |
| 関係会社出資金   | 18,431     |

（1）非上場株式等については「金融商品の時価等の開示に関する適用指針」（企業会計基準適用指針第19号2020年3月31日）第5項に基づき、時価開示の対象としておりません。

（2）投資事業組合出資金については「時価の算定に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第31号2019年7月4日）第27項に基づき、時価開示の対象としておりません。

（注3）長期借入金、リース債務及びその他の有利子負債の連結決算日後の返済予定額

前連結会計年度（2021年3月31日）

（単位：千円）

|       | 1年以内      | 1年超<br>2年以内 | 2年超<br>3年以内 | 3年超<br>4年以内 | 4年超<br>5年以内 | 5年超 |
|-------|-----------|-------------|-------------|-------------|-------------|-----|
| 短期借入金 | 4,798,344 | -           | -           | -           | -           | -   |
| 長期借入金 | 2,120,964 | 857,964     | 749,123     | 692,856     | 185,722     | -   |
| リース債務 | 4,455     | 4,488       | 4,522       | 3,865       | 3,032       | -   |
| 合計    | 6,923,763 | 862,452     | 753,645     | 696,721     | 188,754     | -   |

当連結会計年度（2022年3月31日）

（単位：千円）

|       | 1年以内      | 1年超<br>2年以内 | 2年超<br>3年以内 | 3年超<br>4年以内 | 4年超<br>5年以内 | 5年超    |
|-------|-----------|-------------|-------------|-------------|-------------|--------|
| 短期借入金 | 6,772,800 | -           | -           | -           | -           | -      |
| 長期借入金 | 1,197,296 | 1,087,955   | 2,366,026   | 191,722     | 5,500       | -      |
| リース債務 | 149,901   | 59,491      | 37,136      | 37,588      | 34,013      | 14,504 |
| 合計    | 8,119,997 | 1,147,446   | 2,403,162   | 229,310     | 39,513      | 14,504 |

3. 金融商品の時価のレベルごとの内訳等に関する事項

金融商品の時価を、時価の算定に係るインプットの観察可能性及び重要性に応じて、以下の3つのレベルに分類しております。

レベル1の時価：観察可能な時価の算定に係るインプットのうち、活発な市場において形成される当該時価の算定の対象となる資産又は負債に関する相場価格により算定した時価

レベル2の時価：観察可能な時価の算定に係るインプットのうち、レベル1のインプット以外の時価の算定に係るインプットを用いて算定した時価

レベル3の時価：観察できない時価の算定に係るインプットを使用して算定した時価

時価の算定に重要な影響を与えるインプットを複数使用している場合には、それらのインプットがそれぞれ属するレベルのうち、時価の算定における優先順位が最も低いレベルに時価を分類しております。

(1)時価をもって連結貸借対照表計上額とする金融商品

当連結会計年度(2022年3月31日)

| 区 分    | 時 価(千円)   |      |      |           |
|--------|-----------|------|------|-----------|
|        | レベル1      | レベル2 | レベル3 | 合 計       |
| 投資有価証券 |           |      |      |           |
| 其他有価証券 |           |      |      |           |
| 株式     | 1,348,863 | -    | -    | 1,348,863 |

(2)時価をもって連結貸借対照表計上額とする金融商品以外の金融商品

当連結会計年度(2022年3月31日)

| 区 分                     | 時 価(千円) |           |      |           |
|-------------------------|---------|-----------|------|-----------|
|                         | レベル1    | レベル2      | レベル3 | 合 計       |
| 長期借入金(1年以内返済予定の長期借入金含む) | -       | 4,859,667 | -    | 4,859,667 |

(注)1. 時価の算定に用いた評価技法及び時価の算定に係るインプットの説明

投資有価証券

上場株式は相場価格を用いて評価しております。上場株式は活発な市場で取引されているため、その時価をレベル1の時価に分類しております。

長期借入金(1年内返済予定の長期借入金含む)

これらの時価は、元利金の合計額と、当該債務の残存期間及び信用リスクを加味した利率を基に、割引現在価値法により算定しており、レベル2の時価に分類しております。

(有価証券関係)

1 その他有価証券

前連結会計年度(2021年3月31日)

(単位:千円)

| 区分                     | 種類 | 連結貸借対照表計上額 | 取得原価    | 差額      |
|------------------------|----|------------|---------|---------|
| 連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの  | 株式 | 1,126,785  | 518,077 | 608,707 |
|                        | 小計 | 1,126,785  | 518,077 | 608,707 |
| 連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの | 株式 | 203,703    | 225,247 | 21,544  |
|                        | 小計 | 203,703    | 225,247 | 21,544  |
| 合計                     |    | 1,330,488  | 743,325 | 587,163 |

当連結会計年度(2022年3月31日)

(単位:千円)

| 区分                     | 種類 | 連結貸借対照表計上額 | 取得原価    | 差額      |
|------------------------|----|------------|---------|---------|
| 連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの  | 株式 | 1,190,062  | 505,711 | 684,351 |
|                        | 小計 | 1,190,062  | 505,711 | 684,351 |
| 連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの | 株式 | 158,801    | 230,562 | 71,761  |
|                        | 小計 | 158,801    | 230,562 | 71,761  |
| 合計                     |    | 1,348,863  | 736,273 | 612,590 |

2 連結会計年度中に売却したその他有価証券

前連結会計年度(自 2020年4月1日 至 2021年3月31日)

(単位:千円)

| 区分 | 売却額    | 売却益の合計額 | 売却損の合計額 |
|----|--------|---------|---------|
| 株式 | 85,142 | 70,034  | -       |

当連結会計年度(自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)

(単位:千円)

| 区分 | 売却額     | 売却益の合計額 | 売却損の合計額 |
|----|---------|---------|---------|
| 株式 | 240,093 | 200,204 | -       |

3 減損処理を行った有価証券

前連結会計年度(自 2020年4月1日 至 2021年3月31日)

当連結会計年度において、その他有価証券の株式50,638千円減損処理を行っております。

当連結会計年度(自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)

該当事項はありません。

(デリバティブ取引関係)

1 ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

前連結会計年度(2021年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(2022年3月31日)

該当事項はありません。

2 ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

前連結会計年度(2021年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(2022年3月31日)

該当事項はありません。

(退職給付関係)

## 1 採用している退職給付制度の概要

当社は、従業員の退職給付に充てるため、確定給付型の制度として企業年金基金制度に加入するとともに、確定拠出型の制度として、特定退職金共済制度に加入しております。

なお、企業年金基金制度は、複数事業主制度の企業年金基金に加入しており、自社の拠出に対応する年金資産の額を合理的に計算することができないため、確定拠出型の制度と同様に会計処理しております。

なお、加入していた厚生年金基金は、2014年10月1日付けで、厚生労働大臣より代行返上（将来期間分）の認可を受け、2015年10月1日より企業年金基金へ移行しております。

また、一部の連結子会社は、従業員の退職給付に充てるため、確定給付型の制度として退職一時金制度を採用しており、退職一時金の一部として、中小企業退職金共済制度に加入しております。

なお、退職給付債務の見込額は、退職給付に係る期末自己都合要支給額から、中小企業退職金共済制度により支給される額を控除した額を退職給付債務とする方法によって算定しており、簡便法により退職給付に係る負債及び退職給付費用を計算しております。

## 2 確定給付制度

## (1) 簡便法を適用した制度の、退職給付に係る負債の期首残高と期末残高の調整表

|                | 前連結会計年度<br>(自 2020年4月1日<br>至 2021年3月31日) | 当連結会計年度<br>(自 2021年4月1日<br>至 2022年3月31日) |
|----------------|--|--|
| 退職給付に係る負債の期首残高 | 126,655千円                                | 146,913千円                                |
| 退職給付費用         | 788千円                                    | - 千円                                     |
| 退職給付の支払額       | 1,217千円                                  | 15,560千円                                 |
| その他            | 20,686千円                                 | 2,022千円                                  |
| 退職給付に係る負債の期末残高 | 146,913千円                                | 129,330千円                                |

## (2) 退職給付債務及び年金資産の期末残高と連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債及び退職給付に係る資産の調整表

|                       | 前連結会計年度<br>(2021年3月31日) | 当連結会計年度<br>(2022年3月31日) |
|-----------------------|-------------------------|-------------------------|
| 非積立型制度の退職給付債務         | 275,131千円               | 244,975千円               |
| 中小企業退職金共済制度給付見込額      | 128,217千円               | 115,645千円               |
|                       | 146,913千円               | 129,330千円               |
| 連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額 | 146,913千円               | 129,330千円               |
| 退職給付に係る負債             | 146,913千円               | 129,330千円               |
| 連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額 | 146,913千円               | 129,330千円               |

## (3) 退職給付費用

簡便法で計算した退職給付費用 前連結会計年度788千円 当連結会計年度 - 千円

## 3 確定拠出制度

確定拠出制度（確定拠出制度と同様に会計処理する、複数事業主制度の厚生年金基金制度及び企業年金基金制度を含む。）への要拠出額は、前連結会計年度134,699千円、当連結会計年度135,264千円であります。

要拠出額を退職給付費用として処理している複数事業主制度に関する事項

## (1) 制度全体の積立状況に関する事項

|                                   | 前連結会計年度<br>(2021年3月31日) | 当連結会計年度<br>(2022年3月31日) |
|-----------------------------------|-------------------------|-------------------------|
| 年金資産の額                            | 119,769,707千円           | 129,661,112千円           |
| 年金財政計算上の数理債務の額と最低責任準備金の<br>額との合計額 | 136,406,839千円           | 132,336,571千円           |
| 差引額                               | 16,637,131千円            | 2,675,458千円             |
|                                   | (2020年3月31日時点)          | (2021年3月31日時点)          |

## (2) 制度全体に占める掛金拠出割合

|        | 前連結会計年度<br>(2021年3月31日) | 当連結会計年度<br>(2022年3月31日) |
|--------|-------------------------|-------------------------|
| 掛金拠出割合 | 1.69%                   | 1.82%                   |
|        | (2020年3月31日時点)          | (2021年3月31日時点)          |

## (3) 補足説明

上記(1)の差引額の主な要因は、年金財政計算上の過去勤務債務残高12,819,265千円（前連結会計年度14,756,162千円）、不足金 - 千円（前連結会計年度4,405,859千円）、別途積立金10,143,806千円（前連結会計年度2,524,890千円）であります。

本制度における過去勤務債務の償却方法は、期間20年の元利均等償却であり、当期の連結財務諸表上、当該償却に充てられる特別掛金29,474千円（前連結会計年度32,888千円）を費用処理しております。

なお、上記(2)の割合は実際の負担割合とは一致しておりません。



(税効果会計関係)

1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

|              | 前連結会計年度<br>(2021年3月31日) | 当連結会計年度<br>(2022年3月31日) |
|--------------|-------------------------|-------------------------|
| 繰延税金資産       |                         |                         |
| 未払賞与         | 99,258千円                | 106,029千円               |
| 貸倒引当金        | 38,359千円                | 56,732千円                |
| 関係会社株式評価損    | 2,449千円                 | 2,449千円                 |
| 繰越欠損金        | 117,953千円               | 169,425千円               |
| 投資有価証券評価損    | 45,139千円                | 40,341千円                |
| その他          | 149,348千円               | 169,987千円               |
| 繰延税金資産小計     | 452,510千円               | 544,966千円               |
| 評価性引当額       | 181,293千円               | 193,572千円               |
| 繰延税金資産合計     | 271,216千円               | 351,394千円               |
| 繰延税金負債       |                         |                         |
| その他有価証券評価差額金 | 146,366千円               | 160,957千円               |
| その他          | 27,891千円                | 20,361千円                |
| 繰延税金負債合計     | 174,257千円               | 181,319千円               |
| 繰延税金資産純額     | 96,959千円                | 170,075千円               |

2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳

|                      | 前連結会計年度<br>(2021年3月31日) | 当連結会計年度<br>(2022年3月31日) |
|----------------------|-------------------------|-------------------------|
| 法定実効税率               | 30.62%                  | - %                     |
| (調整)                 |                         |                         |
| 交際費等永久に損金に算入されない項目   | 0.25%                   | - %                     |
| 受取配当金等永久に益金に算入されない項目 | 0.22%                   | - %                     |
| 外国子会社からの受取配当金に係る源泉税  | 0.25%                   | - %                     |
| 外国子会社留保利益            | 0.06%                   | - %                     |
| 住民税均等割               | 1.65%                   | - %                     |
| 評価性引当額の増減            | 0.38%                   | - %                     |
| その他                  | 0.88%                   | - %                     |
| 税効果会計適用後の法人税等の負担率    | 33.75%                  | - %                     |

(注) 当連結会計年度は、法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間の差異が法定実効税率の100分の5以下であるため注記を省略しております。

(資産除去債務関係)

当社グループは、営業所等の不動産賃借契約に伴う原状回復義務について、当該賃借契約に関連する敷金が資産計上されており、当該計上額に関連する部分について、当該資産除去債務の負債計上額及びこれに対応する除去債務費用の資産計上額に代えて、当該敷金の回収が最終的に見込めないと認められる金額を合理的に見積り、そのうちの当連結会計年度の負担に属する金額を費用に計上しております。

(収益認識関係)

1. 顧客との契約から生じる収益を分解した情報

顧客との契約から生じる収益を分解した情報は、「注記事項(セグメント情報等)」に記載のとおりであります。

2. 顧客との契約から生じる収益を理解するための基礎となる情報

「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項 4. 会計方針に関する事項 (5) 重要な収益及び費用の計上基準」に記載のとおりであります。

3. 顧客との契約に基づく履行義務の充足と当該契約から生じるキャッシュ・フローとの関係並びに当連結会計年度末において存在する顧客との契約から翌連結会計年度以降に認識すると見込まれる収益の金額及び時期に関する情報

(1) 契約資産及び契約負債の残高等

(単位：千円)

|                     | 当連結会計年度    |
|---------------------|------------|
| 顧客との契約から生じた債権(期首残高) | 33,517,148 |
| 顧客との契約から生じた債権(期末残高) | 34,733,132 |
| 契約負債(期首残高)          | 505,572    |
| 契約負債(期末残高)          | 925,307    |

契約負債は主に、契約に基づく履行に先立って顧客から受領した対価に関連するものであり、契約に基づき履行した時点で収益に振り替えられます。契約負債は、連結貸借対照表の流動負債に含まれております。

当連結会計年度に認識された収益の額のうち期首現在の契約負債残高に含まれていた額は、505,572千円であります。また、当連結会計年度において、契約負債が419,734千円増加した理由は、前受金の増加であります。

過去の期間に充足(又は部分的に充足)した履行義務から、当連結会計年度に認識した収益(主に、取引価格の変動)の額に重要性はありません。

(2) 残存履行義務に配分した取引価格

個別の予想契約期間が1年を超える重要な取引がないため、実務上の便法を使用し、残存履行義務に関する情報の記載を省略しております。また、顧客との契約から生じる対価の中に、取引価格に含まれていない重要な金額はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1 報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、経営会議で、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは主として、電子計測器類の販売及び修理、校正等を行っており、国内においては当社及び子会社が、中国においては電計貿易(上海)有限公司、その他アジア地域においてはその他の現地法人が、それぞれ担当しております。

現地法人はそれぞれ独立した経営単位であり、取扱う商品について各地域の包括的な戦略を立案し、事業活動を展開しております。

したがって、当社グループは、販売及び修理、校正等のサービス体制を基礎とした地域別のセグメントから構成されており、「日本」「中国」東南アジア等の「その他」の3つを報告セグメントとしております。

2 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と概ね同一であります。

報告セグメントの利益又は損失は、営業利益ベースの数値であります。セグメント間の内部収益及び振替高は市場実勢価格に基づいております。

「会計方針の変更」に記載のとおり、当連結会計年度に係る連結財務諸表から収益認識会計基準等を適用し、収益認識に関する会計処理方法を変更したため、事業セグメントの利益又は損失の算定方法を同様に変更しております。

## 3 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報並びに収益の分解情報

前連結会計年度(自 2020年4月1日 至 2021年3月31日)

(単位:千円)

|                       | 報告セグメント    |            |           | 合計         |
|-----------------------|------------|------------|-----------|------------|
|                       | 日本         | 中国         | その他       |            |
| 売上高                   |            |            |           |            |
| 外部顧客への売上高             | 68,521,647 | 11,121,193 | 3,026,673 | 82,669,514 |
| セグメント間の内部売上高<br>又は振替高 | 2,426,177  | 191,847    | 187,839   | 2,805,864  |
| 計                     | 70,947,825 | 11,313,041 | 3,214,512 | 85,475,379 |
| セグメント利益又は損失( )        | 2,836,608  | 100,466    | 30,267    | 2,906,807  |
| その他の項目                |            |            |           |            |
| 減価償却費                 | 135,728    | 212,137    | 17,864    | 365,730    |

(注) 1 報告セグメントにおける国又は地域は、販売元を基準としているため、日本から海外取引先への直接売上高については、外部顧客への売上高において上記のセグメント区分「日本」に含まれております。

2 「その他」の区分に属する主な国又は地域  
 その他・・・タイ、シンガポール、ベトナム、マレーシア、韓国、台湾、インドネシア、フィリピン、  
 インド、アメリカ

3 当社グループでは、資産及び負債は報告セグメント別に配分していないため、記載を省略しております。

当連結会計年度(自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)

(単位:千円)

|                       | 報告セグメント    |            |           | 合計         |
|-----------------------|------------|------------|-----------|------------|
|                       | 日本         | 中国         | その他       |            |
| 売上高                   |            |            |           |            |
| 電子計測機器                | 31,035,908 | 5,047,420  | 1,533,216 | 37,616,545 |
| 製造・加工・検査装置            | 9,046,429  | 1,476,795  | 448,594   | 10,971,819 |
| 電子部品・機構部品             | 11,538,035 | 1,883,540  | 572,148   | 13,993,724 |
| P C及び関連製品             | 5,803,754  | 947,440    | 287,796   | 7,038,992  |
| 環境・評価・試験機器            | 4,944,881  | 752,970    | 228,723   | 5,926,576  |
| 画像測定・表面観察             | 3,820,966  | 623,758    | 189,474   | 4,634,198  |
| その他                   | 9,138,723  | 2,113,188  | 423,543   | 11,675,455 |
| 顧客との契約から生じる収益         | 75,328,699 | 12,845,113 | 3,683,498 | 91,857,312 |
| 外部顧客への売上高             | 75,328,699 | 12,845,113 | 3,683,498 | 91,857,312 |
| セグメント間の内部売上高<br>又は振替高 | 3,741,885  | 310,316    | 95,310    | 4,147,513  |
| 計                     | 79,070,585 | 13,155,430 | 3,778,809 | 96,004,825 |
| セグメント利益               | 3,657,742  | 223,196    | 114,783   | 3,995,722  |
| その他の項目                |            |            |           |            |
| 減価償却費                 | 164,289    | 415,548    | 33,798    | 613,635    |

(注) 1 報告セグメントにおける国又は地域は、販売元を基準としているため、日本から海外取引先への直接売上高については、外部顧客への売上高において上記のセグメント区分「日本」に含まれております。

2 「その他」の区分に属する主な国又は地域  
 その他・・・タイ、シンガポール、ベトナム、マレーシア、韓国、台湾、インドネシア、フィリピン、  
 インド、アメリカ

3 当社グループでは、資産及び負債は報告セグメント別に配分していないため、記載を省略しております。

## 4 報告セグメント合計額と連結財務諸表計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

| 売上高        | 前連結会計年度    | 当連結会計年度    |
|------------|------------|------------|
| 報告セグメント計   | 85,475,379 | 96,004,825 |
| セグメント間取引消去 | 2,805,864  | 4,147,513  |
| 連結財務諸表の売上高 | 82,669,514 | 91,857,312 |

(単位:千円)

| 利益          | 前連結会計年度   | 当連結会計年度   |
|-------------|-----------|-----------|
| 報告セグメント計    | 2,906,807 | 3,995,722 |
| セグメント間取引消去  | 1,419     | 25,153    |
| 棚卸資産の調整額    | 329       | 21,476    |
| 全社費用        | 1,016,324 | 1,334,731 |
| 連結財務諸表の営業利益 | 1,892,231 | 2,664,668 |

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

(単位:千円)

| その他の項目 | 報告セグメント計    |             | 調整額         |             | 連結財務諸表計上額   |             |
|--------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|
|        | 前連結<br>会計年度 | 当連結<br>会計年度 | 前連結<br>会計年度 | 当連結<br>会計年度 | 前連結<br>会計年度 | 当連結<br>会計年度 |
| 減価償却費  | 365,730     | 613,635     | -           | -           | 365,730     | 613,635     |

【関連情報】

前連結会計年度（自 2020年4月1日 至 2021年3月31日）

1 商品及びサービスごとの情報

（単位：千円）

|               | 電子計測器      | 製造・加工・<br>検査装置 | 電子部品・<br>機構部品 | PC及び<br>関連製品 | 環境・評価・<br>試験機器 | 画像測定・<br>表面観察 | その他        | 合計         |
|---------------|------------|----------------|---------------|--------------|----------------|---------------|------------|------------|
| 外部顧客への<br>売上高 | 32,762,198 | 9,595,781      | 11,523,447    | 6,312,025    | 6,288,388      | 5,378,559     | 10,809,114 | 82,669,514 |

2 地域ごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

3 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、連結損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載はありません。

当連結会計年度（自 2021年4月1日 至 2022年3月31日）

1 商品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2 地域ごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

3 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、連結損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載はありません。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前連結会計年度（自 2020年4月1日 至 2021年3月31日）

該当事項はありません。

当連結会計年度（自 2021年4月1日 至 2022年3月31日）

該当事項はありません。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前連結会計年度（自 2020年4月1日 至 2021年3月31日）

該当事項はありません。

当連結会計年度（自 2021年4月1日 至 2022年3月31日）

該当事項はありません。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

前連結会計年度（自 2020年4月1日 至 2021年3月31日）

該当事項はありません。

当連結会計年度（自 2021年4月1日 至 2022年3月31日）

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

前連結会計年度（自 2020年4月1日 至 2021年3月31日）

連結財務諸表提出会社と関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社の役員及び主要株主(個人の場合に限る。)等

| 種類 | 会社等の名称又は氏名 | 所在地 | 資本金又は出資金(千円) | 事業の内容又は職業 | 議決権等の所有(被所有)割合(%) | 関連当事者との関係 | 取引の内容   | 取引金額(千円) | 科目 | 期末残高(千円) |
|----|------------|-----|--------------|-----------|-------------------|-----------|---------|----------|----|----------|
| 役員 | 柳 丹峰       | -   | -            | 当社代表取締役   | (被所有)直接1.87       | -         | 連結子株式取得 | 23,745   | -  | -        |

(注) 連結子会社株式の取得については双方協議のうえ、決定しております。

当連結会計年度（自 2021年4月1日 至 2022年3月31日）

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

|            | 前連結会計年度<br>(自 2020年4月1日<br>至 2021年3月31日) | 当連結会計年度<br>(自 2021年4月1日<br>至 2022年3月31日) |
|------------|--|--|
| 1株当たり純資産額  | 1,770.05円                                | 1,957.64円                                |
| 1株当たり当期純利益 | 124.62円                                  | 191.35円                                  |

- (注) 1 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。  
 2 当社は、2022年1月1日付けで普通株式1株につき普通株式1.5株の割合で株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して1株当たり純資産額及び1株当たり当期純利益を算定しております。  
 3 「会計方針の変更」に記載のとおり、「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を適用し、「収益認識に関する会計基準」第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っております。この結果、当連結会計年度の1株当たり純資産額、1株当たり当期純利益はそれぞれ11円06銭減少しております。  
 4 1株当たり当期純利益の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

|                            | 前連結会計年度<br>(自 2020年4月1日<br>至 2021年3月31日) | 当連結会計年度<br>(自 2021年4月1日<br>至 2022年3月31日) |
|----------------------------|--|--|
| 1株当たり当期純利益                 |  |  |
| 親会社株主に帰属する当期純利益(千円)        | 1,466,835                                | 2,252,211                                |
| 普通株主に帰属しない金額(千円)           | -  | -  |
| 普通株式に係る親会社株主に帰属する当期純利益(千円) | 1,466,835                                | 2,252,211                                |
| 普通株式の期中平均株式数(千株)           | 11,770                                   | 11,770                                   |

(重要な後発事象)

(ストックオプション)

当社は2022年5月13日開催の取締役会において、会社法第236条、第238条および第240条の規定に基づき、当社の取締役(監査等委員である取締役を除く。)、監査等委員である取締役及び執行役員に対して、ストックオプションとして新株予約権を発行することにつき、2022年6月24日開催の当社第77回定時株主総会に議案を提出することを決議し、同株主総会において承認されました。

なお、詳細は「第4 提出会社の状況 1 株式等の状況 (2) 新株予約権等の状況 スtockオプション制度の内容」に記載しております。

【連結附属明細表】

【借入金等明細表】

| 区分                      | 当期末残高<br>(千円) | 当期末残高<br>(千円) | 平均利率<br>(%) | 返済期限                |
|-------------------------|---------------|---------------|-------------|---------------------|
| 短期借入金                   | 4,798,344     | 6,772,800     | 0.76        | -                   |
| 1年以内に返済予定の長期借入金         | 2,120,964     | 1,197,296     | 0.34        | -                   |
| 1年以内に返済予定のリース債務         | 4,455         | 149,901       | -           | -                   |
| 長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く。) | 2,485,665     | 3,651,203     | 0.35        | 2023年4月～<br>2027年2月 |
| リース債務(1年以内に返済予定のものを除く。) | 15,908        | 182,734       | -           | -                   |
| 合計                      | 9,425,336     | 11,953,935    | -           | -                   |

- (注) 1 「平均利率」については、借入金等の期末残高に対する加重平均利率を記載しております。  
2 リース料総額に含まれる利息相当額を控除する前の金額でリース債務を連結貸借対照表に計上しているため、リース債務については平均利率を記載しておりません。  
3 長期借入金及びリース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)の連結決算日後5年内における返済予定額は以下のとおりであります。

(単位：千円)

| 区分    | 1年超2年以内   | 2年超3年以内   | 3年超4年以内 | 4年超5年以内 |
|-------|-----------|-----------|---------|---------|
| 長期借入金 | 1,087,955 | 2,366,026 | 191,722 | 5,500   |
| リース債務 | 59,491    | 37,136    | 37,588  | 34,013  |

【資産除去債務明細表】

資産除去債務の負債計上額及びこれに対応する除去債務費用の資産計上額に代えて、営業所等の不動産賃借契約に伴う敷金の回収が、最終的に見込めないと認められる金額を合理的に見積り、そのうちの当連結会計年度の負担に属する金額を費用に計上する方法を採用しているため、該当事項はありません。

(2) 【その他】

当連結会計年度における四半期情報等

| (累計期間)                    | 第1四半期      | 第2四半期      | 第3四半期      | 当連結会計年度    |
|---------------------------|------------|------------|------------|------------|
| 売上高 (千円)                  | 17,638,907 | 40,111,099 | 62,656,846 | 91,857,312 |
| 税金等調整前四半期(当期)純利益 (千円)     | 435,685    | 1,322,110  | 2,176,220  | 3,235,008  |
| 親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益 (千円) | 297,032    | 905,600    | 1,503,285  | 2,252,211  |
| 1株当たり四半期(当期)純利益 (円)       | 25.24      | 76.94      | 127.72     | 191.35     |

| (会計期間)          | 第1四半期 | 第2四半期 | 第3四半期 | 第4四半期 |
|-----------------|-------|-------|-------|-------|
| 1株当たり四半期純利益 (円) | 25.24 | 51.70 | 50.78 | 63.63 |

- (注) 当社は、2022年1月1日付けで普通株式1株につき普通株式1.5株の割合で株式分割を行っております。当連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して1株当たり四半期(当期)純利益を算定しております。



## 2 【財務諸表等】

## (1) 【財務諸表】

## 【貸借対照表】

(単位：千円)

|               | 前事業年度<br>(2021年3月31日) | 当事業年度<br>(2022年3月31日) |
|---------------|-----------------------|-----------------------|
| <b>資産の部</b>   |                       |                       |
| 流動資産          |                       |                       |
| 現金及び預金        | 3,850,971             | 4,437,330             |
| 受取手形          | 272,627               | 228,443               |
| 電子記録債権        | 3,014,773             | 3,551,418             |
| 売掛金           | 27,563,655            | 27,962,879            |
| 商品            | 1,199,954             | 2,889,652             |
| 前渡金           | 143,885               | 160,597               |
| 前払費用          | 11,355                | 34,601                |
| その他           | 268,382               | 175,181               |
| 貸倒引当金         | 678                   | 1,002                 |
| 流動資産合計        | 36,324,927            | 39,439,103            |
| 固定資産          |                       |                       |
| 有形固定資産        |                       |                       |
| 建物            | 2,545,886             | 2,545,221             |
| 減価償却累計額       | 259,994               | 308,945               |
| 建物(純額)        | 2,285,892             | 2,236,276             |
| 構築物           | 14,337                | 14,337                |
| 減価償却累計額       | 12,662                | 12,869                |
| 構築物(純額)       | 1,675                 | 1,468                 |
| 車両運搬具         | 11,020                | 7,113                 |
| 減価償却累計額       | 10,382                | 4,297                 |
| 車両運搬具(純額)     | 637                   | 2,816                 |
| 工具、器具及び備品     | 341,280               | 402,094               |
| 減価償却累計額       | 196,771               | 230,375               |
| 工具、器具及び備品(純額) | 144,508               | 171,719               |
| 土地            | 1,315,789             | 1,315,789             |
| リース資産         | 11,725                | 11,725                |
| 減価償却累計額       | 3,142                 | 5,078                 |
| リース資産(純額)     | 8,582                 | 6,646                 |
| 建設仮勘定         | 26,006                | 130,300               |
| 有形固定資産合計      | 3,783,092             | 3,865,016             |

(単位：千円)

|                 | 前事業年度<br>(2021年3月31日) | 当事業年度<br>(2022年3月31日) |
|-----------------|-----------------------|-----------------------|
| <b>無形固定資産</b>   |                       |                       |
| 借地権             | 3,806                 | 3,806                 |
| ソフトウェア          | 24,696                | 138,539               |
| ソフトウェア仮勘定       | -                     | 48,168                |
| その他             | 15,315                | 15,315                |
| 無形固定資産合計        | 43,817                | 205,829               |
| <b>投資その他の資産</b> |                       |                       |
| 投資有価証券          | 1,346,542             | 1,354,557             |
| 関係会社株式          | 1,640,719             | 1,640,719             |
| 出資金             | 10                    | 10                    |
| 関係会社出資金         | 926,112               | 926,112               |
| 長期貸付金           | 31,000                | -                     |
| 従業員に対する長期貸付金    | 2,925                 | 1,650                 |
| 関係会社長期貸付金       | 295,200               | 642,050               |
| 破産更生債権等         | 25,347                | 64,973                |
| その他             | 558,087               | 554,559               |
| 貸倒引当金           | 13,212                | 58,438                |
| 投資その他の資産合計      | 4,812,733             | 5,126,194             |
| <b>固定資産合計</b>   | <b>8,639,643</b>      | <b>9,197,040</b>      |
| <b>資産合計</b>     | <b>44,964,571</b>     | <b>48,636,144</b>     |

(単位：千円)

|               | 前事業年度<br>(2021年3月31日) | 当事業年度<br>(2022年3月31日) |
|---------------|-----------------------|-----------------------|
| <b>負債の部</b>   |                       |                       |
| 流動負債          |                       |                       |
| 支払手形          | 4,222,161             | 4,427,138             |
| 買掛金           | 12,814,522            | 12,736,731            |
| 短期借入金         | 4,100,000             | 6,000,000             |
| 1年内返済予定の長期借入金 | 1,992,856             | 1,176,188             |
| リース債務         | 2,069                 | 2,101                 |
| 未払金           | 7,340                 | 7,698                 |
| 未払費用          | 586,578               | 604,121               |
| 未払法人税等        | 395,416               | 617,913               |
| 契約負債          | -                     | 181,128               |
| 前受金           | 157,007               | -                     |
| 預り金           | 87,205                | 93,880                |
| その他           | 261,513               | 2,610                 |
| 流動負債合計        | 24,626,670            | 25,849,513            |
| 固定負債          |                       |                       |
| 長期借入金         | 2,464,290             | 3,621,436             |
| リース債務         | 7,356                 | 5,254                 |
| 繰延税金負債        | 7,162                 | 3,407                 |
| その他           | 500                   | 500                   |
| 固定負債合計        | 2,479,308             | 3,630,597             |
| 負債合計          | 27,105,979            | 29,480,110            |
| <b>純資産の部</b>  |                       |                       |
| 株主資本          |                       |                       |
| 資本金           | 1,159,170             | 1,159,170             |
| 資本剰余金         |                       |                       |
| 資本準備金         | 1,333,000             | 1,333,000             |
| 資本剰余金合計       | 1,333,000             | 1,333,000             |
| 利益剰余金         |                       |                       |
| 利益準備金         | 137,800               | 137,800               |
| その他利益剰余金      |                       |                       |
| 別途積立金         | 4,310,000             | 4,310,000             |
| 繰越利益剰余金       | 10,510,775            | 11,802,014            |
| 利益剰余金合計       | 14,958,575            | 16,249,814            |
| 自己株式          | 30,073                | 31,353                |
| 株主資本合計        | 17,420,671            | 18,710,631            |
| 評価・換算差額等      |                       |                       |
| その他有価証券評価差額金  | 437,920               | 445,401               |
| 評価・換算差額等合計    | 437,920               | 445,401               |
| 純資産合計         | 17,858,592            | 19,156,033            |
| 負債純資産合計       | 44,964,571            | 48,636,144            |

## 【損益計算書】

(単位：千円)

|              | 前事業年度<br>(自 2020年 4月 1日<br>至 2021年 3月 31日) | 当事業年度<br>(自 2021年 4月 1日<br>至 2022年 3月 31日) |
|--------------|--|--|
| 売上高          | 69,935,071                                 | 78,054,848                                 |
| 売上原価         |  |  |
| 商品期首棚卸高      | 1,644,675                                  | 1,199,954                                  |
| 当期商品仕入高      | 62,321,478                                 | 71,471,074                                 |
| 合計           | 63,966,154                                 | 72,671,029                                 |
| 商品期末棚卸高      | 1,206,702                                  | 2,891,381                                  |
| 商品評価損        | 4,412                                      | 1,729                                      |
| 商品売上原価       | 62,763,864                                 | 69,781,376                                 |
| 売上総利益        | 7,171,206                                  | 8,273,471                                  |
| 販売費及び一般管理費   | 1 5,464,464                                | 1 6,061,108                                |
| 営業利益         | 1,706,741                                  | 2,212,363                                  |
| 営業外収益        |  |  |
| 受取利息         | 12,388                                     | 14,261                                     |
| 受取配当金        | 2 226,154                                  | 2 63,187                                   |
| 仕入割引         | 38,696                                     | 39,241                                     |
| 貸倒引当金戻入額     | 22,735                                     | -  |
| 為替差益         | 74,621                                     | 269,601                                    |
| その他          | 47,547                                     | 45,330                                     |
| 営業外収益合計      | 422,144                                    | 431,622                                    |
| 営業外費用        |  |  |
| 支払利息         | 47,694                                     | 51,528                                     |
| 貸倒引当金繰入額     | -  | 40,000                                     |
| その他          | 2,460                                      | 2,821                                      |
| 営業外費用合計      | 50,155                                     | 94,350                                     |
| 経常利益         | 2,078,730                                  | 2,549,635                                  |
| 特別利益         |  |  |
| 投資有価証券売却益    | 70,034                                     | 200,204                                    |
| 特別利益合計       | 70,034                                     | 200,204                                    |
| 特別損失         |  |  |
| 固定資産売却損      | -  | 3 237                                      |
| 固定資産除却損      | 4 73                                       | 4 112                                      |
| 投資有価証券評価損    | 50,638                                     | -  |
| 関係会社株式評価損    | 35,781                                     | -  |
| 特別損失合計       | 86,492                                     | 349  |
| 税引前当期純利益     | 2,062,271                                  | 2,749,490                                  |
| 法人税、住民税及び事業税 | 655,305                                    | 888,081                                    |
| 法人税等調整額      | 11,009                                     | 18,346                                     |
| 法人税等合計       | 644,295                                    | 869,734                                    |
| 当期純利益        | 1,417,976                                  | 1,879,755                                  |

【株主資本等変動計算書】

前事業年度(自 2020年4月1日 至 2021年3月31日)

(単位：千円)

|                         | 株主資本      |           |           |         |           |            |            |
|-------------------------|-----------|-----------|-----------|---------|-----------|------------|------------|
|                         | 資本金       | 資本剰余金     |           | 利益準備金   | 利益剰余金     |            | 利益剰余金合計    |
|                         |           | 資本準備金     | 資本剰余金合計   |         | その他利益剰余金  | 繰越利益剰余金    |            |
|                         |           |           |           | 別途積立金   |           |            |            |
| 当期首残高                   | 1,159,170 | 1,333,000 | 1,333,000 | 137,800 | 4,310,000 | 9,485,146  | 13,932,946 |
| 当期変動額                   |           |           |           |         |           |            |            |
| 剰余金の配当                  |           |           |           |         |           | 392,347    | 392,347    |
| 当期純利益                   |           |           |           |         |           | 1,417,976  | 1,417,976  |
| 自己株式の取得                 |           |           |           |         |           |            |            |
| 株主資本以外の項目の<br>当期変動額(純額) |           |           |           |         |           |            |            |
| 当期変動額合計                 | -         | -         | -         | -       | -         | 1,025,629  | 1,025,629  |
| 当期末残高                   | 1,159,170 | 1,333,000 | 1,333,000 | 137,800 | 4,310,000 | 10,510,775 | 14,958,575 |

|                         | 株主資本   |            | 評価・換算差額等         |                | 純資産合計      |
|-------------------------|--------|------------|------------------|----------------|------------|
|                         | 自己株式   | 株主資本合計     | その他有価証券<br>評価差額金 | 評価・換算<br>差額等合計 |            |
| 当期首残高                   | 29,995 | 16,395,120 | 152,737          | 152,737        | 16,547,857 |
| 当期変動額                   |        |            |                  |                |            |
| 剰余金の配当                  |        | 392,347    |                  |                | 392,347    |
| 当期純利益                   |        | 1,417,976  |                  |                | 1,417,976  |
| 自己株式の取得                 | 78     | 78         |                  |                | 78         |
| 株主資本以外の項目の<br>当期変動額(純額) |        |            | 285,183          | 285,183        | 285,183    |
| 当期変動額合計                 | 78     | 1,025,550  | 285,183          | 285,183        | 1,310,734  |
| 当期末残高                   | 30,073 | 17,420,671 | 437,920          | 437,920        | 17,858,592 |

当事業年度(自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)

(単位：千円)

|                         | 株主資本      |           |           |         |           |            |            |
|-------------------------|-----------|-----------|-----------|---------|-----------|------------|------------|
|                         | 資本金       | 資本剰余金     |           | 利益剰余金   |           |            |            |
|                         |           | 資本準備金     | 資本剰余金合計   | 利益準備金   | その他利益剰余金  |            | 利益剰余金合計    |
|                         |           |           |           | 別途積立金   | 繰越利益剰余金   |            |            |
| 当期首残高                   | 1,159,170 | 1,333,000 | 1,333,000 | 137,800 | 4,310,000 | 10,510,775 | 14,958,575 |
| 当期変動額                   |           |           |           |         |           |            |            |
| 剰余金の配当                  |           |           |           |         |           | 588,515    | 588,515    |
| 当期純利益                   |           |           |           |         |           | 1,879,755  | 1,879,755  |
| 自己株式の取得                 |           |           |           |         |           |            |            |
| 株主資本以外の項目の<br>当期変動額(純額) |           |           |           |         |           |            |            |
| 当期変動額合計                 | -         | -         | -         | -       | -         | 1,291,239  | 1,291,239  |
| 当期末残高                   | 1,159,170 | 1,333,000 | 1,333,000 | 137,800 | 4,310,000 | 11,802,014 | 16,249,814 |

|                         | 株主資本   |            | 評価・換算差額等         |                | 純資産合計      |
|-------------------------|--------|------------|------------------|----------------|------------|
|                         | 自己株式   | 株主資本合計     | その他有価証券<br>評価差額金 | 評価・換算<br>差額等合計 |            |
| 当期首残高                   | 30,073 | 17,420,671 | 437,920          | 437,920        | 17,858,592 |
| 当期変動額                   |        |            |                  |                |            |
| 剰余金の配当                  |        | 588,515    |                  |                | 588,515    |
| 当期純利益                   |        | 1,879,755  |                  |                | 1,879,755  |
| 自己株式の取得                 | 1,279  | 1,279      |                  |                | 1,279      |
| 株主資本以外の項目の<br>当期変動額(純額) |        |            | 7,480            | 7,480          | 7,480      |
| 当期変動額合計                 | 1,279  | 1,289,960  | 7,480            | 7,480          | 1,297,441  |
| 当期末残高                   | 31,353 | 18,710,631 | 445,401          | 445,401        | 19,156,033 |

【注記事項】

(重要な会計方針)

1 有価証券の評価基準及び評価方法

(1) 子会社株式及び関連会社株式

移動平均法による原価法

(2) その他有価証券

市場価格のない株式等以外のもの

時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定しております。)

市場価格のない株式等

移動平均法による原価法

なお、投資事業有限責任組合(金融商品取引法第2条第2項により有価証券とみなされるもの)については、組合契約に規定される決算日に応じて入手可能な最近の決算書を基礎とし、持分相当額を純額で取り込む方法によっております。

2 棚卸資産の評価基準及び評価方法

商品

移動平均法による原価法(貸借対照表価額については収益性の低下による簿価切下げの方法)

3 デリバティブの評価基準及び評価方法

時価法

4 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産(リース資産を除く)

定額法

主な耐用年数

建物 3年～50年

車両運搬具 4年

工具、器具及び備品 3年～20年

(2) 無形固定資産(リース資産を除く)

自社利用のソフトウェアについては、社内における見込利用可能期間(5年)に基づく定額法を採用しております。

5 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は、期末日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。

6 引当金の計上基準

貸倒引当金

売上債権、貸付金等の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

## 7 収益及び費用の計上基準

当社は主として、電子計測器等の販売及び修理、校正、保守等を行っております。約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することとしております。

当社の顧客との契約から生じる収益に関する主要な事業における主な履行義務の内容及び当該履行義務を充足する通常の時点（収益を認識する通常の時点）は以下のとおりであります。

### (1) 商品の販売

国内における商品の販売については、「収益認識に関する会計基準の適用指針」第98項に定める代替的な取扱いを適用し、出荷時から当該商品の支配が顧客に移転される時までの期間が通常の期間である場合については、顧客への引き渡しにより顧客に当該商品の支配が移転し、履行義務が充足されるため、出荷時に収益を認識しております。それ以外の場合については、商品が顧客に検収されることにより顧客に当該商品の支配が移転し、履行義務が充足されるため、検収時に収益を認識しております。

商品の輸出販売については、顧客との契約に基づいた貿易条件により、商品に対するリスク負担が顧客に移転した時点で顧客に支配が移転し支配を獲得するため、当該時点で履行義務が充足されると判断し、収益を認識しております。

### (2) 修理・校正・保守等のサービスの提供

修理・校正・保守等のサービスの提供については、履行義務が一時点で充足される場合には、関連した商品の出荷時点で当該履行義務が充足されると判断し、収益を認識しております。また、履行義務が一定期間にわたり充足される場合には、時の経過に伴い当該履行義務が充足されると判断し、契約期間にわたって均等按分することにより収益を認識しております。

## 8 ヘッジ会計の方法

### (1) ヘッジ会計の方法

原則として繰延ヘッジ処理によっております。なお、振当処理の要件を満たしている為替予約については振当処理に、特例処理の要件を満たしている金利スワップについては特例処理によっております。

### (2) ヘッジ手段とヘッジ対象

ヘッジ手段とヘッジ対象は以下のとおりであります。

ヘッジ手段...為替予約

ヘッジ対象...商品輸出による外貨建売上債権、商品輸入による外貨建買入債務及び外貨建  
予定取引

ヘッジ手段...金利スワップ

ヘッジ対象...借入金の利息

### (3) ヘッジ方針

デリバティブ取引に関する権限規定及び取引限度額等を定めた内部規定に基づき、ヘッジ対象に係る為替変動リスク及び金利変動リスクを一定の範囲内でヘッジしております。

### (4) ヘッジ有効性評価の方法

為替予約については、締結時に、リスク管理方針に従って、外貨建による同一金額で同一期日の為替予約をそれぞれ振当てているため、その後の為替相場の変動による相関関係は完全に確保されているので決算日における有効性の評価を省略しております。

また、金利スワップは特例処理の要件を充たしており、その判定をもって有効性の評価に代えております。



(重要な会計上の見積り)

(政策的に保有する棚卸資産)

1 当事業年度の財務諸表に計上した金額

(単位：千円)

|    | 前事業年度   | 当事業年度     |
|----|---------|-----------|
| 商品 | 960,495 | 1,097,738 |

2 識別した項目に係る重要な会計上の見積りの内容に関する情報

1 の金額の算出方法は、連結財務諸表「注記事項(重要な会計上の見積り)(政策的に保有する棚卸資産)」の内容と同一であります。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を当事業年度の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することとしております。

これにより、従来は原則として商品又は製品の出荷時点で収益を認識しておりましたが、顧客が商品又は製品の支配を獲得した時点で収益を認識する方法に変更しております。なお、「収益認識に関する会計基準の適用指針」第98項に定める代替的な取扱いを適用し、商品又は製品の国内の販売において、出荷時から当該商品又は製品の支配が顧客に移転されるまでの期間が通常の間である場合には、出荷時に収益を認識しております。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、当事業年度の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、当事業年度の期首の繰越利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しております。ただし、収益認識会計基準第86項に定める方法を適用し、当事業年度の期首より前までに従前の取扱いに従ってほとんどすべての収益の額を認識した契約に、新たな会計方針を遡及適用していません。

この結果、当事業年度の売上高は1,254,997千円減少し、売上原価は1,067,387千円減少し、営業利益、経常利益及び税引前当期純利益はそれぞれ187,609千円減少しております。また、繰越利益剰余金の当期首残高に与える影響はありません。

収益認識会計基準等を適用したため、前事業年度の貸借対照表において、「流動負債」に表示していた「前受金」は、当事業年度より「契約負債」として表示しております。ただし、収益認識会計基準第89-2項に定める経過的な取扱いに従って、前事業年度について新たな表示方法により組替えを行っておりません。

当事業年度の1株当たり純資産額、1株当たり当期純利益はそれぞれ11円06銭減少しております。

なお、収益認識会計基準第89-3項に定める経過的な取扱いに従って、前事業年度に係る「収益認識関係」注記については記載していません。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を当事業年度の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することとしております。これによる財務諸表に与える影響はありません。

(表示方法の変更)

(貸借対照表)

前事業年度において、「関係会社株式」に含めていた「関係会社出資金」は明瞭性の観点から、当事業年度より独立掲記することとしました。この表示方法の変更を反映させるため、前事業年度の財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前事業年度の貸借対照表において、「投資その他の資産」の「関係会社株式」に表示していた2,566,832千円は、「関係会社株式」1,640,719千円、「関係会社出資金」926,112千円として組み替えております。

(追加情報)

(新型コロナウイルス感染症について)

新型コロナウイルス感染症拡大の影響が一定期間続くものとして、会計上の見積り及び仮定の設定を検討しております。しかしながら、新型コロナウイルス感染症拡大による影響は不確定要素が多く、今後の状況の変化によっては、将来における財務諸表において重要な影響を及ぼす可能性があります。

(貸借対照表関係)

受取手形割引高及び電子記録債権割引高

|           | 前事業年度<br>(2021年3月31日) | 当事業年度<br>(2022年3月31日) |
|-----------|-----------------------|-----------------------|
| 受取手形割引高   | 502,135千円             | 458,138千円             |
| 電子記録債権割引高 | 948,852千円             | 1,202,902千円           |

(損益計算書関係)

1 販売費及び一般管理費の主なもののうち主要な費目及び金額並びにおおよその割合は、次のとおりであります。

|         | 前事業年度<br>(自 2020年4月1日<br>至 2021年3月31日) | 当事業年度<br>(自 2021年4月1日<br>至 2022年3月31日) |
|---------|--|--|
| 給与手当    | 2,199,788千円                            | 2,352,778千円                            |
| 賞与      | 973,777千円                              | 1,039,981千円                            |
| 法定福利費   | 618,061千円                              | 639,857千円                              |
| 減価償却費   | 91,037千円                               | 112,027千円                              |
| おおよその割合 |  |  |
| 販売費     | 62%                                    | 59%                                    |
| 一般管理費   | 38%                                    | 41%                                    |

2 各科目に含まれている関係会社に対する営業外収益は、次のとおりであります。

|       | 前事業年度<br>(自 2020年4月1日<br>至 2021年3月31日) | 当事業年度<br>(自 2021年4月1日<br>至 2022年3月31日) |
|-------|--|--|
| 受取配当金 | 202,717千円                              | 33,383千円                               |

3 固定資産売却損の内訳は、次のとおりであります。

|       | 前事業年度<br>(自 2020年4月1日<br>至 2021年3月31日) | 当事業年度<br>(自 2021年4月1日<br>至 2022年3月31日) |
|-------|--|--|
| 車両運搬具 | - 千円                                   | 237千円                                  |

4 固定資産除却損の内訳は、次のとおりであります。

|           | 前事業年度<br>(自 2020年4月1日<br>至 2021年3月31日) | 当事業年度<br>(自 2021年4月1日<br>至 2022年3月31日) |
|-----------|--|--|
| 建物        | - 千円                                   | 0千円                                    |
| 工具、器具及び備品 | 73千円                                   | 112千円                                  |
| 計         | 73千円                                   | 112千円                                  |

(有価証券関係)

子会社株式、子会社出資金及び関連会社株式

前事業年度(2021年3月31日)

時価を把握することが極めて困難と認められる子会社株式及び関連会社株式の貸借対照表計上額

(単位:千円)

| 区分     | 2021年3月31日 |
|--------|------------|
| 子会社株式  | 1,618,452  |
| 子会社出資金 | 926,112    |
| 関連会社株式 | 22,266     |

当事業年度(2022年3月31日)

市場価格のない株式等の貸借対照表計上額

(単位:千円)

| 区分     | 2022年3月31日 |
|--------|------------|
| 子会社株式  | 1,618,452  |
| 子会社出資金 | 926,112    |
| 関連会社株式 | 22,266     |

(税効果会計関係)

1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

|              | 前事業年度<br>(2021年3月31日) | 当事業年度<br>(2022年3月31日) |
|--------------|-----------------------|-----------------------|
| 繰延税金資産       |                       |                       |
| 未払事業税        | 25,713千円              | 35,476千円              |
| 未払賞与         | 92,509千円              | 91,724千円              |
| 貸倒引当金        | 4,253千円               | 18,200千円              |
| 関係会社株式評価損    | 157,617千円             | 157,617千円             |
| 投資有価証券評価損    | 45,139千円              | 40,341千円              |
| その他          | 55,461千円              | 60,210千円              |
| 繰延税金資産小計     | 380,696千円             | 403,571千円             |
| 評価性引当額       | 241,492千円             | 246,020千円             |
| 繰延税金資産合計     | 139,203千円             | 157,550千円             |
| 繰延税金負債       |                       |                       |
| その他有価証券評価差額金 | 146,366千円             | 160,957千円             |
| 繰延税金負債合計     | 146,366千円             | 160,957千円             |
| 繰延税金負債純額     | 7,162千円               | 3,407千円               |

2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳

前事業年度及び当事業年度は、法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間の差異が法定実効税率の100分の5以下であるため注記を省略しております。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を理解するための基礎となる情報は、連結財務諸表「注記事項(収益認識関係)」に同一の内容を記載しているため、注記を省略しております。

(重要な後発事象)

ストックオプション

連結財務諸表「注記事項(重要な後発事象)」に記載しているため、記載を省略しております。

【附属明細表】

【有形固定資産等明細表】

(単位：千円)

| 資産の種類     | 当期首残高     | 当期増加額   | 当期減少額  | 当期末残高     | 当期末減価<br>償却累計額<br>又は<br>償却累計額 | 当期償却額  | 差引<br>当期末残高 |
|-----------|-----------|---------|--------|-----------|-------------------------------|--------|-------------|
| 有形固定資産    |           |         |        |           |                               |        |             |
| 建物        | 2,545,886 | 1,187   | 1,851  | 2,545,221 | 308,945                       | 50,803 | 2,236,276   |
| 構築物       | 14,337    | -       | -      | 14,337    | 12,869                        | 207    | 1,468       |
| 車両運搬具     | 11,020    | 3,313   | 7,220  | 7,113     | 4,297                         | 497    | 2,816       |
| 工具、器具及び備品 | 341,280   | 66,271  | 5,456  | 402,094   | 230,375                       | 38,948 | 171,719     |
| 土地        | 1,315,789 | -       | -      | 1,315,789 | -                             | -      | 1,315,789   |
| リース資産     | 11,725    | -       | -      | 11,725    | 5,078                         | 1,936  | 6,646       |
| 建設仮勘定     | 26,006    | 130,300 | 26,006 | 130,300   | -                             | -      | 130,300     |
| 有形固定資産計   | 4,266,045 | 201,072 | 40,534 | 4,426,582 | 561,565                       | 92,391 | 3,865,016   |
| 無形固定資産    |           |         |        |           |                               |        |             |
| 借地権       | 3,806     | -       | -      | 3,806     | -                             | -      | 3,806       |
| ソフトウェア    | 156,926   | 130,869 | -      | 287,796   | 149,256                       | 17,026 | 138,539     |
| ソフトウェア仮勘定 | -         | 48,168  | -      | 48,168    | -                             | -      | 48,168      |
| その他       | 15,315    | -       | -      | 15,315    | -                             | -      | 15,315      |
| 無形固定資産計   | 176,047   | 179,037 | -      | 355,085   | 149,256                       | 17,026 | 205,829     |

【引当金明細表】

(単位：千円)

| 区分    | 当期首残高  | 当期増加額  | 当期減少額<br>(目的使用) | 当期減少額<br>(その他) | 当期末残高  |
|-------|--------|--------|-----------------|----------------|--------|
| 貸倒引当金 | 13,891 | 48,327 | -               | 2,778          | 59,440 |

(注) 貸倒引当金の「当期減少額(その他)」欄の金額は、一般債権の貸倒実績率による洗替額等であります。

(2) 【主な資産及び負債の内容】

連結財務諸表を作成しているため、記載を省略しております。

(3) 【その他】

該当事項はありません。

## 第6 【提出会社の株式事務の概要】

|            |  |
|------------|--|
| 事業年度       | 4月1日から3月31日まで  |
| 定時株主総会     | 6月中  |
| 基準日        | 3月31日  |
| 剰余金の配当の基準日 | 9月30日、3月31日  |
| 1単元の株式数    | 100株   |
| 単元未満株式の買取り | (特別口座)   |
| 取扱場所       | 東京都千代田区神田錦町三丁目11番地 NMF竹橋ビル6階<br>東京証券代行株式会社 本店  |
| 株主名簿管理人    | 東京都千代田区神田錦町三丁目11番地 NMF竹橋ビル6階<br>東京証券代行株式会社   |
| 取次所        | -  |
| 買取手数料      | 無料   |
| 公告掲載方法     | 当会社の公告方法は、電子公告とする。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行う。なお、電子公告は当会社のホームページに掲載しており、そのアドレスは次のとおりです。<br><a href="http://www.n-denkei.co.jp">http://www.n-denkei.co.jp</a> |
| 株主に対する特典   | なし   |

(注) 当会社の株主は、その有する単元未満株式について、次に掲げる権利以外の権利を行使することができない。  
 会社法第189条第2項各号に掲げる権利  
 会社法第166条第1項の規定による請求をする権利  
 株主の有する株式数に応じて募集株式の割当て及び募集新株予約権の割当てを受ける権利

## 第7 【提出会社の参考情報】

### 1 【提出会社の親会社等の情報】

当社には、親会社等はありません。

### 2 【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

#### (1) 有価証券報告書及びその添付書類並びに確認書

事業年度 第76期(自 2020年4月1日 至 2021年3月31日) 2021年6月28日関東財務局長に提出。

#### (2) 内部統制報告書及びその添付書類

2021年6月28日関東財務局長に提出。

#### (3) 四半期報告書及び確認書

第77期第1四半期(自 2021年4月1日 至 2021年6月30日) 2021年8月6日関東財務局長に提出。

第77期第2四半期(自 2021年7月1日 至 2021年9月30日) 2021年11月11日関東財務局長に提出。

第77期第3四半期(自 2021年10月1日 至 2021年12月31日) 2022年2月9日関東財務局長に提出。

#### (4) 臨時報告書

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2(株主総会における議決権行使の結果)の規定に基づく臨時報告書

2021年7月1日関東財務局長に提出。

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号(代表取締役の異動)の規定に基づく臨時報告書

2022年3月11日関東財務局長に提出。

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の4(監査公認会計士等の異動)の規定に基づく臨時報告書

2022年5月16日関東財務局長に提出。

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

2022年 6月27日

日本電計株式会社  
取締役会 御中

### アーク有限責任監査法人

東京オフィス

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 吉 村 淳 一

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 村 瀬 征 雄

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 八 巻 優 太

#### < 財務諸表監査 >

##### 監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている日本電計株式会社の2021年4月1日から2022年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、日本電計株式会社及び連結子会社の2022年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

##### 監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「連結財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。



監査上の主要な検討事項

監査上の主要な検討事項とは、当連結会計年度の連結財務諸表の監査において、監査人が職業的専門家として特に重要であると判断した事項である。監査上の主要な検討事項は、連結財務諸表全体に対する監査の実施過程及び監査意見の形成において対応した事項であり、当監査法人は、当該事項に対して個別に意見を表明するものではない。

| 日本電計株式会社における政策的に保有する棚卸資産の評価  |  |
|--|--|
| 監査上の主要な検討事項の内容及び決定理由   | 監査上の対応   |
| <p>会社は、連結財務諸表 注記事項（重要な会計上の見積り）（政策的に保有する棚卸資産）に記載のとおり、当連結会計年度の連結貸借対照表に政策的に保有する商品を1,097,738千円計上しており、当該金額は棚卸資産の25.6%を占めている。また、連結財務諸表 注記事項（連結損益計算書関係）2に記載のとおり、当連結会計年度において、収益性の低下に伴う棚卸資産評価損を31,413千円計上している。</p> <p>会社は、電子計測器や環境試験機等の販売及び修理、校正等の事業を営んでおり、主要市場である自動車業界や電子・電機業界など幅広い顧客に対する電子計測器や環境試験機等を取り扱うため、棚卸資産の種類は多岐にわたっており、また、政策的に多くの電子計測器や環境試験機等を保有している。これらの棚卸資産は、ライフサイクルが長く、販売までの期間が長期間となることが多い。</p> <p>会社は政策的に保有する棚卸資産の評価に当たって、過去の販売実績等より収益性の低下が認められる商品及び営業循環過程から外れた商品について、当該商品を抽出し、過年度の販売実績、受注状況、新商品との取替等を踏まえて一定の仮定に基づき将来の販売見込みを評価し、棚卸資産評価損を計上している。</p> <p>経営者による棚卸資産の評価は、多品種の棚卸資産を対象として個々の特性に応じて行うため、見積りの要素が大きいうえに、長期間にわたる将来の販売可能性に係る見積りとなることから、一定の不確実性があり、当該事項が棚卸資産の評価に重要な影響を及ぼす。</p> <p>上記の理由から、当監査法人は、棚卸資産の評価を監査上の主要な検討事項に該当すると判断した。</p> | <p>当監査法人は、棚卸資産の評価を検討するに当たり、主として以下の監査手続を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・経営者による棚卸資産の評価に関する内部統制を理解し、整備及び運用状況の有効性の評価手続を実施した。</li> <li>・棚卸資産の評価において使用するデータについて、監査法人内のITの専門家と連携して、その正確性と網羅性を検証した。</li> <li>・事業環境や棚卸資産の主な種別ごとの販売計画や販売状況を把握するために、取締役会及び経営会議の議事録の閲覧及び経営者等への質問を実施した。</li> <li>・収益性及び販売可能性に関する過年度の見積りと実績を比較し、経営者による見積りの精度を評価した。</li> <li>・収益性の低下が認められる商品及び営業循環過程から外れた商品について、将来の販売可能性に関する経営者の仮定に基づく見積りが、過年度の販売実績や営業担当者の顧客との交渉状況等を反映した受注の状況や新商品との取替の有無等を踏まえた合理的なものになっているかどうかを検証した。</li> </ul> |

その他の記載内容

その他の記載内容は、有価証券報告書に含まれる情報のうち、連結財務諸表及び財務諸表並びにこれらの監査報告書以外の情報である。経営者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。また、監査等委員会の責任は、その他の記載内容の報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

当監査法人の連結財務諸表に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、当監査法人はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

連結財務諸表監査における当監査法人の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と連結財務諸表又は当監査法人が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうか検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

当監査法人は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、当監査法人が報告すべき事項はない。

連結財務諸表に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

## 連結財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての連結財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、連結財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 連結財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として連結財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、連結財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。
- ・ 連結財務諸表に対する意見を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する十分かつ適切な監査証拠を入手する。監査人は、連結財務諸表の監査に関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査意見に対して責任を負う。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

監査人は、監査等委員会と協議した事項のうち、当連結会計年度の連結財務諸表の監査で特に重要であると判断した事項を監査上の主要な検討事項と決定し、監査報告書において記載する。ただし、法令等により当該事項の公表が禁止されている場合や、極めて限定的ではあるが、監査報告書において報告することにより生じる不利益が公共の利益を上回ると合理的に見込まれるため、監査人が報告すべきでないと判断した場合は、当該事項を記載しない。

## < 内部統制監査 >

### 監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、日本電計株式会社の2022年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。

当監査法人は、日本電計株式会社が2022年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

### 監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準における当監査法人の責任は、「内部統制監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

### 内部統制報告書に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

監査等委員会の責任は、財務報告に係る内部統制の整備及び運用状況を監視、検証することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

### 内部統制監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した内部統制監査に基づいて、内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、内部統制監査報告書において独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための監査手続を実施する。内部統制監査の監査手続は、監査人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。
- ・ 財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討する。
- ・ 内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果に関する十分かつ適切な監査証拠を入手する。監査人は、内部統制報告書の監査に関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査意見に対して責任を負う。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した内部統制監査の範囲とその実施時期、内部統制監査の実施結果、識別した内部統制の開示すべき重要な不備、その是正結果、及び内部統制の監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

### 利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- 
- (注) 1. 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。  
2. XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

## 独立監査人の監査報告書

2022年 6月27日

日本電計株式会社  
取締役会 御中

### アーク有限責任監査法人

東京オフィス

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 吉 村 淳 一

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 村 瀬 征 雄

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 八 巻 優 太

#### 監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている日本電計株式会社の2021年4月1日から2022年3月31日までの第77期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、日本電計株式会社の2022年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### 監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

#### 監査上の主要な検討事項

監査上の主要な検討事項とは、当事業年度の財務諸表の監査において、監査人が職業的専門家として特に重要であると判断した事項である。監査上の主要な検討事項は、財務諸表全体に対する監査の実施過程及び監査意見の形成において対応した事項であり、当監査法人は、当該事項に対して個別に意見を表明するものではない。

#### 政策的に保有する棚卸資産の評価

会社は、財務諸表注記事項（重要な会計上の見積り）（政策的に保有する棚卸資産）に記載のとおり、当事業年度の貸借対照表に政策的に保有する棚卸資産を1,097,738千円計上している。

当該事項について、監査人が監査上の主要な検討事項と決定した理由及び監査上の対応は、連結財務諸表の監査報告書に記載されている監査上の主要な検討事項（日本電計株式会社における政策的に保有する棚卸資産の評価）と同一内容であるため、記載を省略している。

#### その他の記載内容

その他の記載内容は、有価証券報告書に含まれる情報のうち、連結財務諸表及び財務諸表並びにこれらの監査報告書以外の情報である。経営者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。また、監査等委員会の責任は、その他の記載内容の報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

当監査法人の財務諸表に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、当監査法人はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

財務諸表監査における当監査法人の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と財務諸表又は当監査法人が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうかを検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

当監査法人は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、当監査法人が報告すべき事項はない。

#### 財務諸表に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業的前提に基づき財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

#### 財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業的前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業的前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表の注記事項が適切でない場合は、財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表の表示、構成及び内容、並びに財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

監査人は、監査等委員会と協議した事項のうち、当事業年度の財務諸表の監査で特に重要であると判断した事項を監査上の主要な検討事項と決定し、監査報告書において記載する。ただし、法令等により当該事項の公表が禁止されている場合や、極めて限定的ではあるが、監査報告書において報告することにより生じる不利益が公共の利益を上回ると合理的に見込まれるため、監査人が報告すべきでないと判断した場合は、当該事項を記載しない。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。

2. XBRLデータは監査の対象には含まれていません。